Ⅰ　調査の概要〔市民対象〕

１ 調査目的

・ 市民の男女共同参画に関する意識を把握し、男女共同参画施策の課題、効果等を検証し、今後の施策及び新たな「男女共同参画プラン」の基礎資料とする。
・ 前回の調査（平成 26 年度実施）と比較し、その間の推移と現在の状況をみる。

２ 調査設計

（1） 調査対象　18 歳以上の市民

（2） 調査規模　2,000 人（男女 1,000 人ずつ）を住民基本台帳より無作為抽出

（3） 調査方法　郵送配布・郵送回収 （葉書による督促1回）

（4） 調査項目　男女共同参画・男女平等
地域・社会活動
女性の就業と労働環境
家庭生活（子育て、介護等）
配偶者、恋人などからの暴力
ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）
男女共同参画推進に関する施策
男女共同参画推進に関する意見（記述）

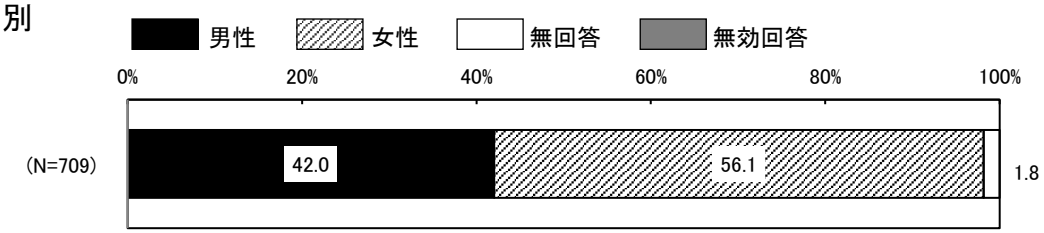
３ 実施時期　令和元年 11～12 月

４ 調査主体　鳥取市 （総務部人権政策局男女共同参画課）

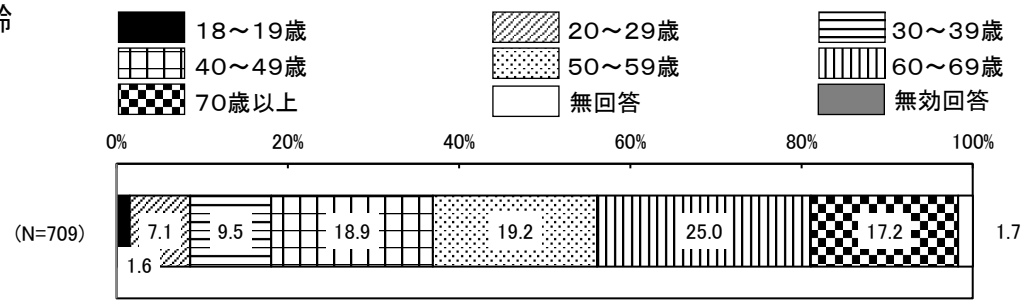
５ 回収結果　回収数　709 人 （男性 298 人、女性 398 人、不明 13 件）
回収率　35.5％ （男性 29.8％、女性 39.8％）

６ 回答者の属性

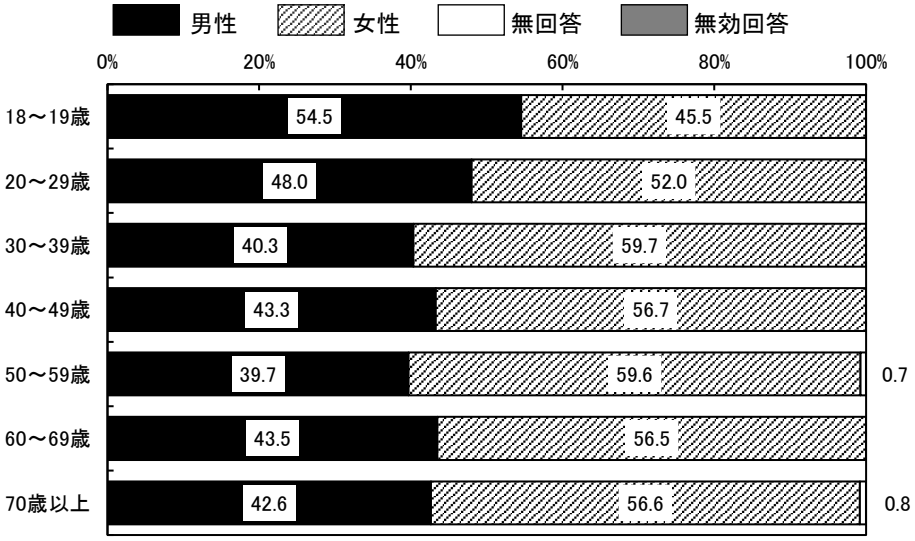
（1）性 別



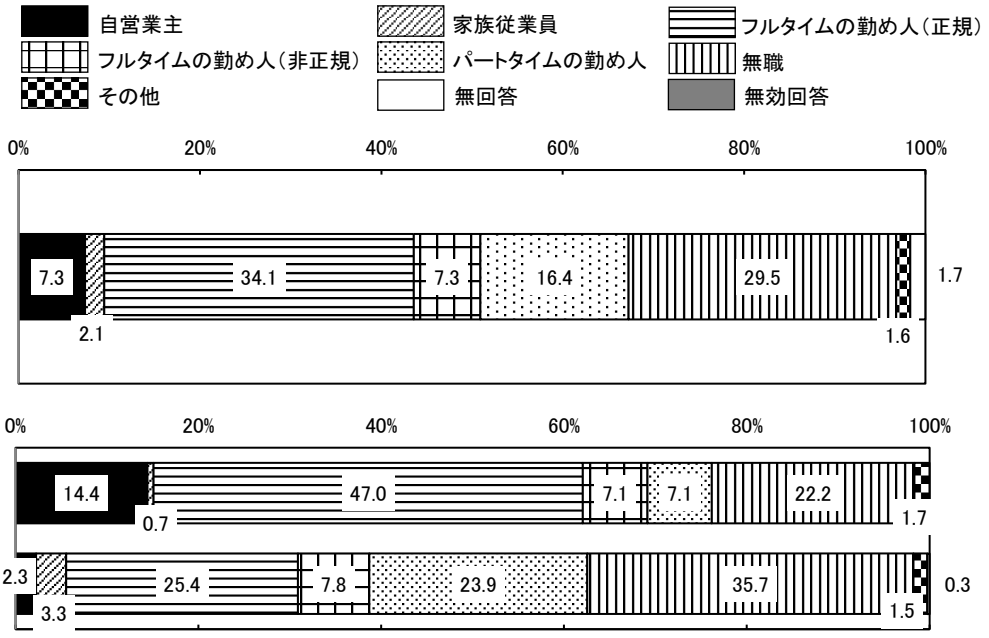
（2）年 齢



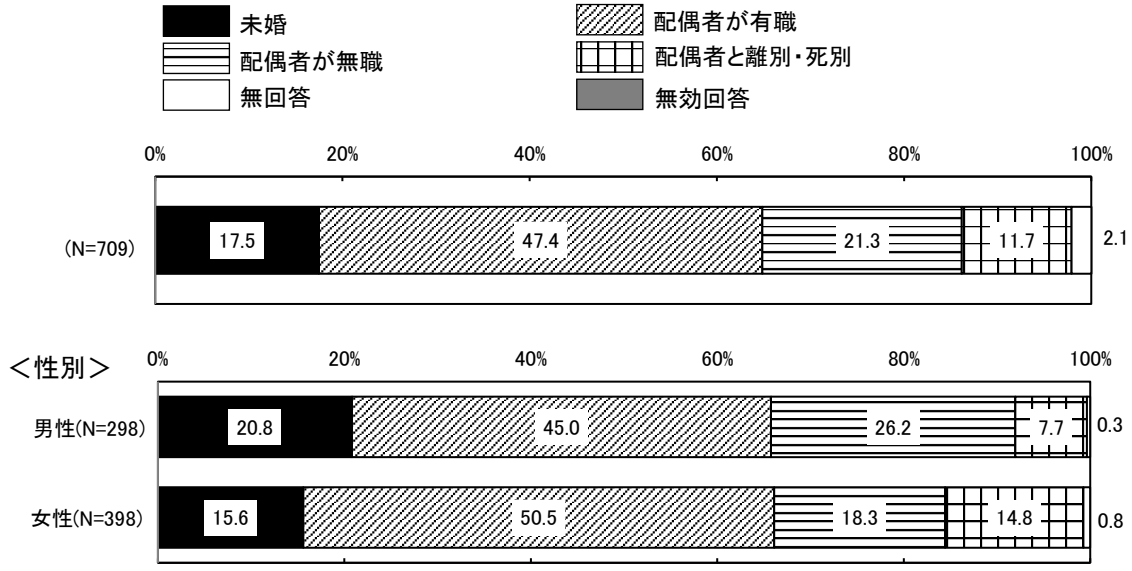
【年齢別の男女構成比】



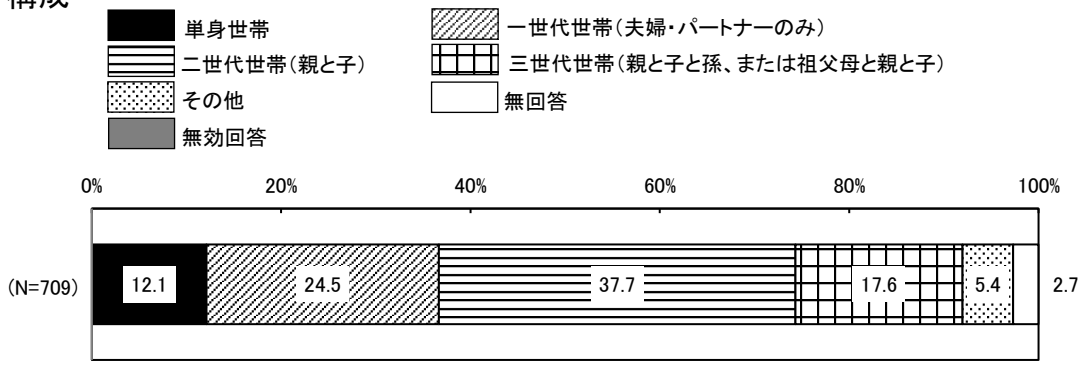
（3）職 業



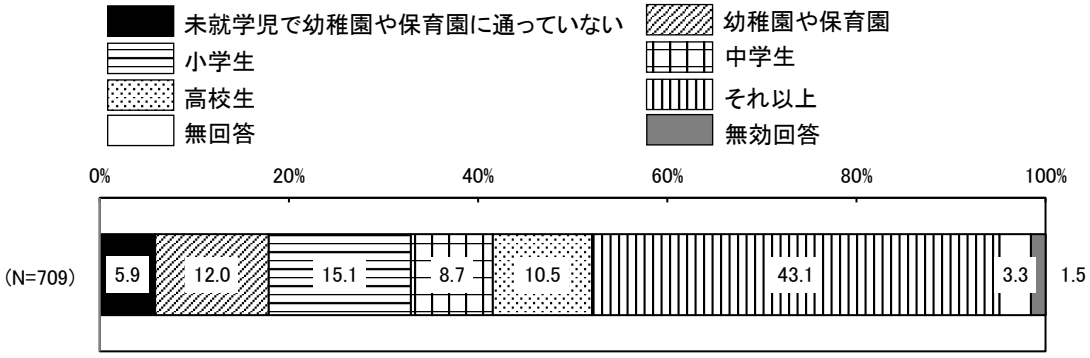
（4）配偶関係



（5）世帯構成



（6）一番下の子、孫



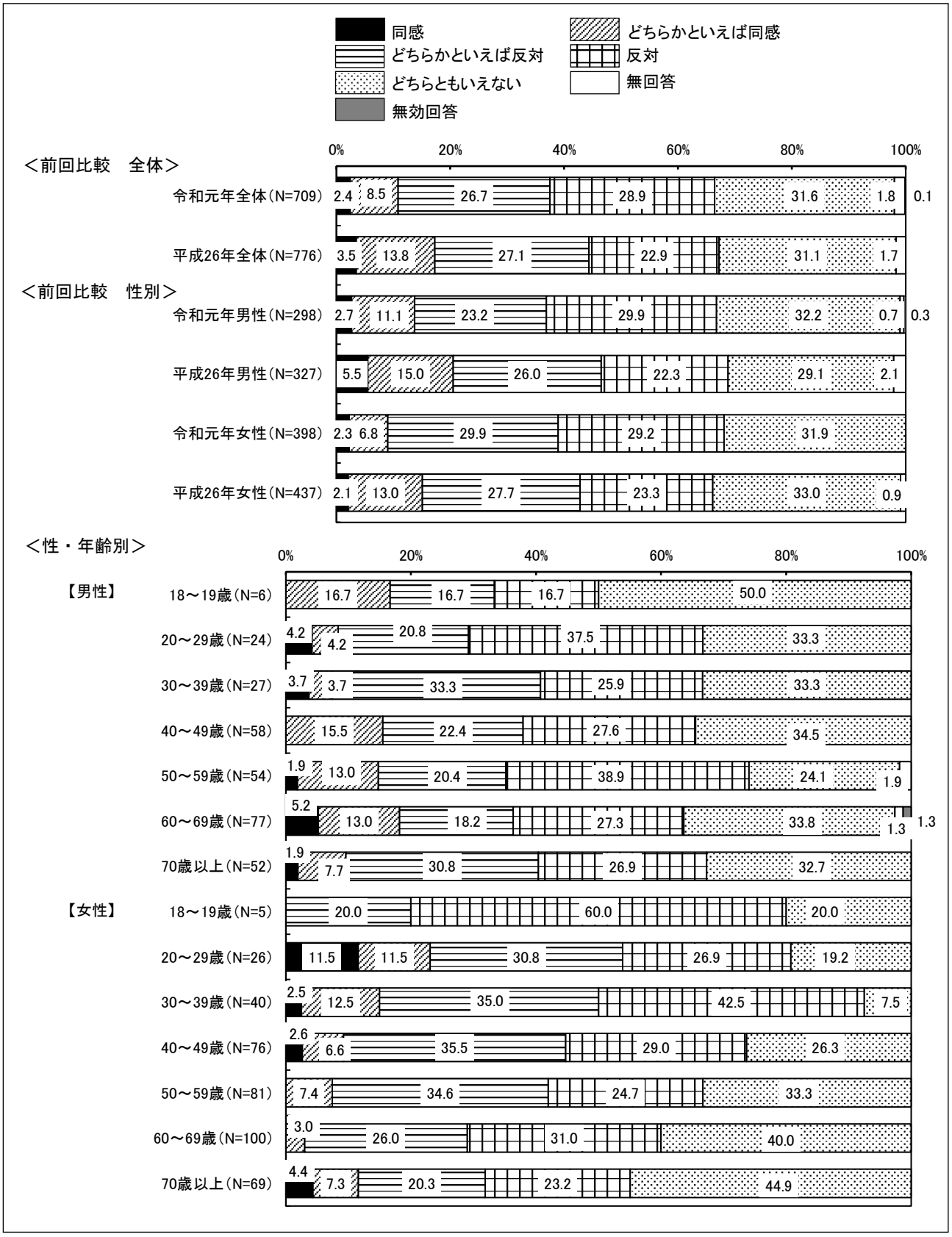
Ⅱ　調査の結果

1　男女共同参画・男女平等

（1）男女の役割分担意識

①　固定的な性別役割分担について

問１「男は仕事、女は家庭」という考え方についてどのように思いますか。（○は１つ）



“男は仕事、女は家庭”という固定的な性別役割分担について、全体では「どちらともいえない」が 31.6％で最も高い。また、「どちらかといえば反対」または「反対」（以下、「否定」）が 55.6％で、「同感」または「どちらかといえば同感」（以下、「肯定」）が 10.9％と、「否定」の方が 44.7 ポイント高い。

前回調査と比べると、「否定」の割合が 5.6 ポイント高くなっている。

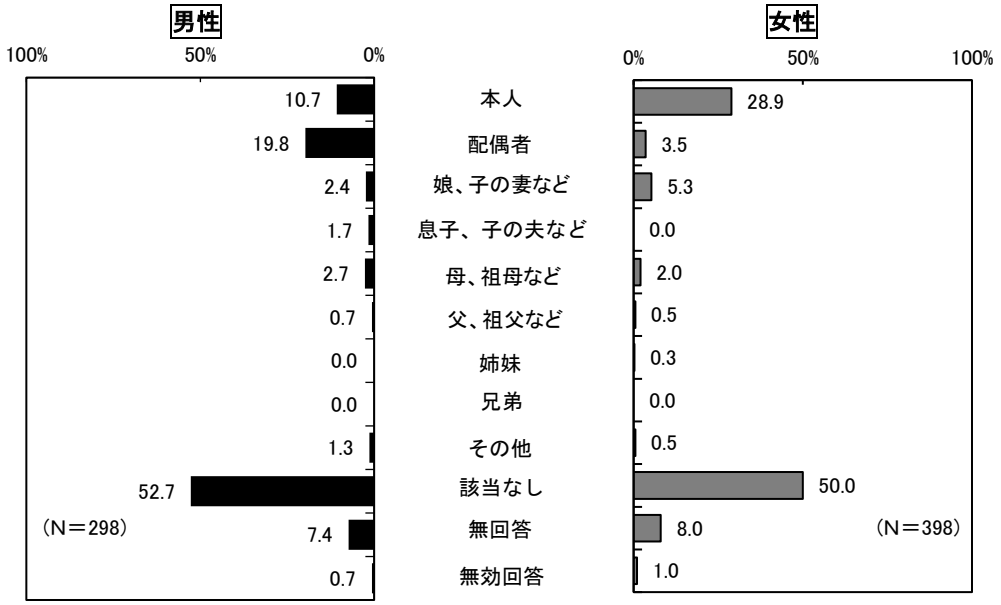
性別にみると、「肯定」の割合が男性では 13.8％で、女性では 9.1％と、男性の方が 4.7 ポイント高い。

性・年齢別にみると、「否定」が男性では 18～19 歳以外の年齢層、女性では 70 歳以上以外の年齢層で 50％以上である。また、「肯定」の割合が男性では 60 歳代（18.2％）が最も高く、女性では 20 歳代（23.0％）が最も高い。また、18～19 歳は「反対」の割合の男女差が大きい。

② 家庭での役割分担

問 2-1 家庭での役割について主に誰がしていますか。（(1)～(11)について○は 1 つずつ）

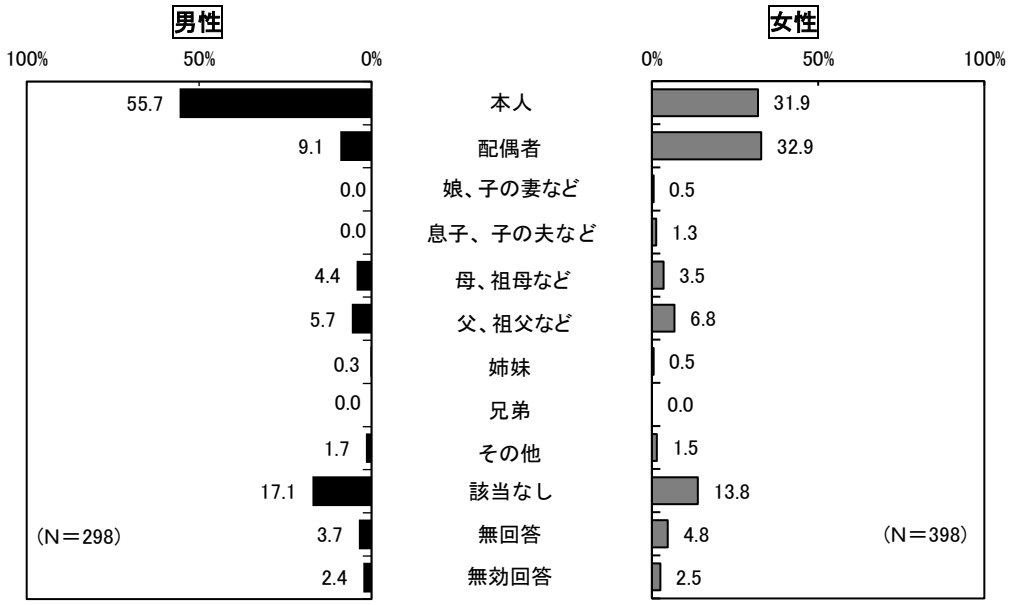
〔学校等の行事への出席〕 (1)



男性では、女性である「配偶者」「娘、子の妻など」「母、祖母など」「姉妹」の合計が 24.9%で、男性である「本人」「息子、子の夫など」「父、祖父など」「兄弟」の合計が 13.1%と、女性の方が 11.8 ポイント高い。

女性では、女性である「本人」「娘、子の妻など」「母、祖母など」「姉妹」の合計が 36.5%で、男性である「配偶者」「息子、子の夫など」「父、祖父など」「兄弟」の合計が 4.0%と、女性の方が 32.5 ポイント高い。

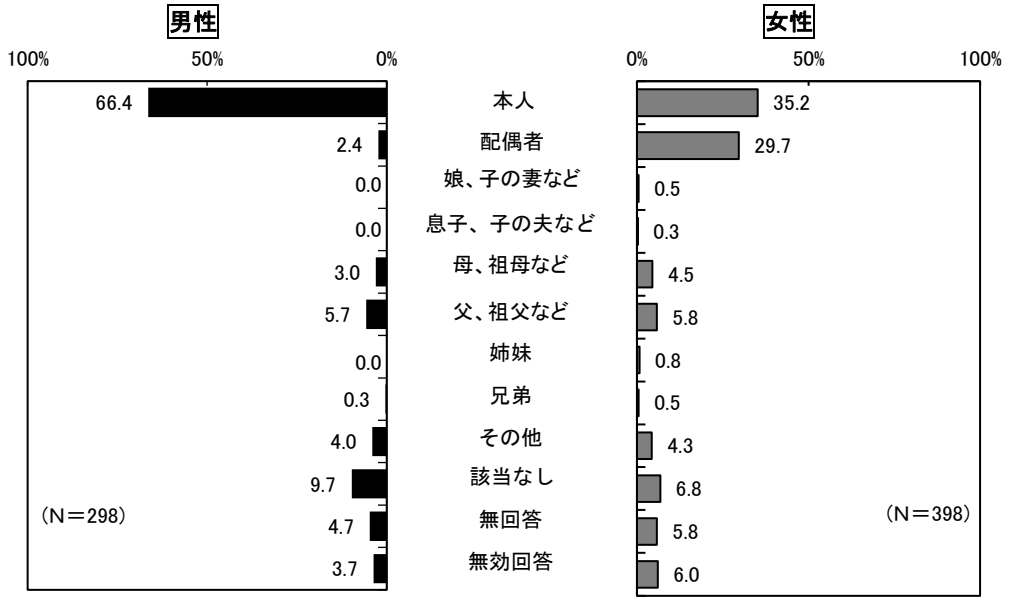
〔町内会等の行事への出席〕 (2)



男性では、男性である「本人」「息子、子の夫など」「父、祖父など」「兄弟」の合計が 61.4%で、女性である「配偶者」「娘、子の妻など」「母、祖母など」「姉妹」の合計が 13.8%と、男性の方が 47.6 ポイント高い。

女性では、男性である「配偶者」「息子、子の夫など」「父、祖父など」「兄弟」の合計が 41.0%で、女性である「本人」「娘、子の妻など」「母、祖母など」「姉妹」の合計が 36.4%と、男性の方が 4.6 ポイント高い。

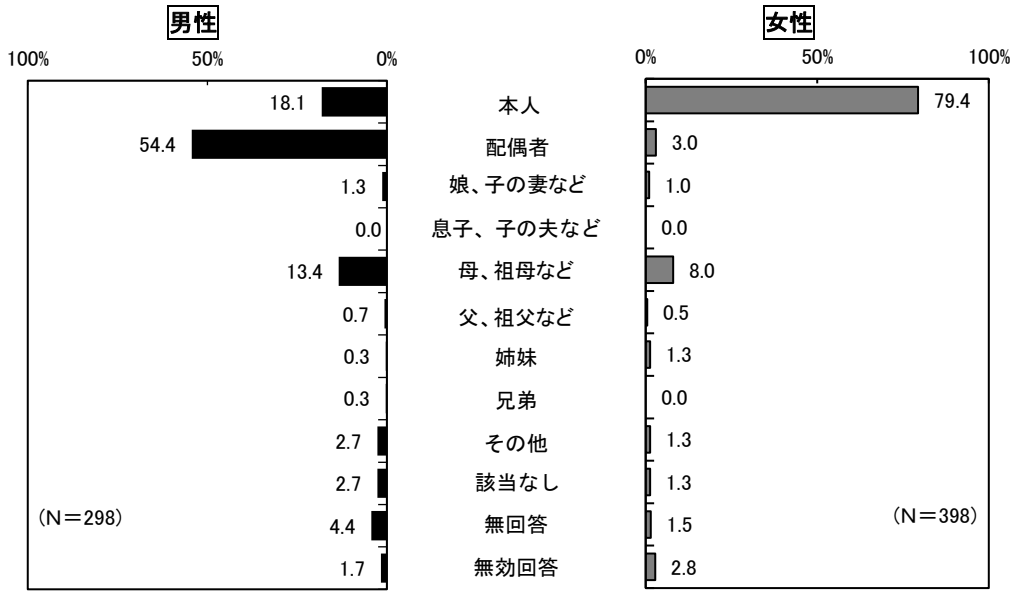
〔冠婚葬祭への出席〕 (3)



男性では、男性である「本人」「息子、子の夫など」「父、祖父など」「兄弟」の合計が 72.4%で、女性である「配偶者」「娘、子の妻など」「母、祖母など」「姉妹」の合計が 5.4%と、男性の方が 67.0 ポイント高い。

女性では、女性である「本人」「娘、子の妻など」「母、祖母など」「姉妹」の合計が 41.0%で、男性である「配偶者」「息子、子の夫など」「父、祖父など」「兄弟」の合計が 36.3%と、女性の方が 4.7 ポイント高い。

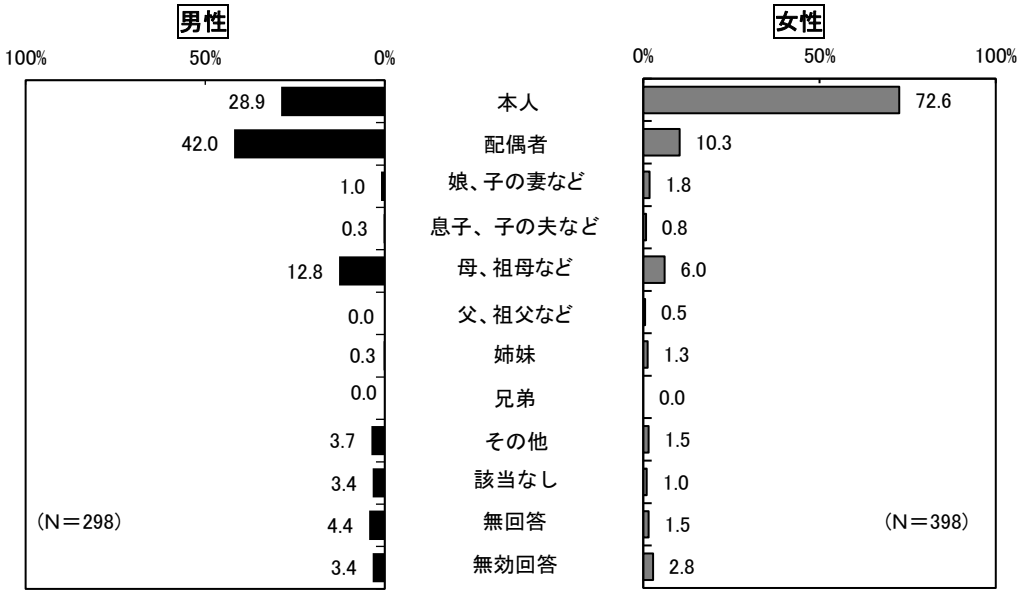
〔食事づくり〕 (4)



男性では、女性である「配偶者」「娘、子の妻など」「母、祖母など」「姉妹」の合計が 69.4%で、男性である「本人」「息子、子の夫など」「父、祖父など」「兄弟」の合計が 19.1%と、女性の方が 50.3 ポイント高い。

女性では、女性である「本人」「娘、子の妻など」「母、祖母など」「姉妹」の合計が 89.7%で、男性である「配偶者」「息子、子の夫など」「父、祖父など」「兄弟」の合計が 3.5%と、女性の方が 86.2 ポイント高い。

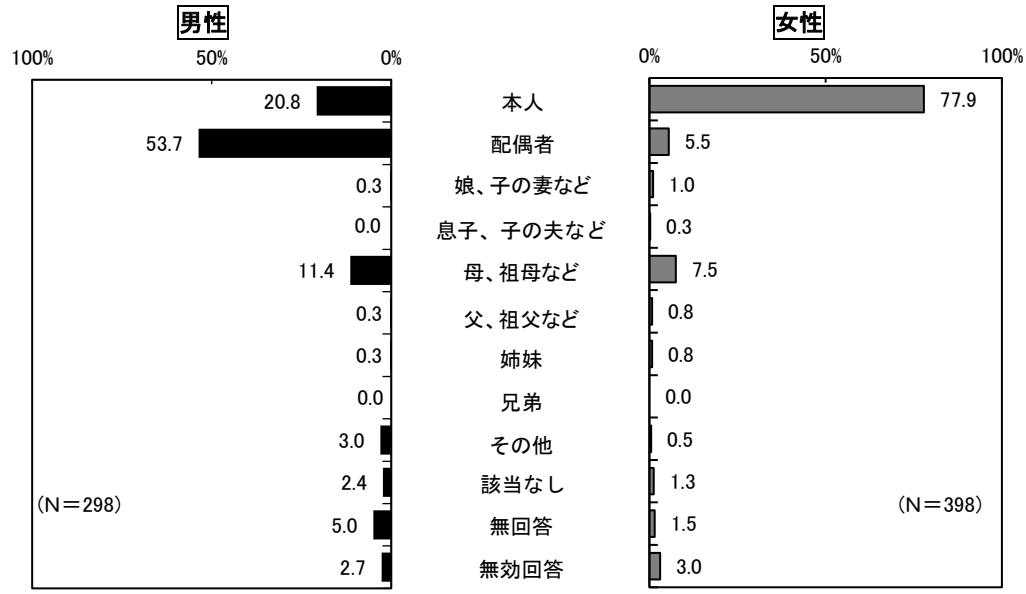
〔食器等の後片付け〕 (5)



男性では、女性である「配偶者」「娘、子の妻など」「母、祖母など」「姉妹」の合計が 56.1%で、男性である「本人」「息子、子の夫など」「父、祖父など」「兄弟」の合計が 29.2%と、女性の方が 26.9 ポイント高い。

女性では、女性である「本人」「娘、子の妻など」「母、祖母など」「姉妹」の合計が 81.7%で、男性である「配偶者」「息子、子の夫など」「父、祖父など」「兄弟」の合計が 11.6%と、女性の方が 70.1 ポイント高い。

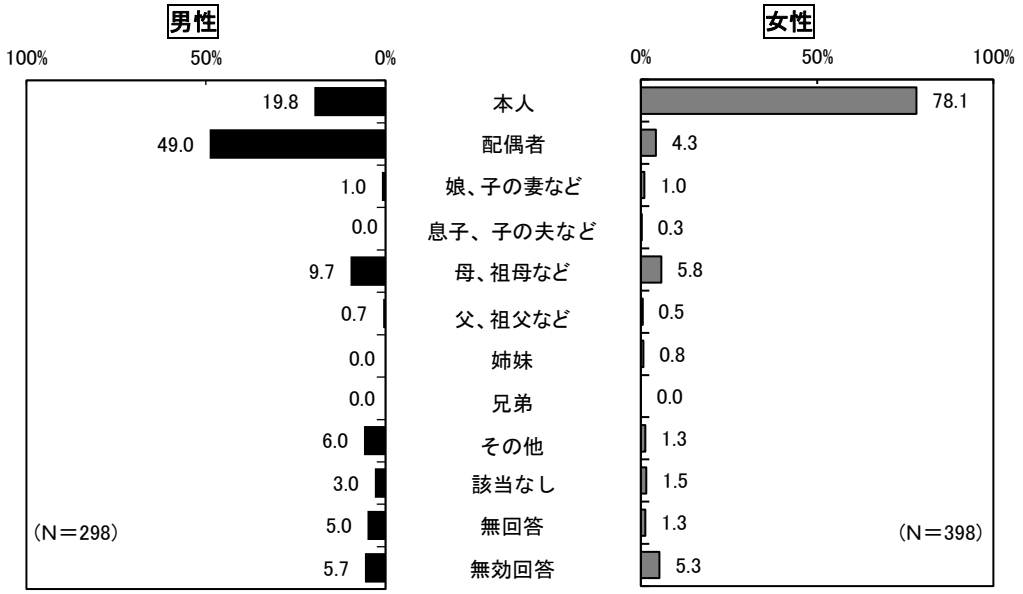
〔洗濯〕 (6)



男性では、女性である「配偶者」「娘、子の妻など」「母、祖母など」「姉妹」の合計が 65.7%で、男性である「本人」「息子、子の夫など」「父、祖父など」「兄弟」の合計が 21.1%と、女性の方が 44.6 ポイント高い。

女性では、女性である「本人」「娘、子の妻など」「母、祖母など」「姉妹」の合計が 87.2%で、男性である「配偶者」「息子、子の夫など」「父、祖父など」「兄弟」の合計が 6.6%と、女性の方が 80.6 ポイント高い。

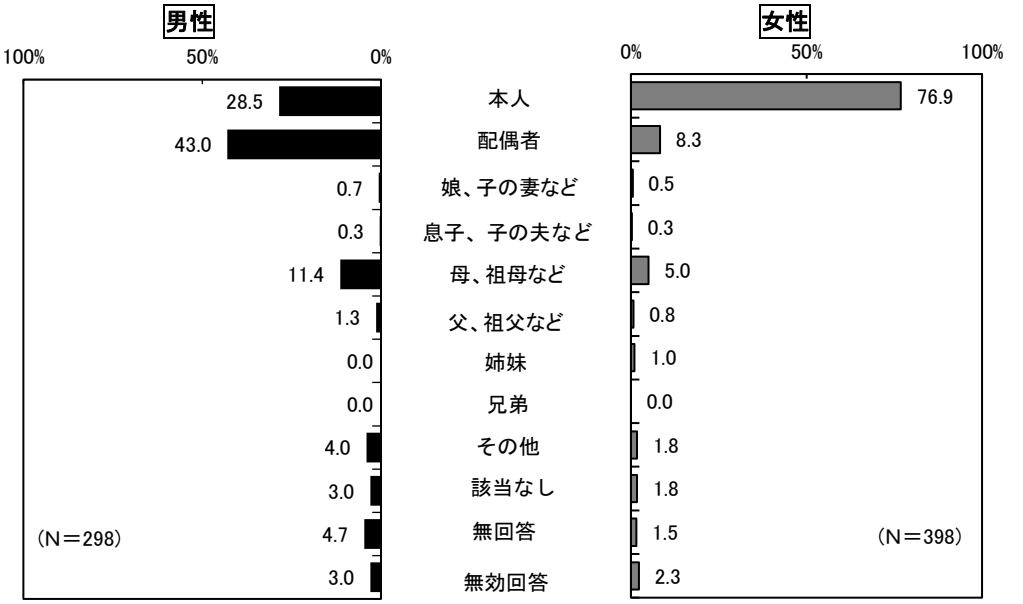
〔買い物〕 (7)



男性では、女性である「配偶者」「娘、子の妻など」「母、祖母など」「姉妹」の合計が 59.7%で、男性である「本人」「息子、子の夫など」「父、祖父など」「兄弟」の合計が 20.5%と、女性の方が 39.2 ポイント高い。

女性では、女性である「本人」「娘、子の妻など」「母、祖母など」「姉妹」の合計が 85.7%で、男性である「配偶者」「息子、子の夫など」「父、祖父など」「兄弟」の合計が 5.1%と、女性の方が 80.6 ポイント高い。

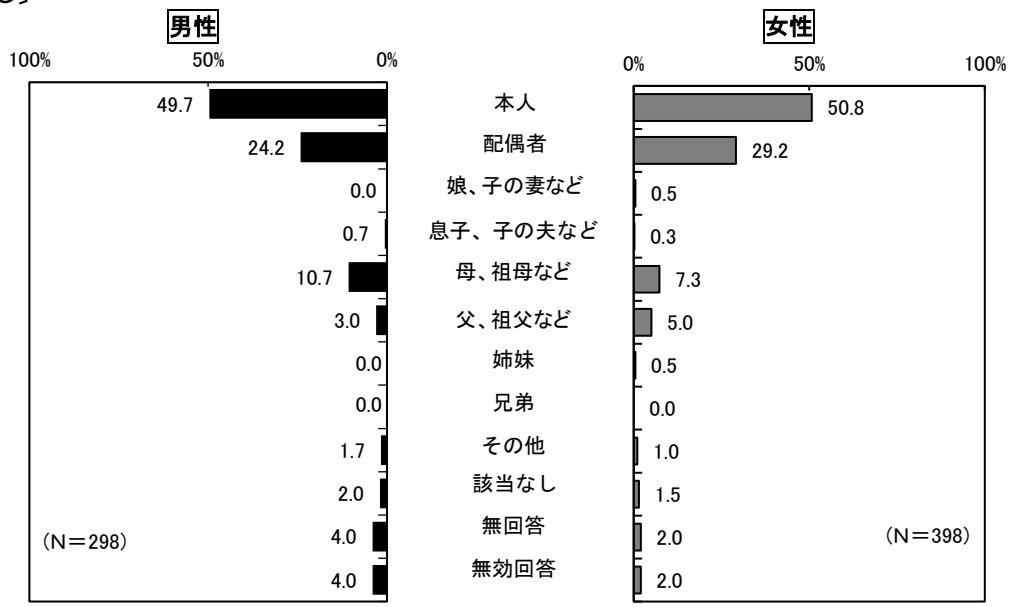
〔掃除〕 (8)



男性では、女性である「配偶者」「娘、子の妻など」「母、祖母など」「姉妹」の合計が 55.1%で、男性である「本人」「息子、子の夫など」「父、祖父など」「兄弟」の合計が 30.1%と、女性の方が 25.0 ポイント高い。

女性では、女性である「本人」「娘、子の妻など」「母、祖母など」「姉妹」の合計が 83.4%で、男性である「配偶者」「息子、子の夫など」「父、祖父など」「兄弟」の合計が 9.4%と、女性の方が 74.0 ポイント高い。

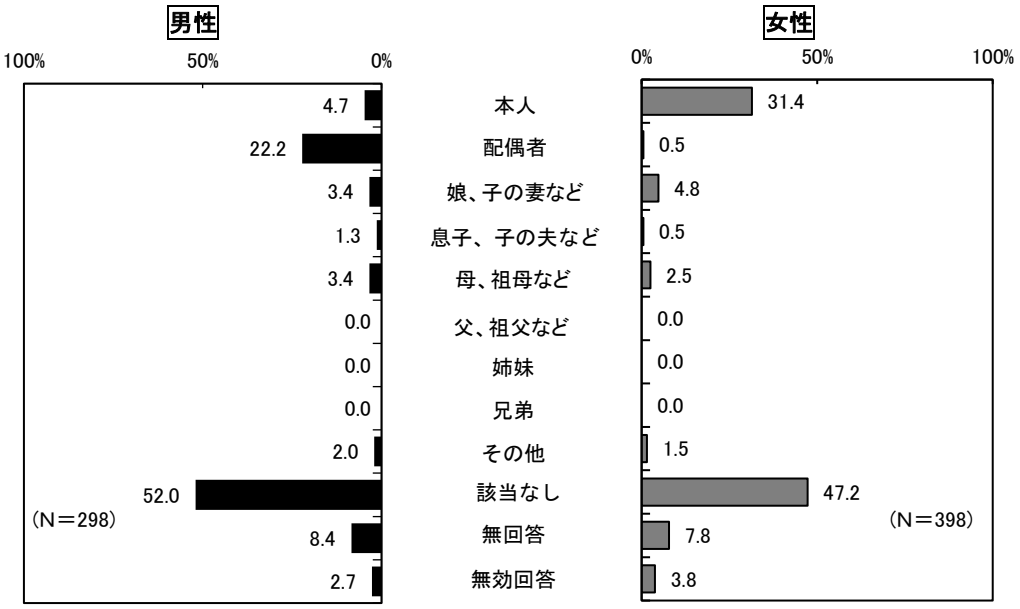
〔ごみ出し〕 (9)



男性では、男性である「本人」「息子、子の夫など」「父、祖父など」「兄弟」の合計が 53.4%で、女性である「配偶者」「娘、子の妻など」「母、祖母など」「姉妹」の合計が 34.9%と、男性の方が 18.5 ポイント高い。

女性では、女性である「本人」「娘、子の妻など」「母、祖母など」「姉妹」の合計が 59.1%で、男性である「配偶者」「息子、子の夫など」「父、祖父など」「兄弟」の合計が 34.5%と、女性の方が 24.6 ポイント高い。

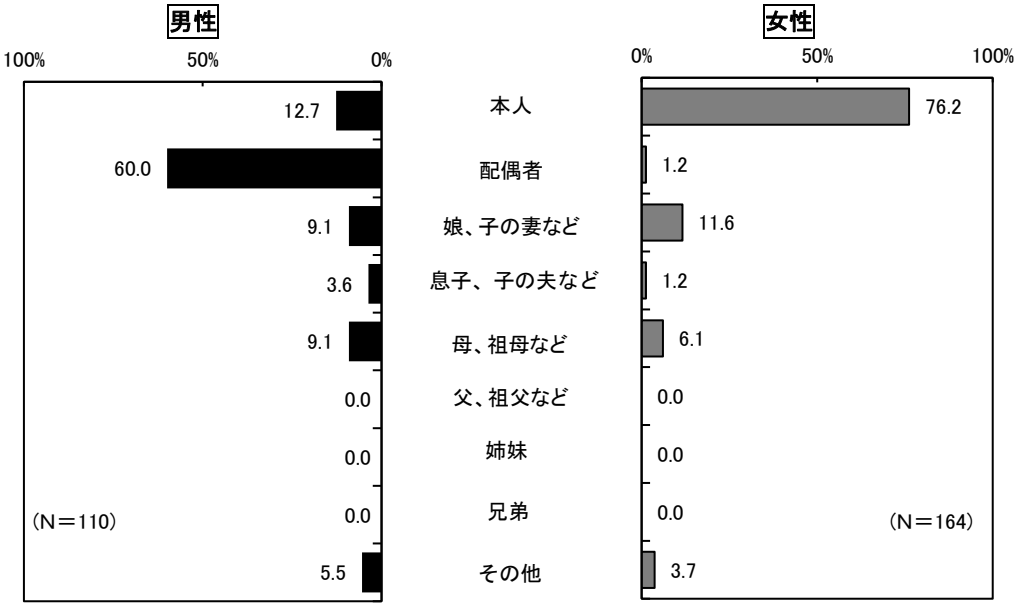
〔育児、子どもの教育・しつけ〕 ⑽



男性では、女性である「配偶者」「娘、子の妻など」「母、祖母など」「姉妹」の合計が 29.0%で、男性である「本人」「息子、子の夫など」「父、祖父など」「兄弟」の合計が 6.0%と、女性の方が 23.0 ポイント高い。

女性では、女性である「本人」「娘、子の妻など」「母、祖母など」「姉妹」の合計が 38.7%で、男性である「配偶者」「息子、子の夫など」「父、祖父など」「兄弟」の合計が 1%と、女性の方が 37.7 ポイント高い。

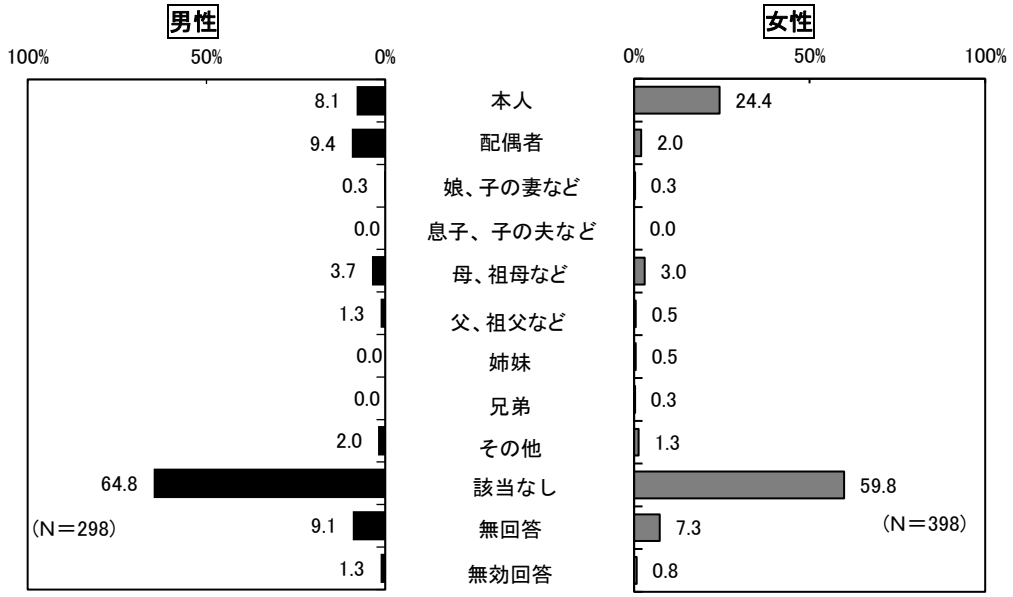
〔育児、子どもの教育・しつけ〕（該当なし・無回答・無効回答を除く） ⑽



該当なし・無回答・無効回答を除くと、男性では「配偶者」が 60.0%で最も高く、次に「本人」が 12.7%で、「娘、子の妻など」「母、祖母など」が 9.1%である。

女性では「本人」が 76.2%で最も高く、次に「娘、子の妻など」が 11.6%で、「母、祖母など」が 6.1%である。

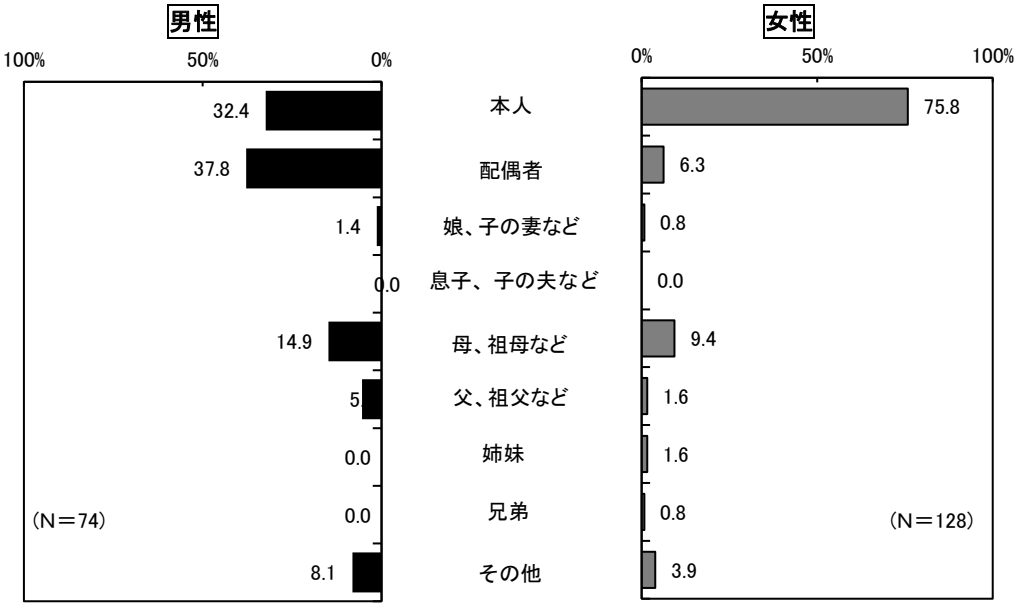
〔病人・高齢者の介護〕 (11)



男性では、女性である「配偶者」「娘、子の妻など」「母、祖母など」「姉妹」の合計が 13.4%で、男性である「本人」「息子、子の夫など」「父、祖父など」「兄弟」の合計が 9.4%と、女性の方が 4.0 ポイント高い。

女性では、女性である「本人」「娘、子の妻など」「母、祖母など」「姉妹」の合計が 28.2%で、男性である「配偶者」「息子、子の夫など」「父、祖父など」「兄弟」の合計が 2.8%と、女性の方が 25.4 ポイント高い。

〔病人・高齢者の介護〕（該当なし・無回答・無効回答を除く） (11)



該当なし・無回答・無効回答を除くと、男性では「配偶者」が 37.8%で最も高く、次に「本人」が 32.4%で、「母、祖母など」が 14.9%である。

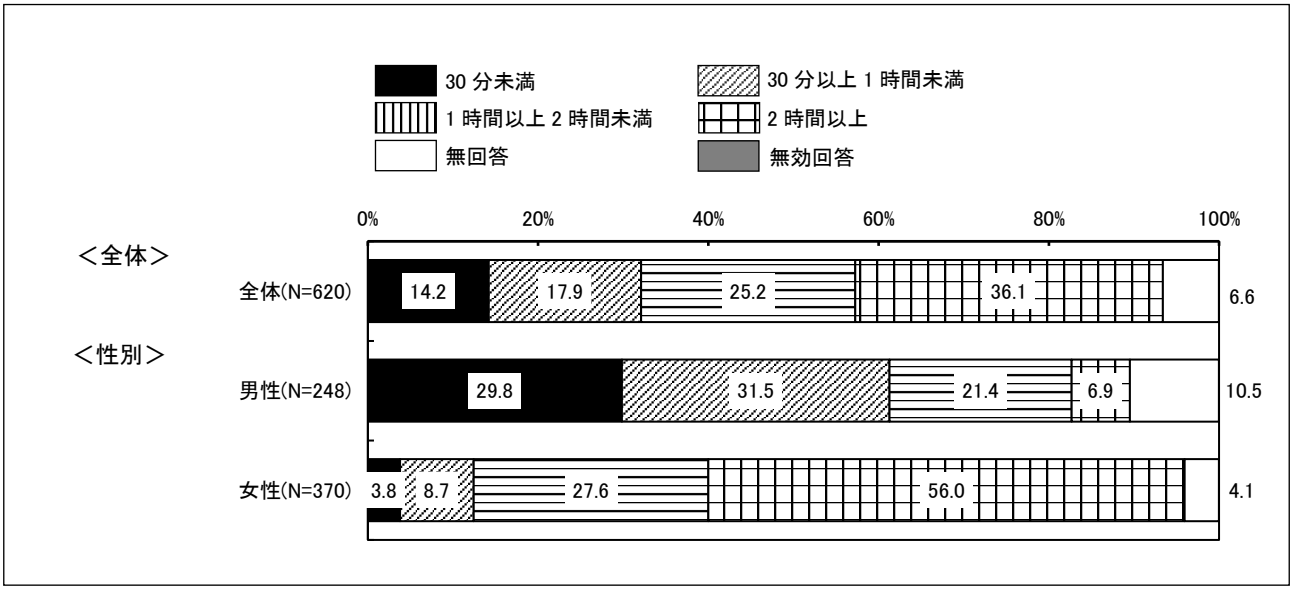
女性では「本人」が 75.8%で最も高く、次に「母、祖母など」が 9.4%で、「配偶者」が 6.3%である。

③ 家事・育児・介護の時間

問 2-2　問 2-1 の(4)～(11)で「1、2」とお答えの方におたずねします。

あなたが家事・育児・介護をしている時間の合計は1日あたりにするとどれくらいですか。

（○は１つ）

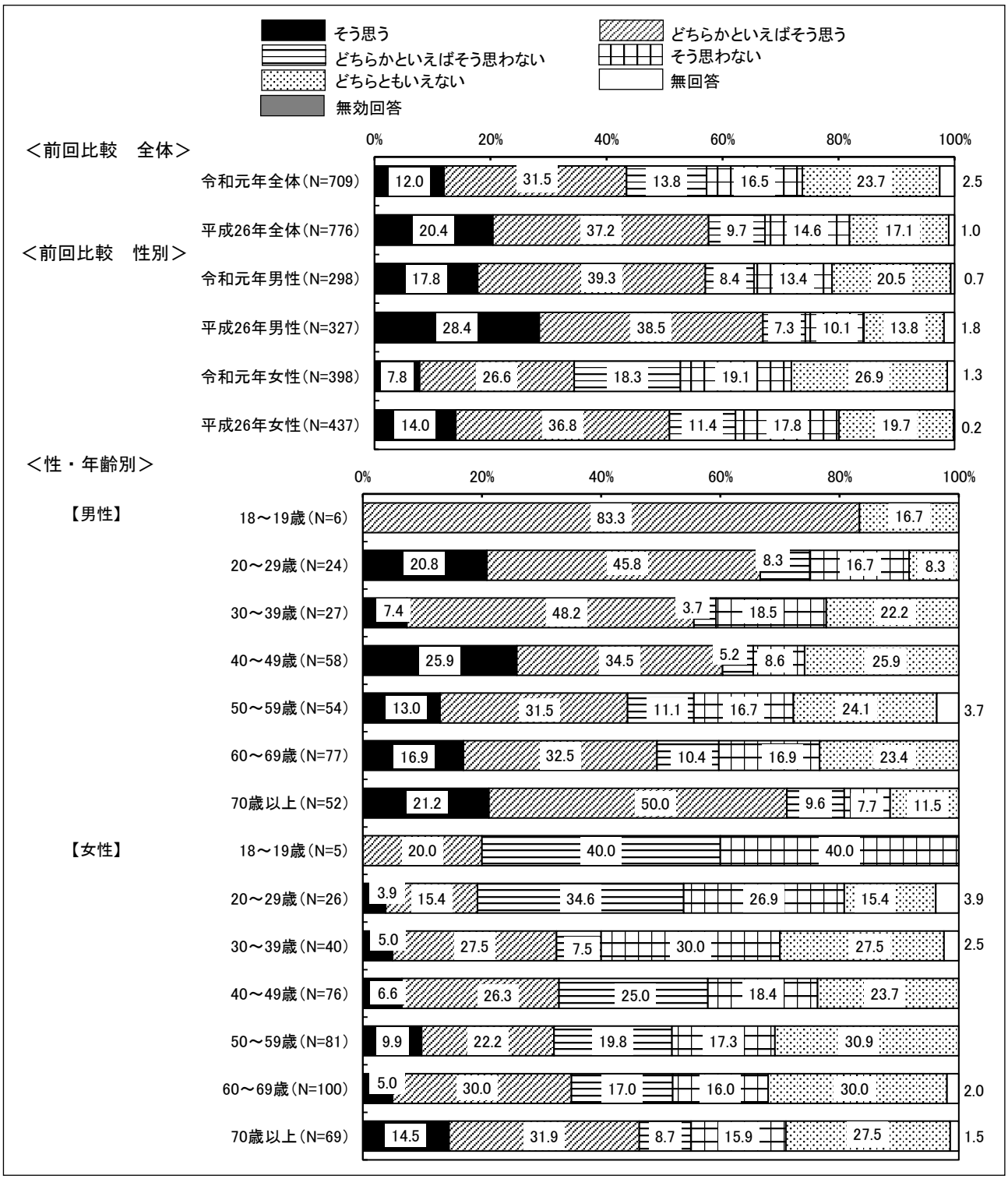


全体では「2 時間以上」が 36.1％と最も高く、次が「1 時間以上 2 時間未満」である。

性別にみると、男性では「30 分以上 1 時間未満」が 31.5％で最も高く、女性では「2 時間以上」が 56.0％で最も高い。

④ 男らしく女らしくの育て方

問３「男の子は男らしく、女の子は女らしく育てた方がよい」という考え方についてどのように思いますか。（○は１つ）



全体では「どちらかといえばそう思う」が 31.5％で最も高く、次に「どちらともいえない」が 23.7％である。「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」（以下、「思う」）が 43.5％で、「どちらかといえばそう思わない」または「そう思わない」（以下、「思わない」）が 30.3％と、「思う」の方が 13.2 ポイント高い。

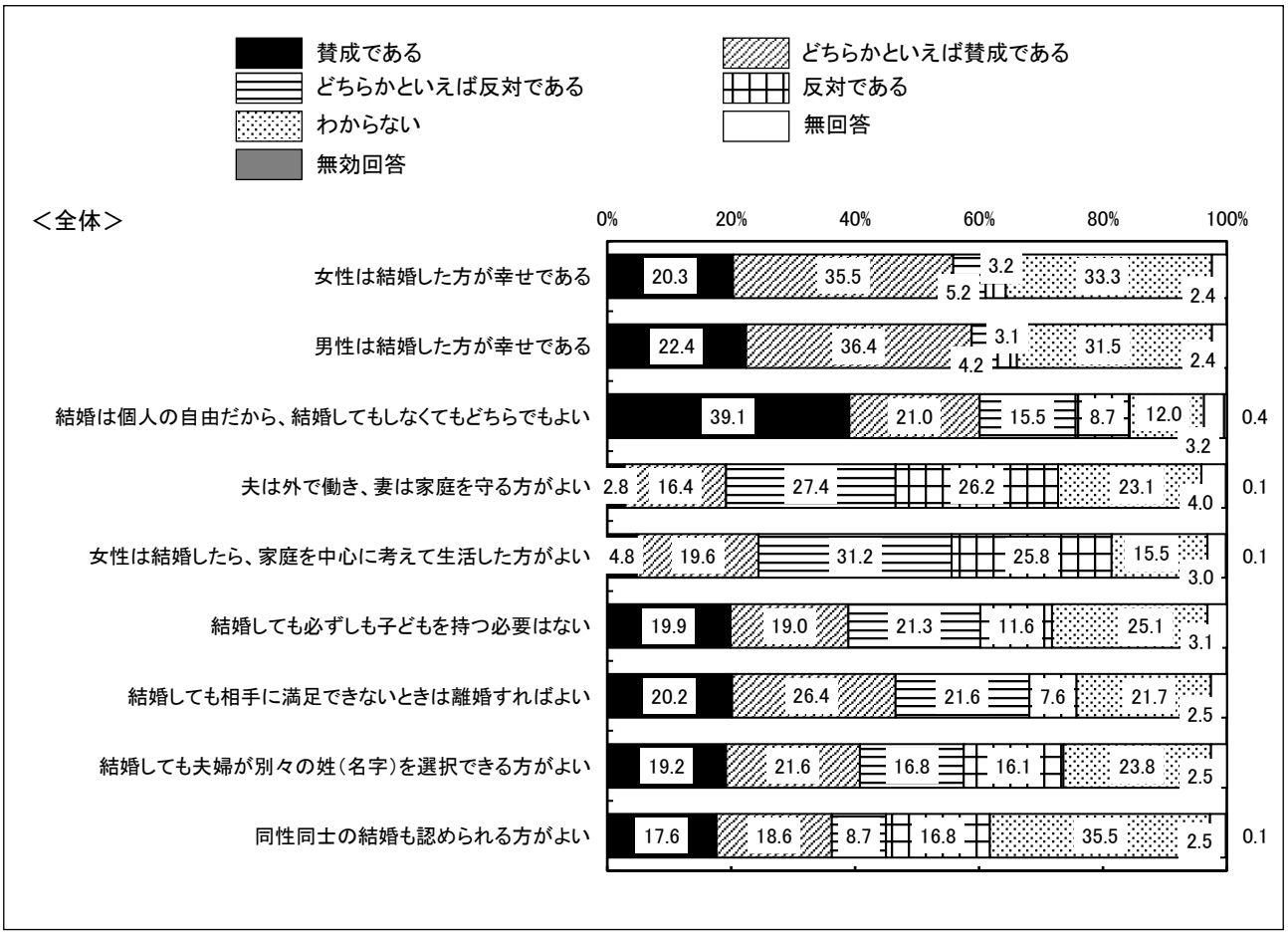
前回調査と比べると、「思う」の割合が 20.1 ポイント低くなっている。

性別にみると、「思う」の割合が男性では 57.1％で、女性では 34.4％と、男性の方が 22.7 ポイント高い。

性・年齢別にみると、「思う」が 50 歳代男性、女性はどの年代もすべて５割以下である。

（2）結婚についての考え方

問 4　結婚についてどのように思いますか。（(1)～(9)について○は 1 つずつ）

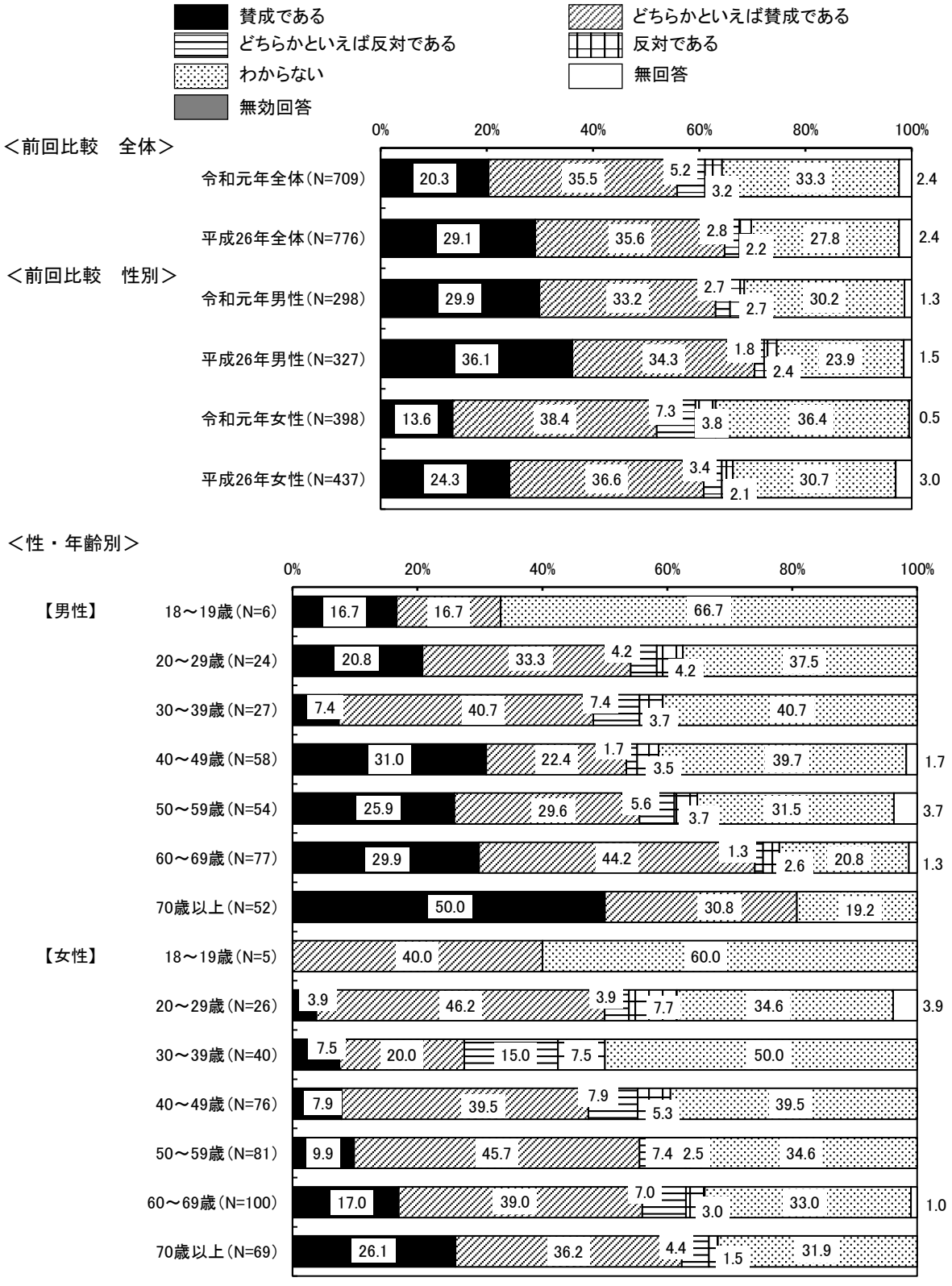


「賛成」または「どちらかといえば賛成」が、“結婚は個人の自由だから、結婚してもしなくてもどちらでもよい”については 6 割以上で、“女性は結婚した方が幸せである”“男性は結婚した方が幸せである”については 5 割以上である。

「どちらかといえば反対」または「反対」が、“夫は外で働き、妻は家庭を守る方がよい”“女性は結婚したら、自分自身のことより、夫や子どもなど家庭を中心に考えて生活した方がよい”については 5 割以上である。

また、“結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない”“結婚しても夫婦が別々の姓（名字）を選択できる方がよい”“同性同士の結婚も認められる方がよい”については、「わからない」が最も高い。

〔女性は結婚した方が幸せである〕 (1)



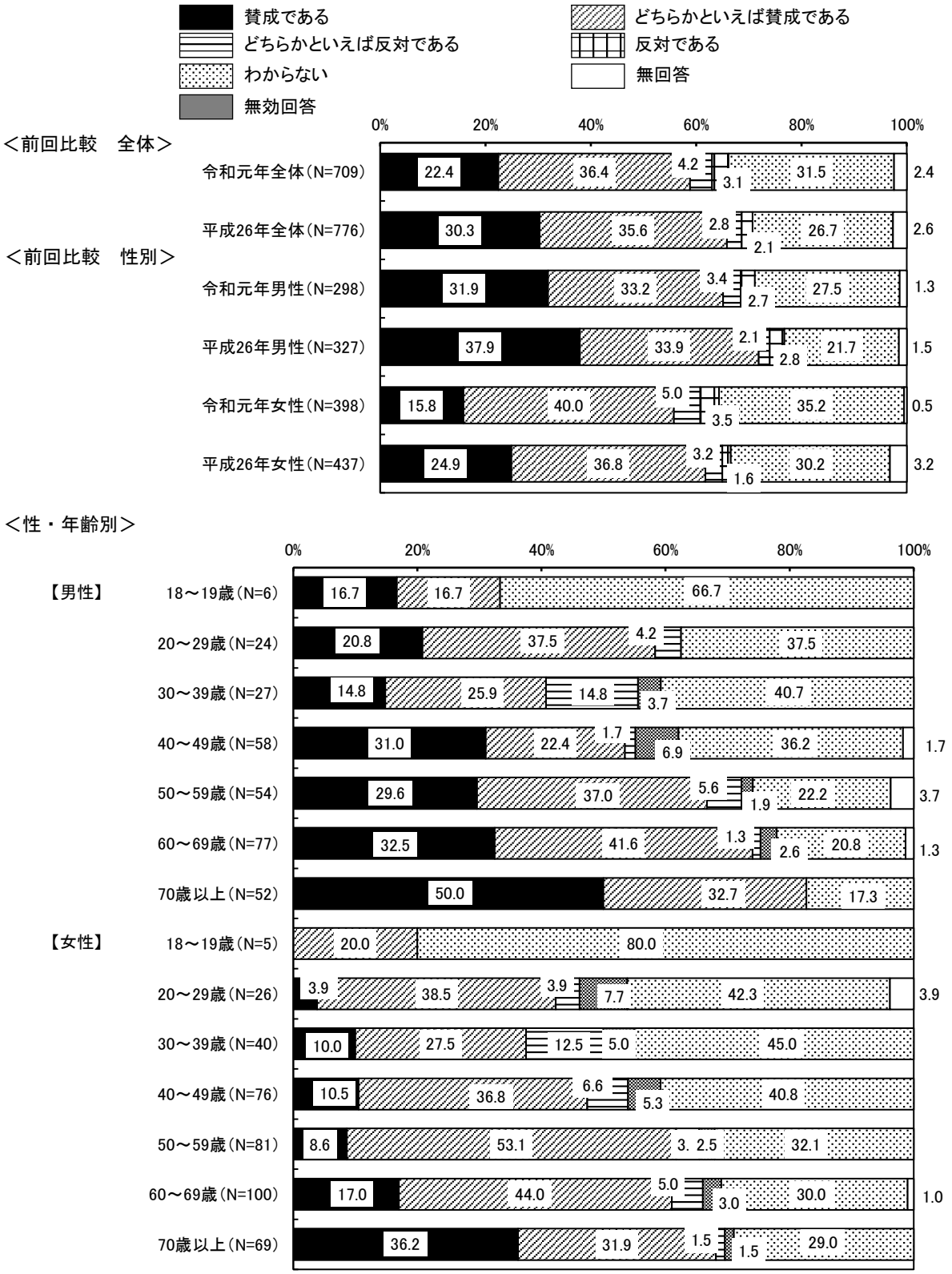
全体では「どちらかといえば賛成」が35.5%で最も高く、次に「わからない」が33.3%である。「賛成」または「どちらかといえば賛成」(以下、「肯定」)が 55.8%で、「どちらかといえば反対」または「反対」が 8.4%と、「肯定」の方が 47.4 ポイント高い。

前回調査と比べると、全体では「肯定」の割合が 8.9 ポイント低くなっている。

性別にみると、「肯定」の割合が男性では 63.1%で、女性では 52.0%と、男性の方が 11.1 ポイント高い。

性・年齢別にみると、「肯定」の割合は70歳以上男性(80.8%)が最も高く、30歳代女性(27.5%)が最も低い。また、「賛成」の割合について、女性では20歳代(3.9%)の方が30歳代(7.5%)より3.6ポイント低い。

〔男性は結婚した方が幸せである〕 (2)



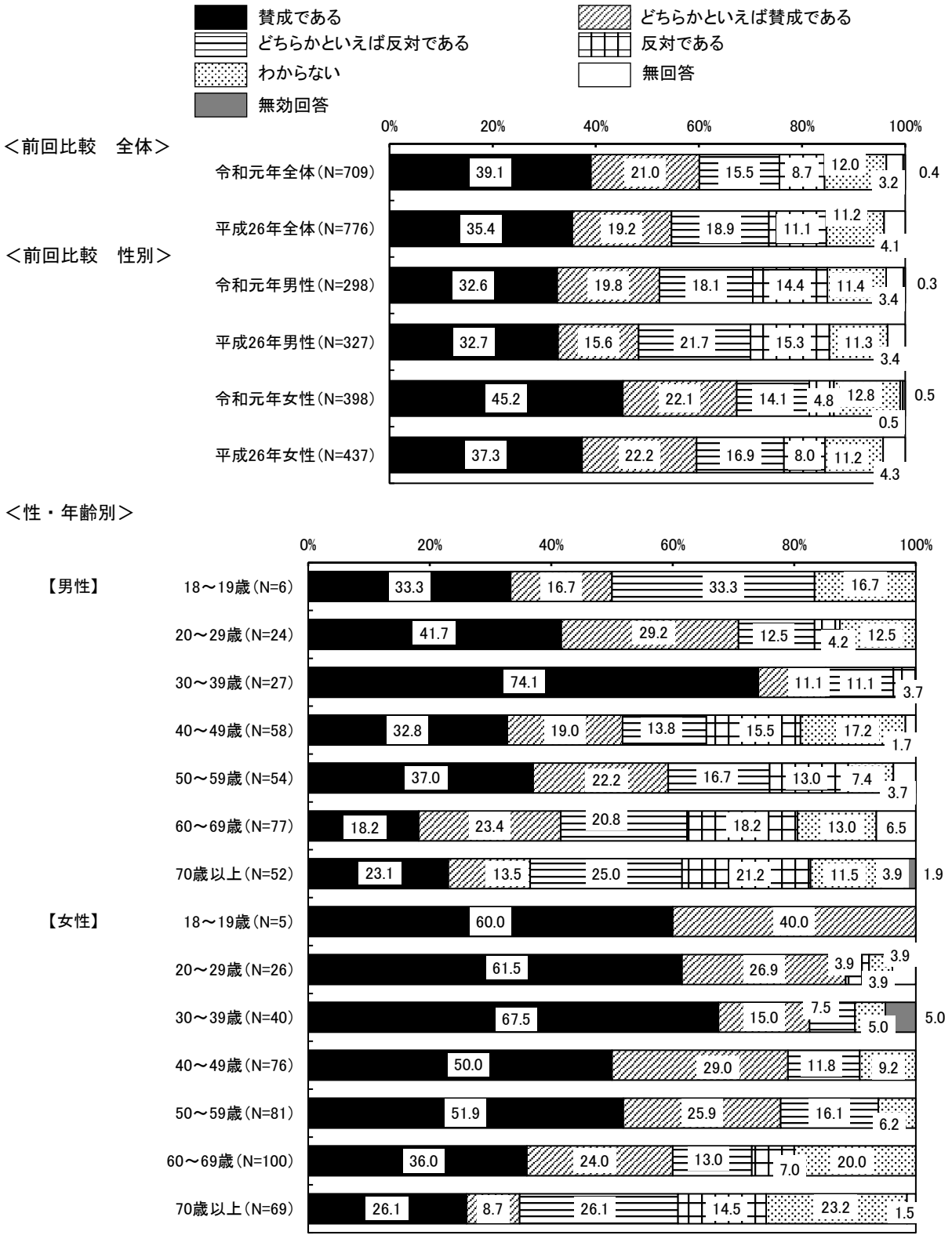
全体では「どちらかといえば賛成」が36.4%で最も高く、次に「わからない」が31.5%である。「賛成」または「どちらかといえば賛成」(以下、「肯定」)が 58.8%で、「どちらかといえば反対」または「反対」が 7.3%と、「肯定」の方が 51.5 ポイント高い。

前回調査と比べると、全体では「肯定」の割合が 7.1 ポイント低くなっている。

性別にみると、「肯定」の割合が男性では65.1%で、女性では55.8%と、男性の方が 9.3 ポイント高い。

性・年齢別にみると、「肯定」の割合は70歳以上男性(82.7%)が最も高く、18～19歳女性(20.0%)が最も低い。また、「賛成」の割合について、女性では20歳代(3.9%)の方が30歳代(10.0%)より6.1ポイント低い。

〔結婚は個人の自由だから、結婚してもしなくてもどちらでもよい〕 (3)



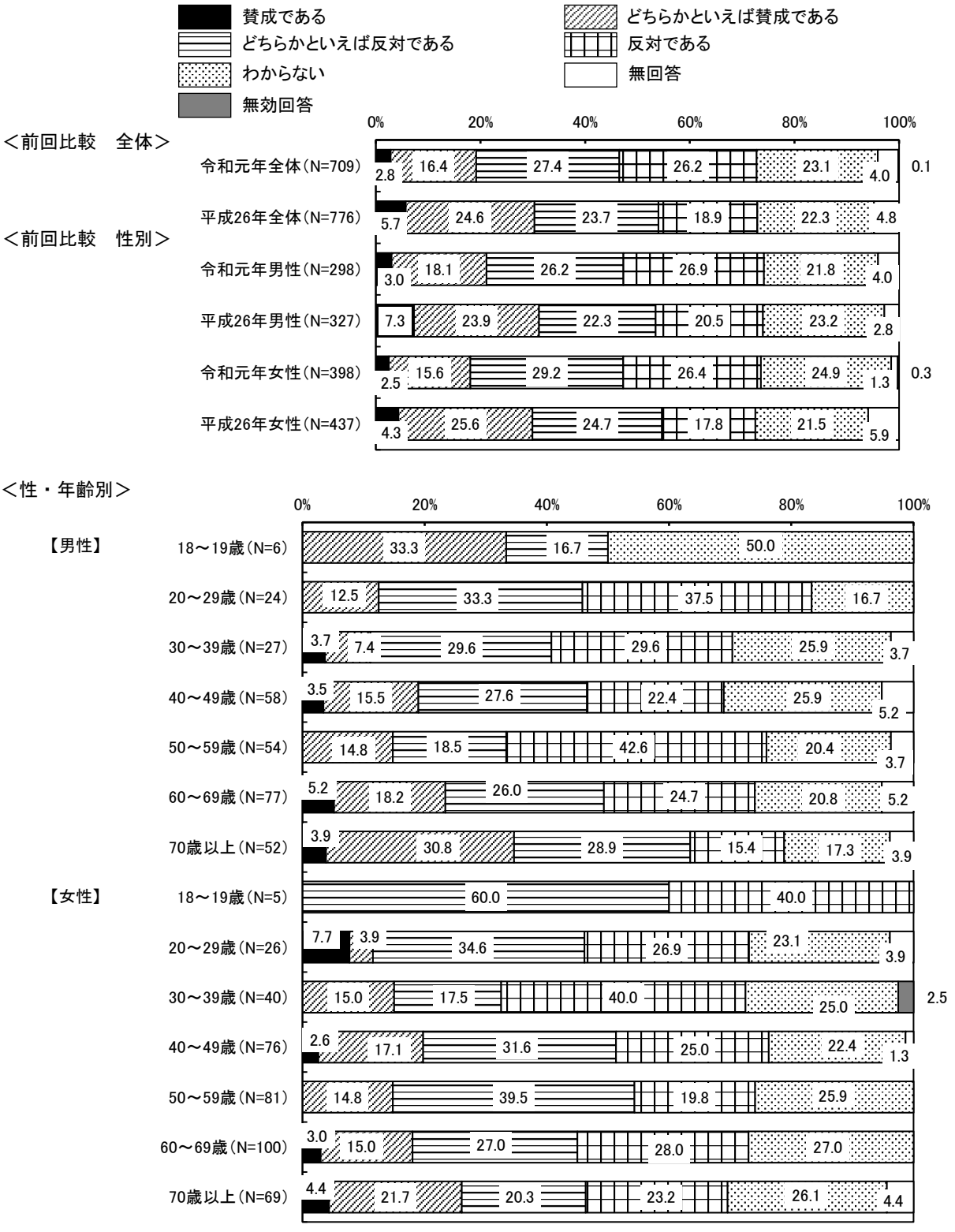
全体では「賛成」が 39.1％で最も高く、次に「どちらかといえば賛成」が 21.0％である。「賛成」または「どちらかといえば賛成」（以下、「肯定」）が 60.1％で、「どちらかといえば反対」または「反対」（以下、「否定」）が 24.2％と、「肯定」の方が 35.9 ポイント高い。

前回調査と比べると、全体では「肯定」の割合が 5.5 ポイント高くなっている。

性別にみると、「肯定」の割合が女性では 67.3％で、男性では 52.4％と、女性の方が 14.9 ポイント高い。また、「否定」の割合が男性では 32.5％で、女性では 18.9％と、男性の方が 13.6 ポイント高い。

性・年齢別にみると、「肯定」の割合は 18～19 歳女性（100.0％）が最も高く、70 歳以上女性（34.8％）が最も低い。また、「肯定」は 50 歳代以下の男性、60 歳代以下の女性では 5 割以上である。

〔夫は外で働き、妻は家庭を守る方がよい〕 (4)



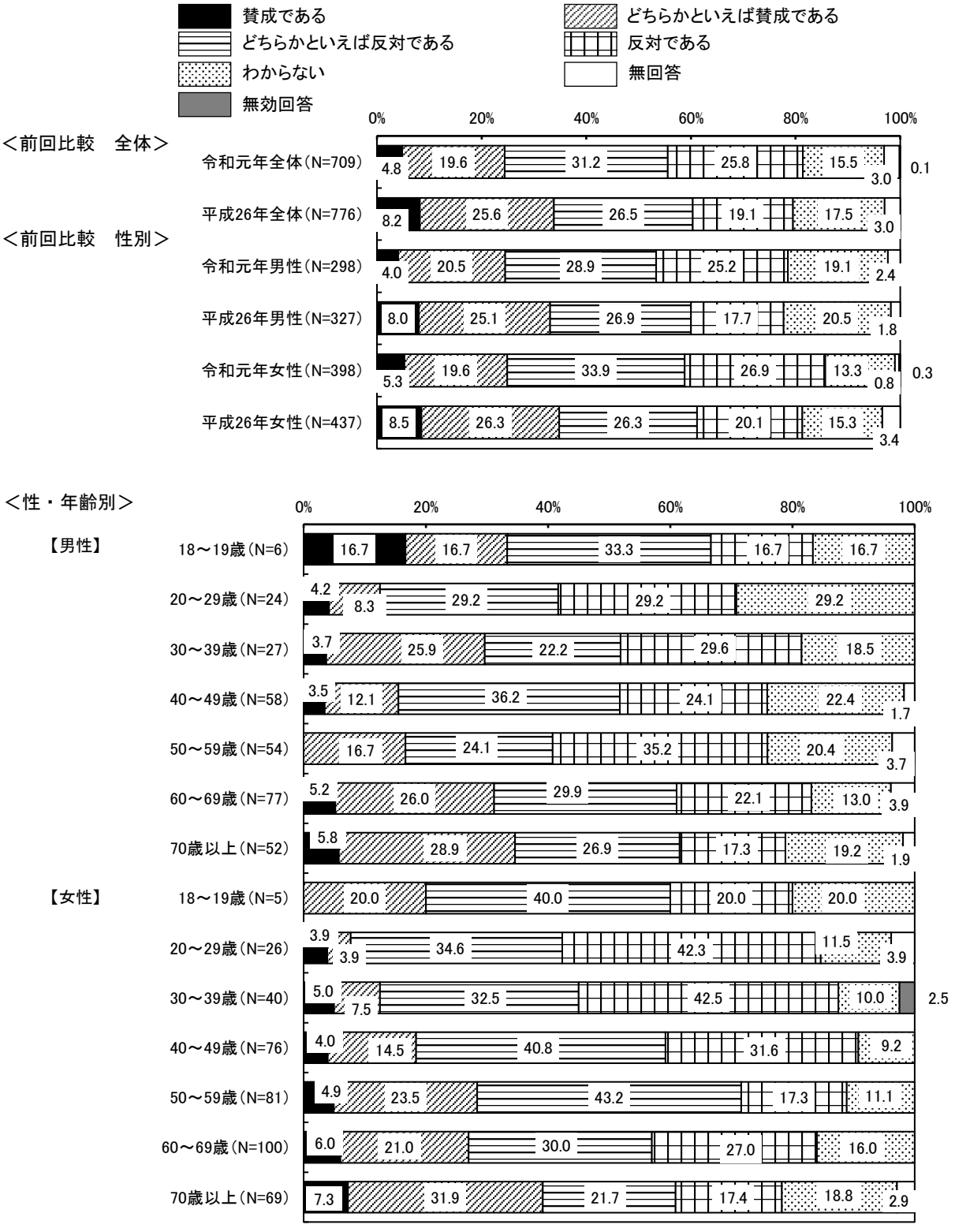
全体では「どちらかといえば反対」が 27.4%で最も高く、次に「反対」が 26.2%である。「どちらかといえば反対」または「反対」(以下、「否定」)が 53.6%で、「賛成」または「どちらかといえば賛成」(以下、「肯定」)が 19.2%と、「否定」の方が 34.4 ポイント高い。

前回調査と比べると、女性では「否定」の割合が 11.0 ポイント高くなっている。

性別にみると、あまり違いはみられない。

性・年齢別にみると、「肯定」の割合は 70 歳以上男性(34.7%)が最も高く、18～19 歳女性(0.0%)が最も低い。また、「否定」は 18～19 歳男性・70 歳代男女・を除いて 5 割以上である。また、30 歳代では「肯定」の割合の男女差が大きく、18～19 歳では「否定」の割合の男女差が大きい。

〔女性は結婚したら、家庭を中心に考えて生活した方がよい〕 (5)



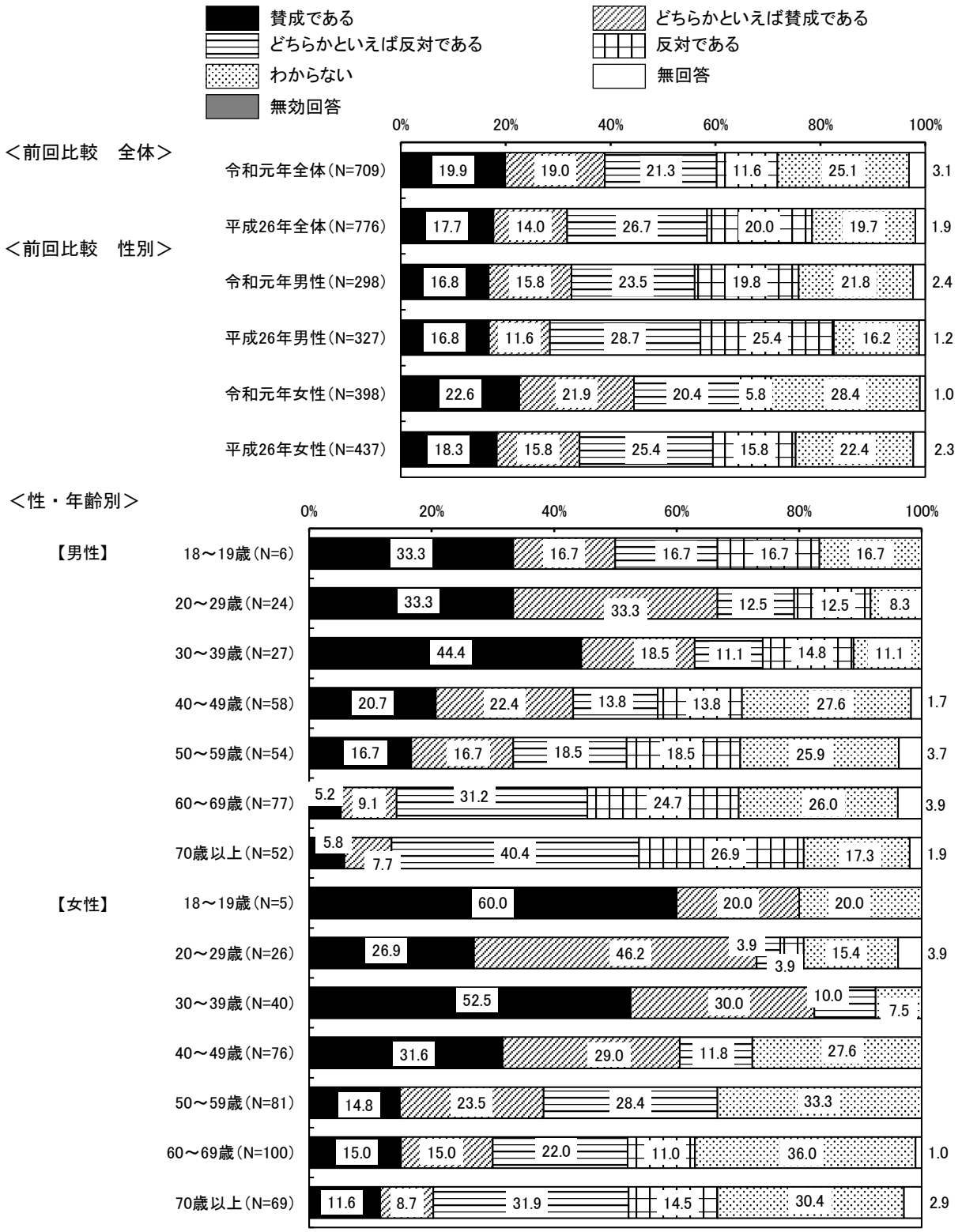
全体では「どちらかといえば反対」が 31.2%で最も高く、次に「反対である」が 25.8%である。「どちらかといえば反対」または「反対」(以下、「否定」)が 57.0%で、「賛成」または「どちらかといえば賛成」(以下、「肯定」)が 24.4%と、「否定」の方が 32.6 ポイント高い。

前回調査と比べると、全体では「肯定」の割合が 9.4 ポイント低くなっている。

性別にみると、あまり違いはみられない。

性・年齢別にみると、「肯定」の割合は 70 歳以上女性(39.2%)が最も高く、20 歳代女性(7.8%)が最も低い。また、「否定」は 70 歳代男女を除いて 5 割以上である。また、30 歳代では「肯定」「否定」の割合の男女差が大きい。

〔結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない〕 (6)



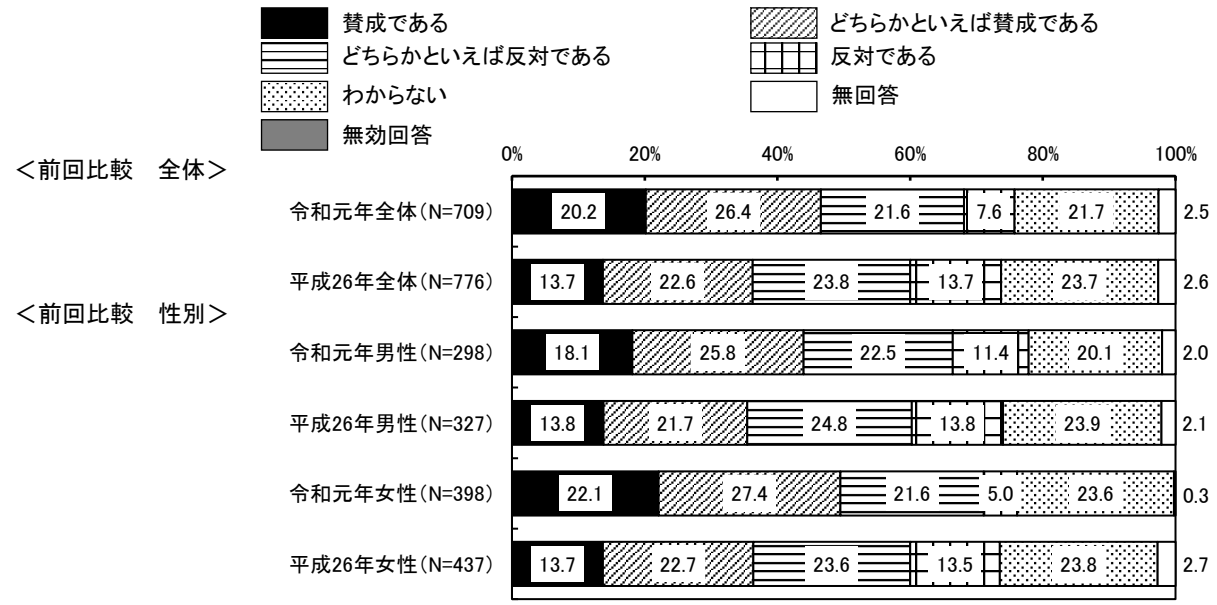
全体では「わからない」が 25.1%で最も高く、次に「どちらかといえば反対」が 21.3%である。「どちらかといえば反対」または「反対」（以下、「否定」）が 32.9%で、「賛成」または「どちらかといえば賛成」（以下、「肯定」）が 38.9%と、「肯定」の方が 6.0 ポイント高い。

前回調査と比べると、全体では「肯定」の割合が 7.2 ポイント高くなっている。

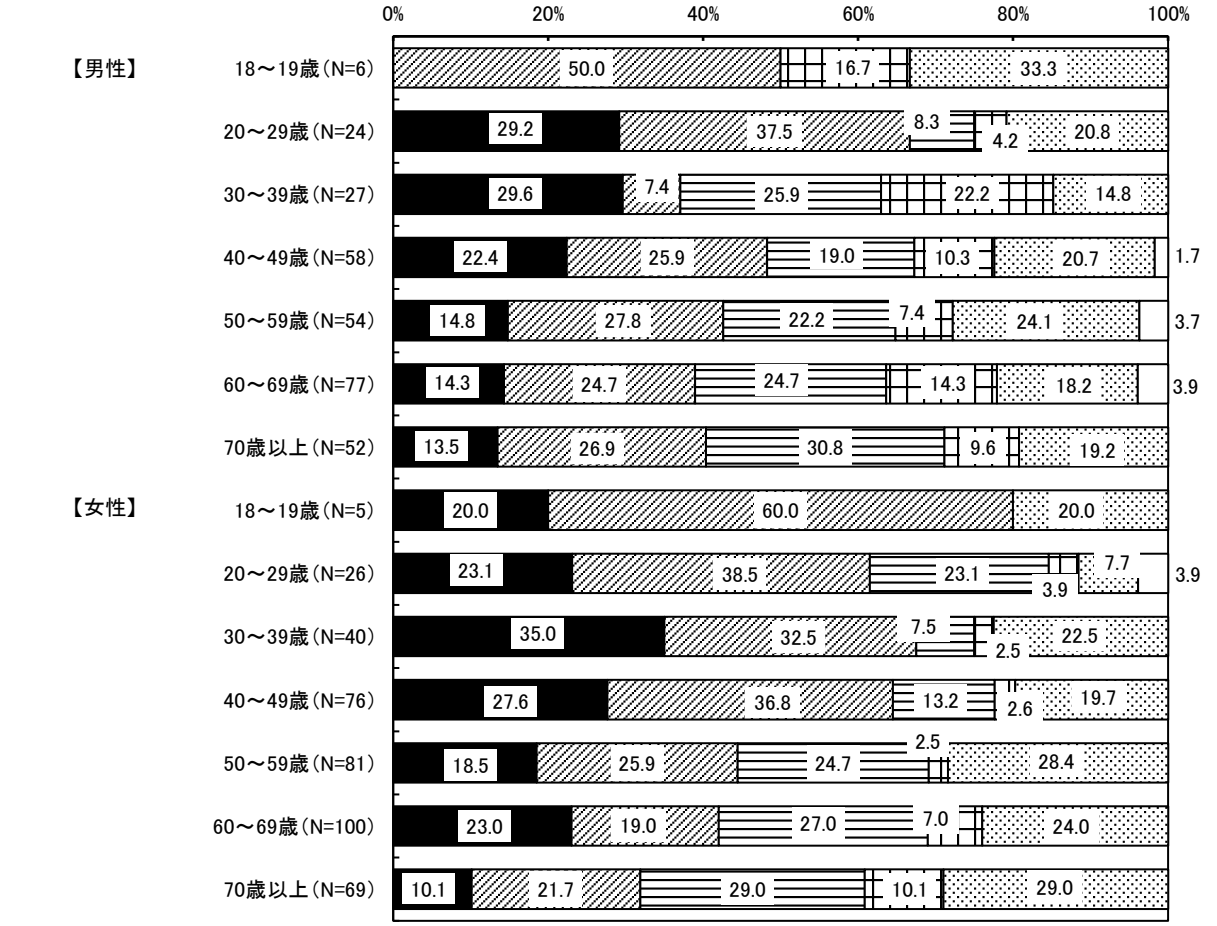
性別にみると、「肯定」の割合が女性では 44.5%で、男性では 32.6%と、女性の方が 11.9 ポイント高い。また、「否定」の割合が男性では 43.3%で、女性では 26.2%と、男性の方が 17.1 ポイント高い。

性・年齢別にみると、「肯定」の割合は 30 歳代女性（82.5%）が最も高く、70 歳以上男性（13.5%）が最も低い。また、「否定」が 60 歳代以上男性では 5 割以上である。また、18 歳～19 歳では「否定」の割合の男女差が大きい。

〔結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい〕 (7)



＜性・年齢別＞



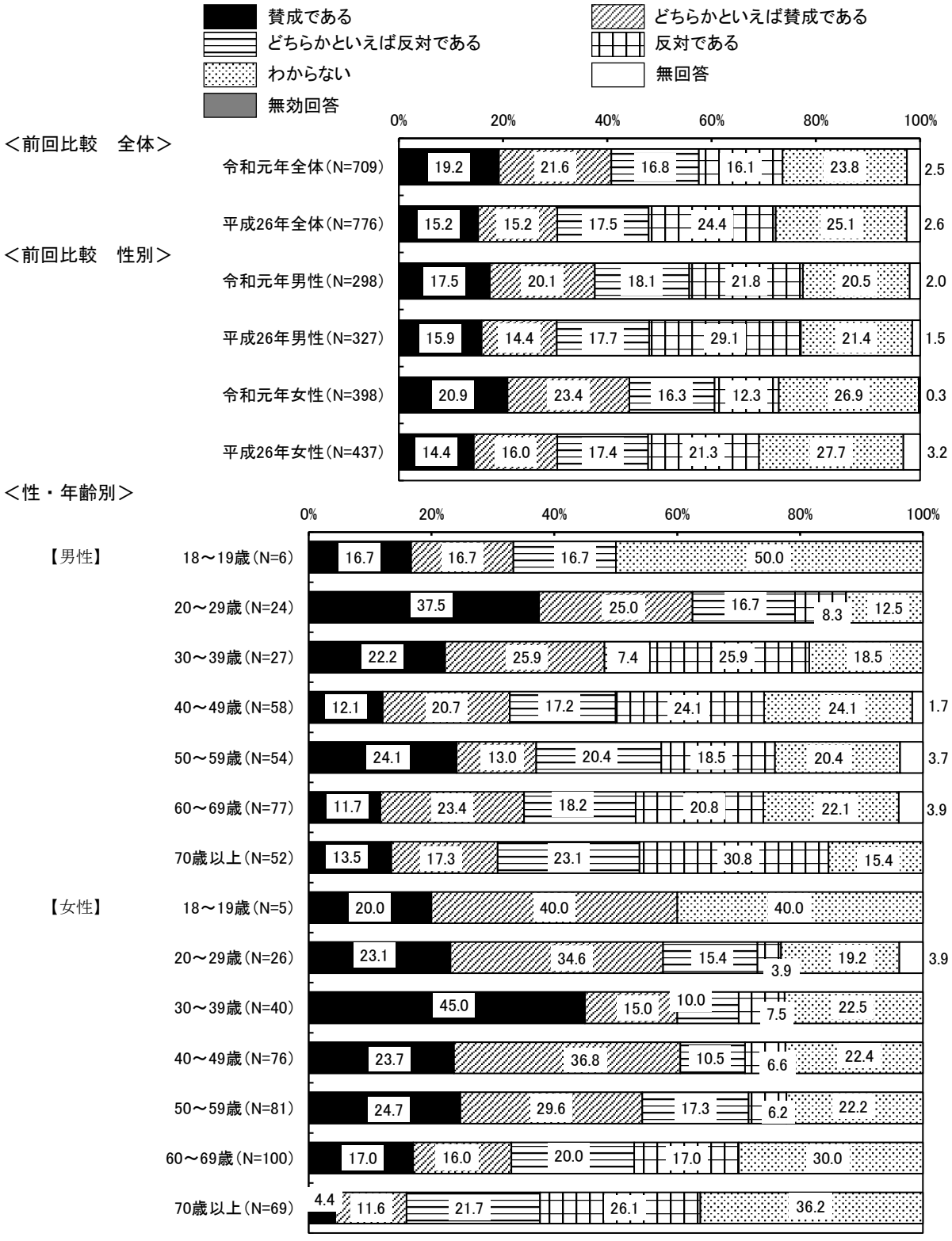
全体では「どちらかといえば賛成」が26.4%で最も高く、次に「わからない」が21.7%である。「賛成」または「どちらかといえば賛成」(以下、「肯定」)が 46.6%で、「どちらかといえば反対」または「反対」(以下、「否定」)が 29.2%と、「肯定」の方が 17.4 ポイント高い。

前回調査と比べると、全体では「否定」の割合が 8.3 ポイント低くなっている。

性別にみると、あまり違いはみられない。

性・年齢別にみると、「肯定」の割合は18～19歳女性(80.0%)が最も高く、70歳以上女性(31.8%)が最も低い。また、30 歳代では「肯定」「否定」それぞれの割合の男女差が大きく、18～19 歳では「肯定」の割合の男女差が大きい。

〔結婚しても夫婦が別々の姓（名字）を選択できる方がよい〕 (8)



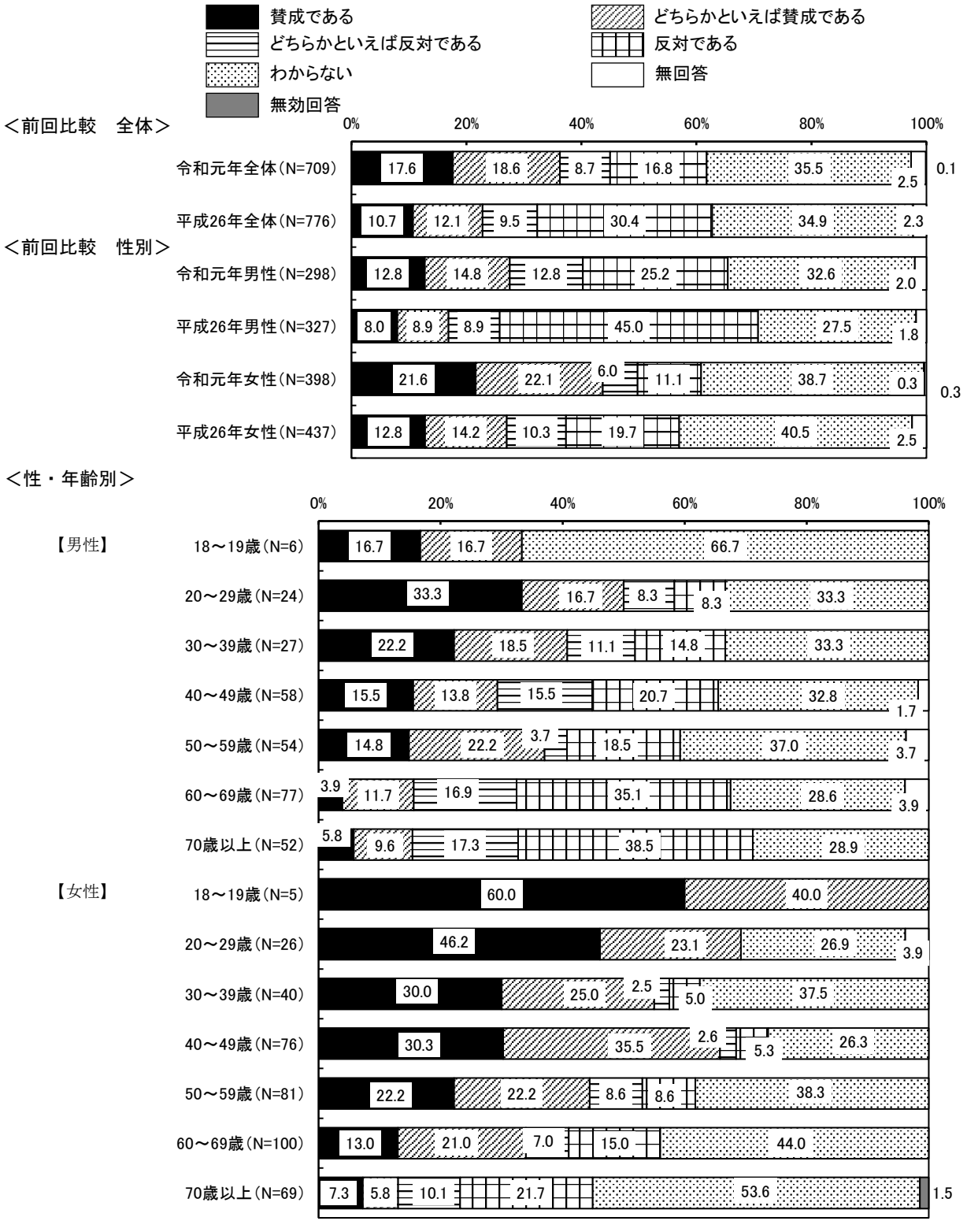
全体では「わからない」が23.8％で最も高く、次に「どちらかといえば賛成」が21.6％である。「賛成」または「どちらかといえば賛成」（以下、「肯定」）が 40.8％で、「どちらかといえば反対」または「反対」（以下、「否定」）が 32.9％と、「肯定」の方が 7.9 ポイント高い。

前回調査と比べると、全体では「肯定」の割合が 10.4 ポイント高くなっている。

性別にみると、「否定」の割合が男性では 39.9％で、女性では 28.6％と、男性の方が 11.3 ポイント高い。

性・年齢別にみると、「否定」の割合は 70 歳以上男性（53.9％）が最も高く、18～19 歳女性（0.0％）が最も低い。また、「否定」が 70 歳以上男性では 5 割以上である。また、40 歳代では「肯定」「否定」ともに割合の男女差が大きい。

〔同性同士の結婚も認められる方がよい〕 (9)



全体では「わからない」が35.5%で最も高く、次に「どちらかといえば賛成」が18.6%である。「賛成」または「どちらかといえば賛成」(以下、「肯定」)が 36.2%で、「どちらかといえば反対」または「反対」(以下、「否定」)が 25.5%と、「肯定」の方が 10.7 ポイント高い。

前回調査と比べると、全体では「肯定」の割合が 13.4 ポイント高くなっている。

性別にみると、「肯定」の割合が女性では 43.7%で、男性では 27.6%と、女性の方が 16.1 ポイント高い。また、「否定」の割合が男性では 38.0%で、女性では 17.1%と、男性の方が 20.9 ポイント高い。

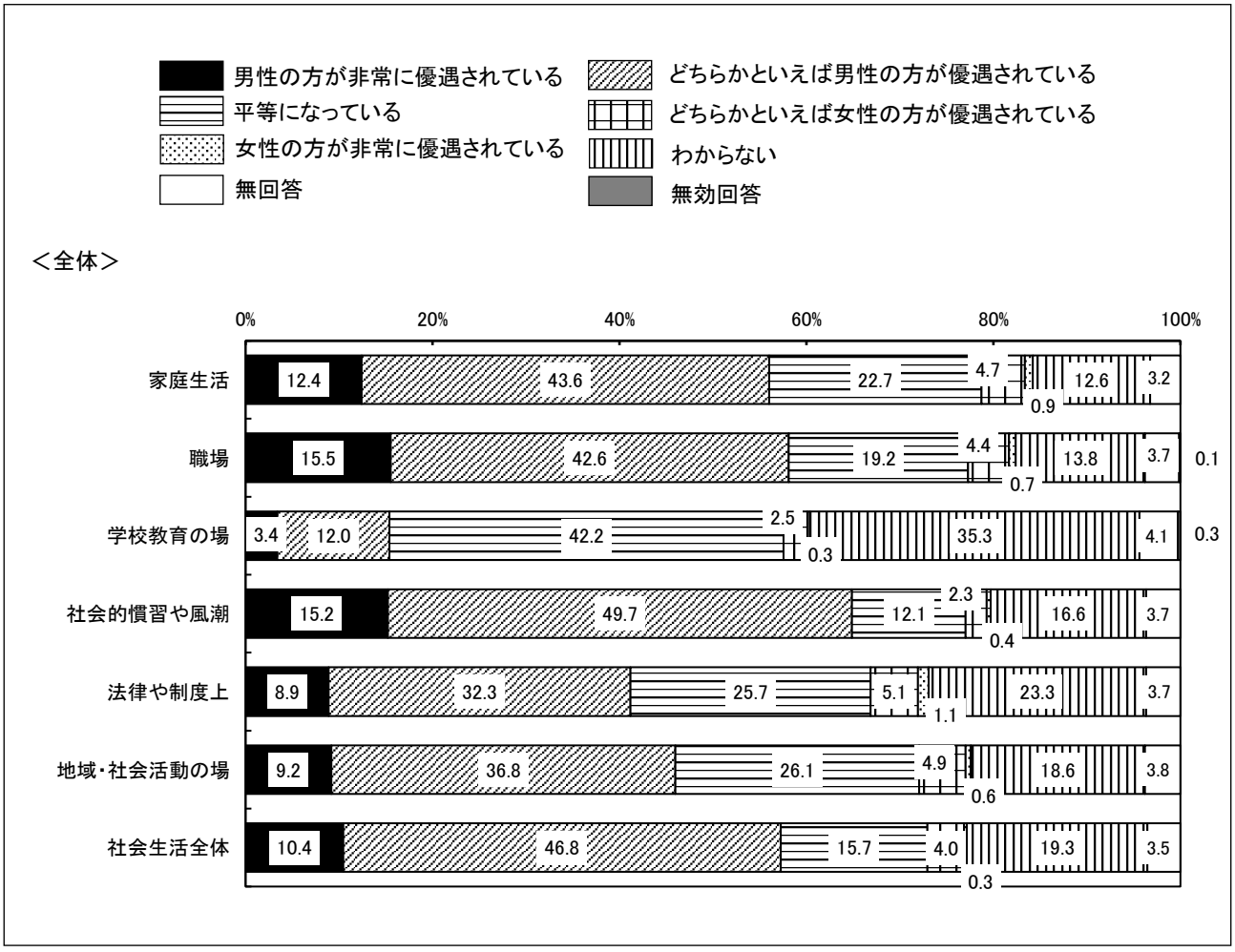
性・年齢別にみると、「肯定」の割合は18～19歳女性(100.0%)が最も高く、70歳以上女性(13.1%)が最も低い。また、18～19 歳では「肯定」の割合の男女差が大きく、60 歳代では「否定」の割合の男女差が大きい。

（3） 男女平等観

① 各分野における男女の地位

問 5　次のような分野で男女の地位が平等になっていると思いますか。

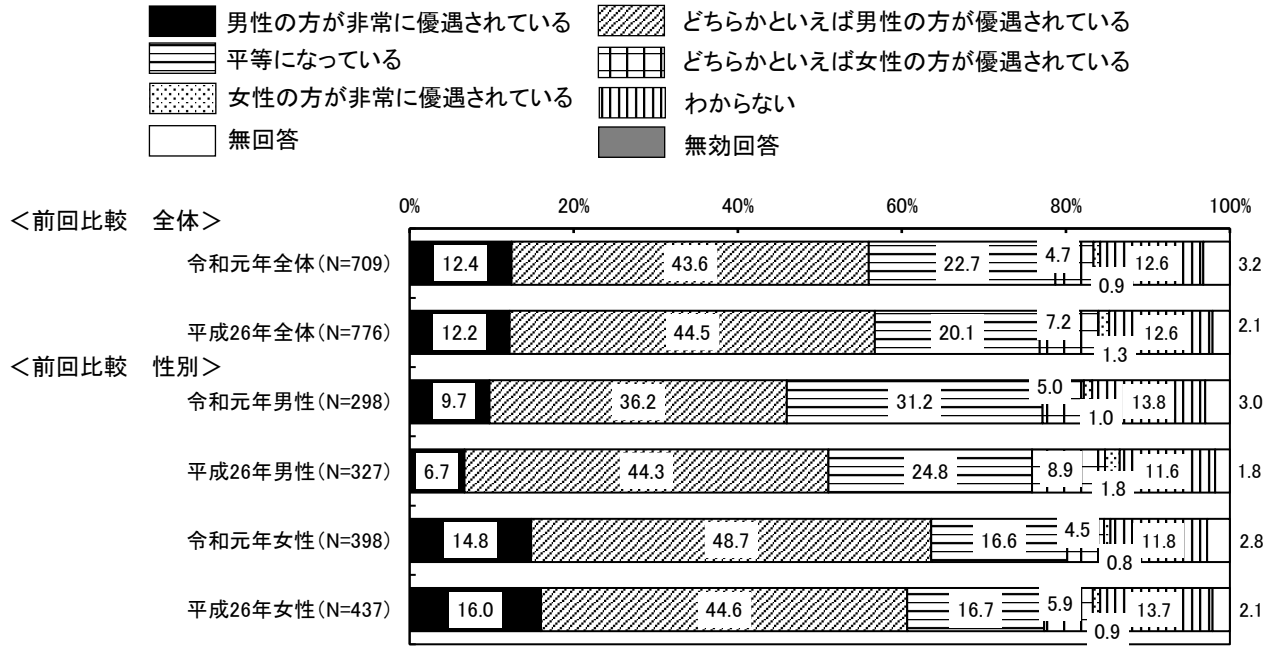
（(1) ～(7)について○は 1 つずつ）



7つの分野のうち、「平等になっている」の割合は“学校教育の場”（42.2%）が最も高く、次に“地域・社会活動の場”（26.1%）で、“法律や制度上”（25.7%）である。

「男性の方が非常に優遇されている」または「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が“社会的習慣や風潮”では 6 割以上である。

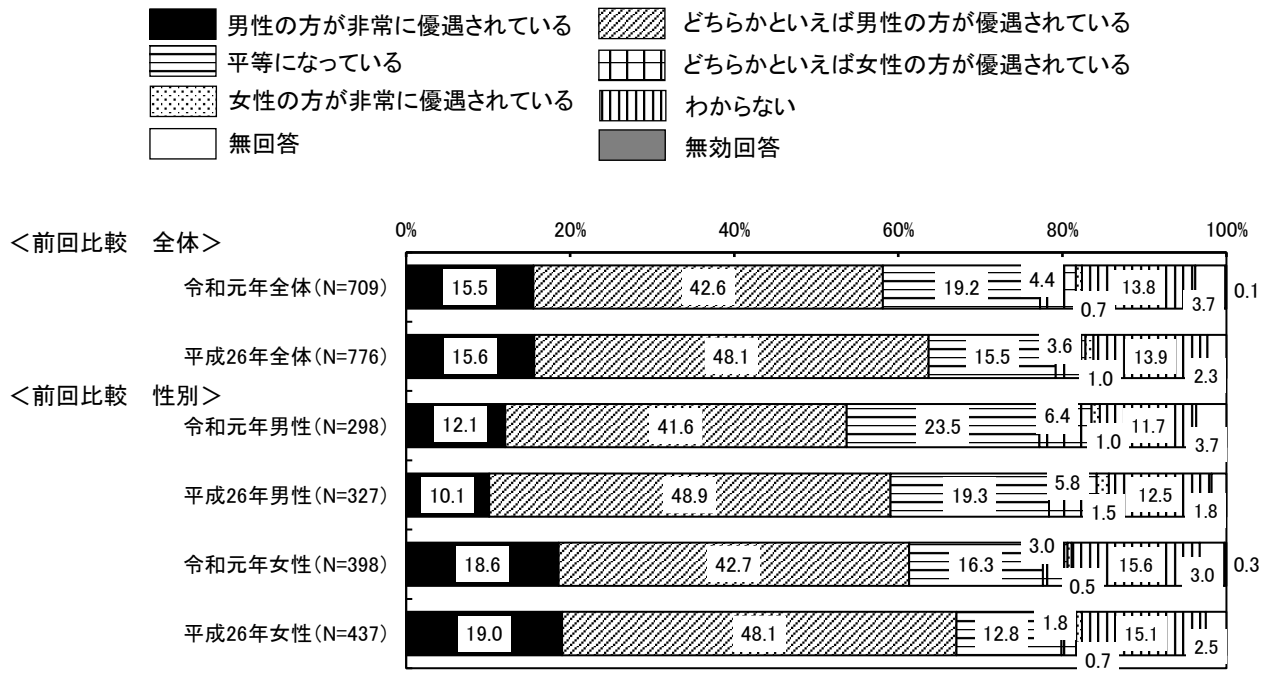
〔家庭生活〕 (1)



全体では「男性の方が非常に優遇されている」または「どちらかといえば男性の方が優遇されている」(以下、「男が優遇」)が 56.0%である。前回調査と比べると、「男が優遇」の割合が 0.7 ポイント低くなり、「平等になっている」の割合が 2.6 ポイント高くなり、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」または「女性の方が非常に優遇されている」の割合が 2.9 ポイント低くなっている。

性別にみると、「男が優遇」の割合が女性では 63.5%で女性の方が 17.6 ポイント高い。

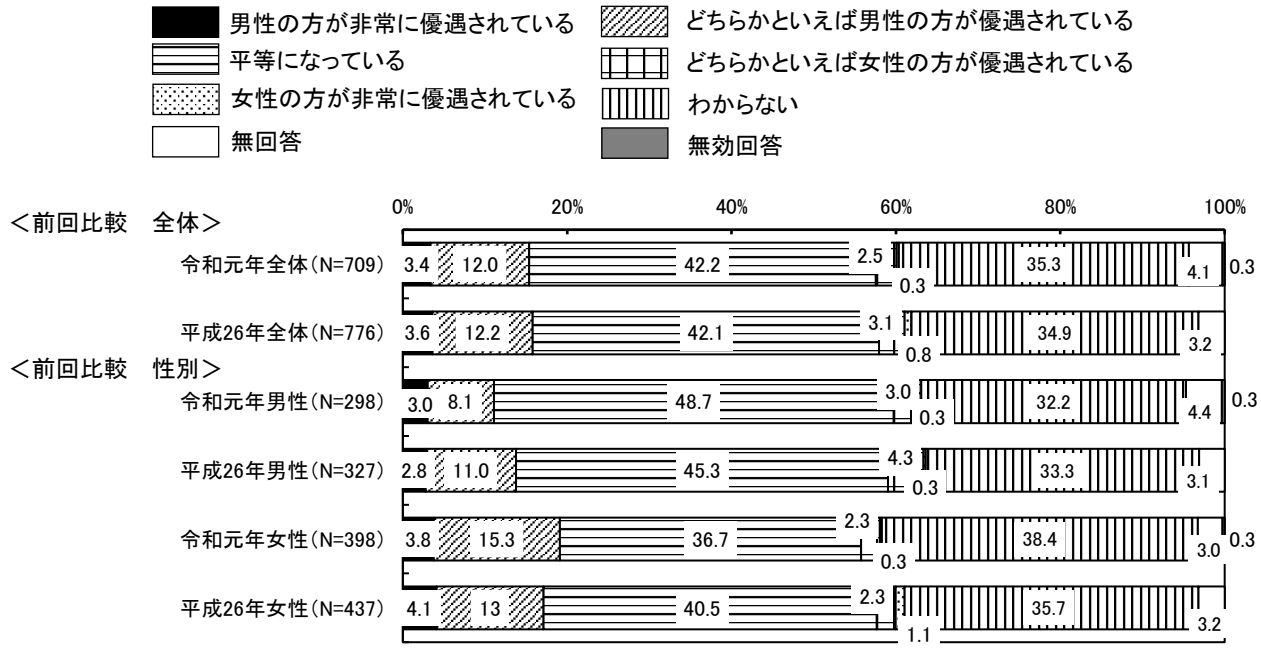
〔職場〕 (2)



全体では「男性の方が非常に優遇されている」または「どちらかといえば男性の方が優遇されている」(以下、「男が優遇」)が 58.1%である。前回調査と比べると、「男が優遇」の割合が 5.6 ポイント低く、「平等になっている」の割合が 3.7 ポイント高い。「どちらかといえば女性の方が優遇されている」または「女性の方が非常に優遇されている」の割合は 0.5 ポイント高くなっている。

性別にみると、「男が優遇」の割合が女性では 61.3%で女性の方が 7.6 ポイント高い。

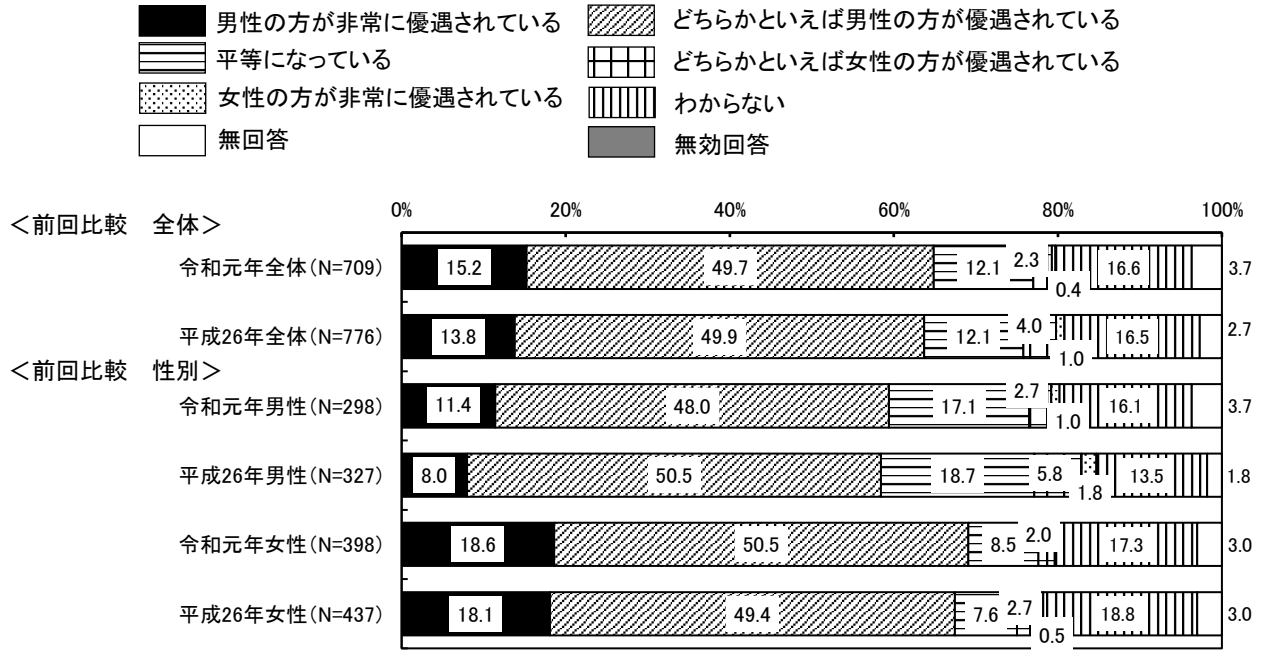
〔学校教育の場〕 (3)



全体では「男性の方が非常に優遇されている」または「どちらかといえば男性の方が優遇されている」（以下、「男が優遇」）が 15.4％である。前回調査と比べると、「男が優遇」の割合が 0.4 ポイント低く、「平等になっている」の割合が 0.1 ポイント高い。「どちらかといえば女性の方が優遇されている」または「女性の方が非常に優遇されている」の割合は 1.1 ポイント低くなっている。

性別にみると、「男が優遇」の割合が女性では 19.1％で女性の方が 8.0 ポイント高い。

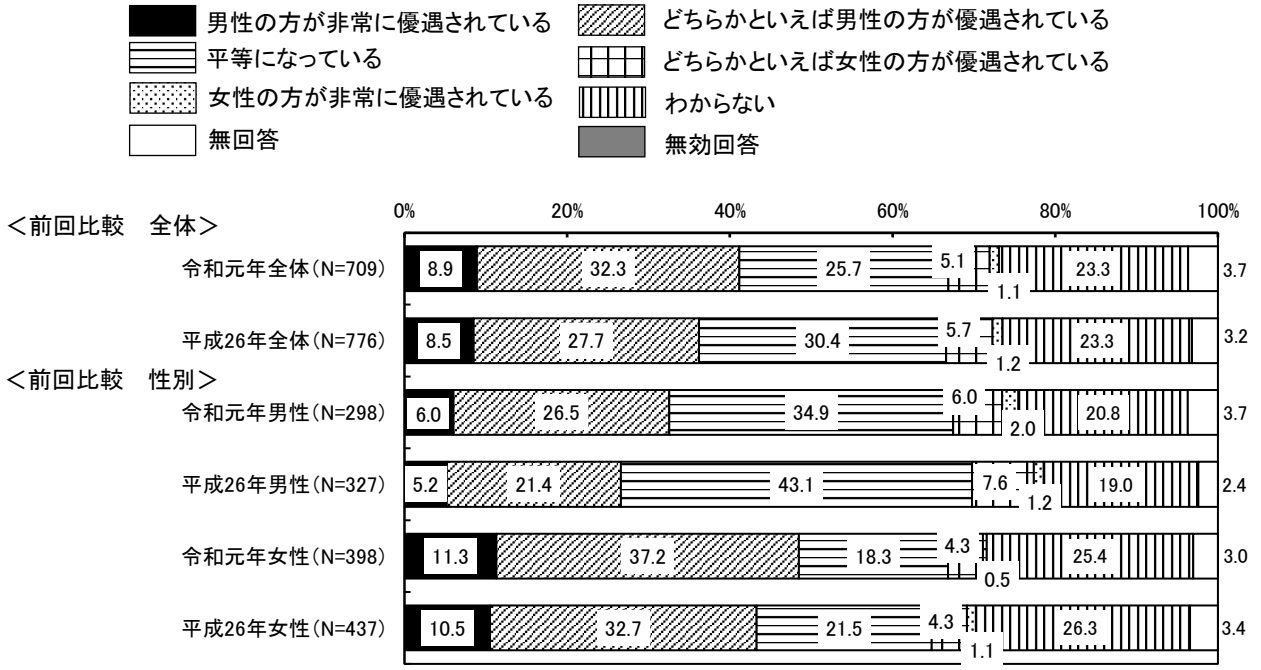
〔社会的慣習や風潮〕 (4)



全体では「男性の方が非常に優遇されている」または「どちらかといえば男性の方が優遇されている」（以下、「男が優遇」）が 64.9％である。前回調査と比べると、「男が優遇」の割合が 1.2 ポイント高く、「平等になっている」の割合は 0 ポイントと変わりない。「どちらかといえば女性の方が優遇されている」または「女性の方が非常に優遇されている」の割合は 2.3 ポイント低くなっている。

性別にみると、「男が優遇」の割合が女性では 69.1％で女性の方が 9.7 ポイント高い。

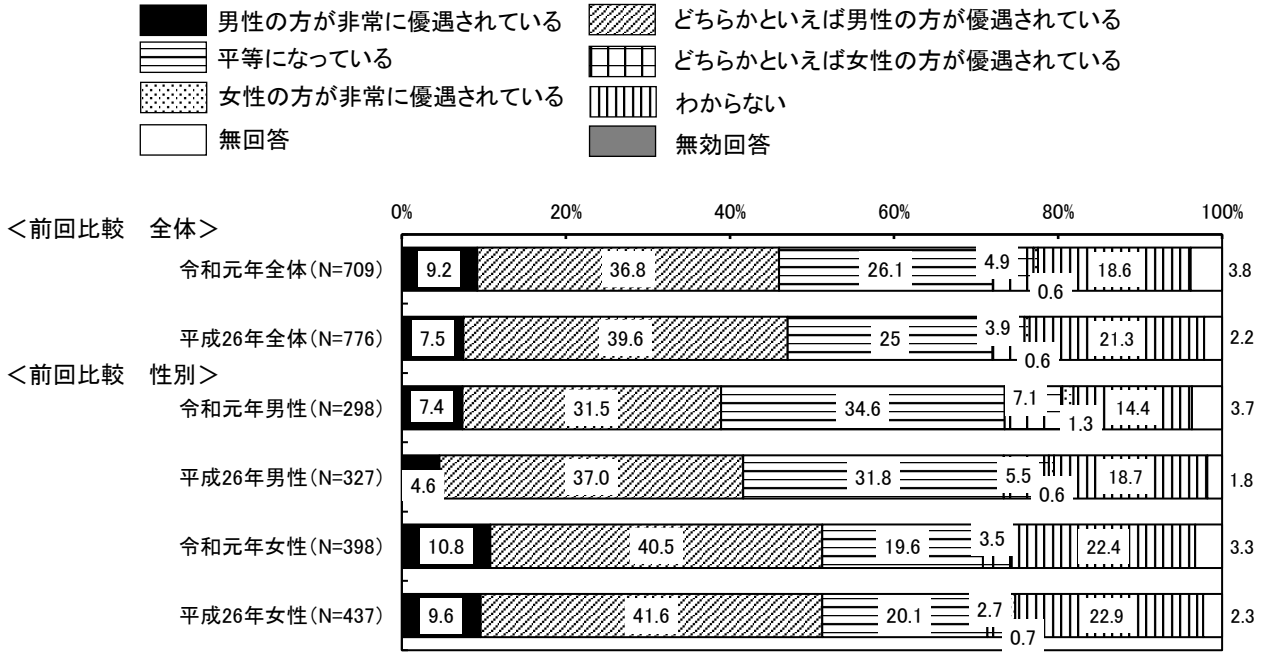
〔法律や制度上〕 (5)



全体では「男性の方が非常に優遇されている」または「どちらかといえば男性の方が優遇されている」(以下、「男が優遇」)が 41.2%である。前回調査と比べると、「男が優遇」の割合が 5.0 ポイント高く、「平等になっている」の割合が 4.7 ポイント低い。「どちらかといえば女性の方が優遇されている」または「女性の方が非常に優遇されている」の割合は 0.7 ポイント低くなっている。

性別にみると、「男が優遇」の割合が女性では 48.5%で女性の方が 16.0 ポイント高い。

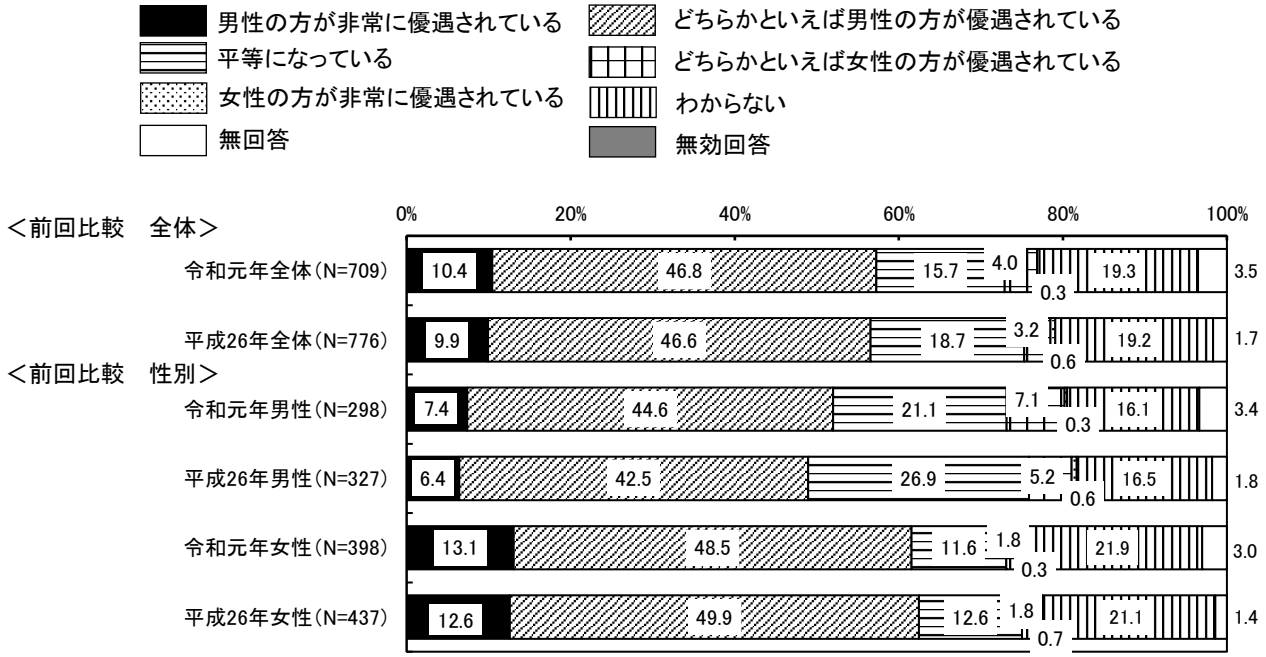
〔地域・社会活動の場〕 (6)



全体では「男性の方が非常に優遇されている」または「どちらかといえば男性の方が優遇されている」(以下、「男が優遇」)が 46.0%である。前回調査と比べると、「男が優遇」の割合が 1.1 ポイント低く、「平等になっている」の割合が 1.1 ポイント高い。「どちらかといえば女性の方が優遇されている」または「女性の方が非常に優遇されている」の割合は 1.0 ポイント高くなっている。

性別にみると、「男が優遇」の割合が女性では 51.3%で女性の方が 12.4 ポイント高い。

〔社会生活全体〕 (7)



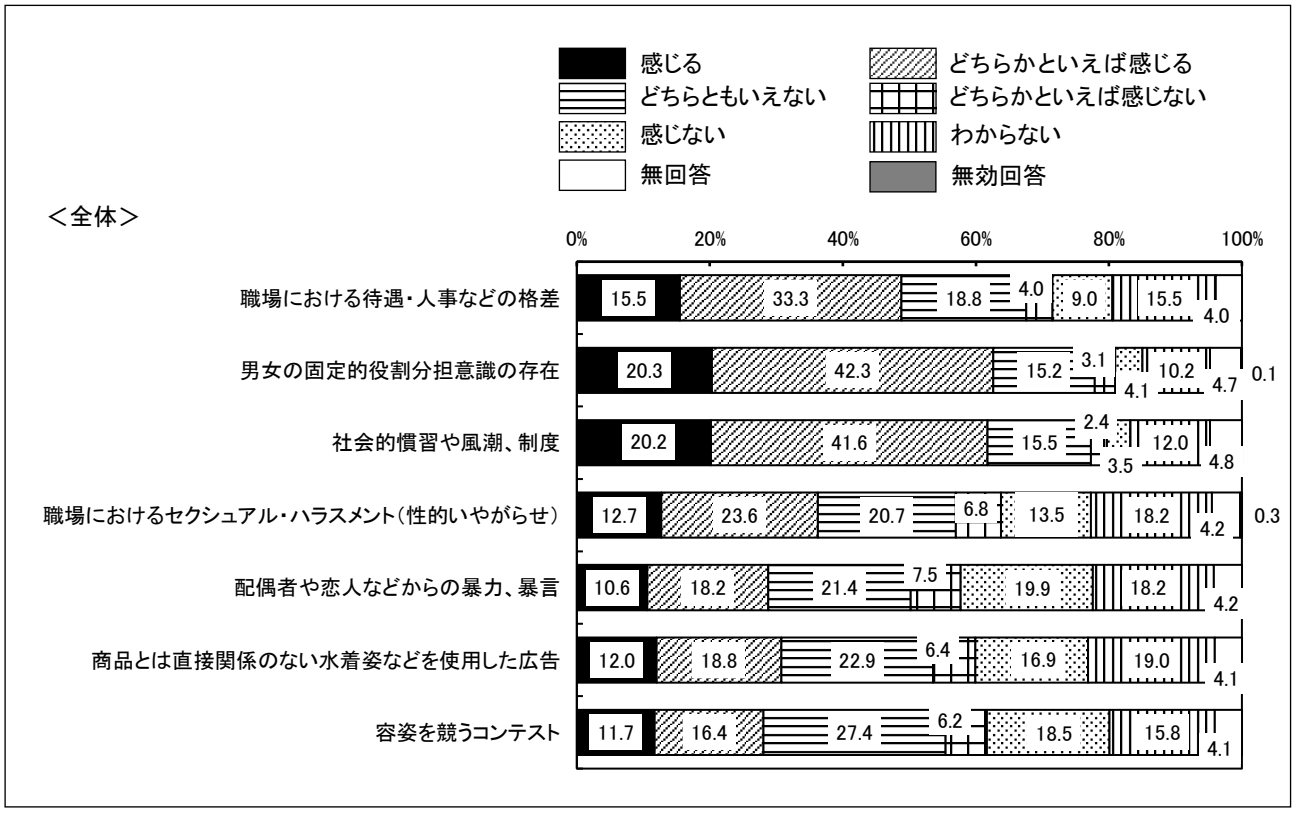
全体では「男性の方が非常に優遇されている」または「どちらかといえば男性の方が優遇されている」(以下、「男が優遇」)が 57.2%である。前回調査と比べると、「男が優遇」の割合が 0.7 ポイント高く、「平等になっている」の割合が 3.0 ポイント低い。「どちらかといえば女性の方が優遇されている」または「女性の方が非常に優遇されている」の割合は 0.5 ポイント高くなっている。

性別にみると、「男が優遇」の割合が女性では 61.6%で女性の方が 9.6 ポイント高い。

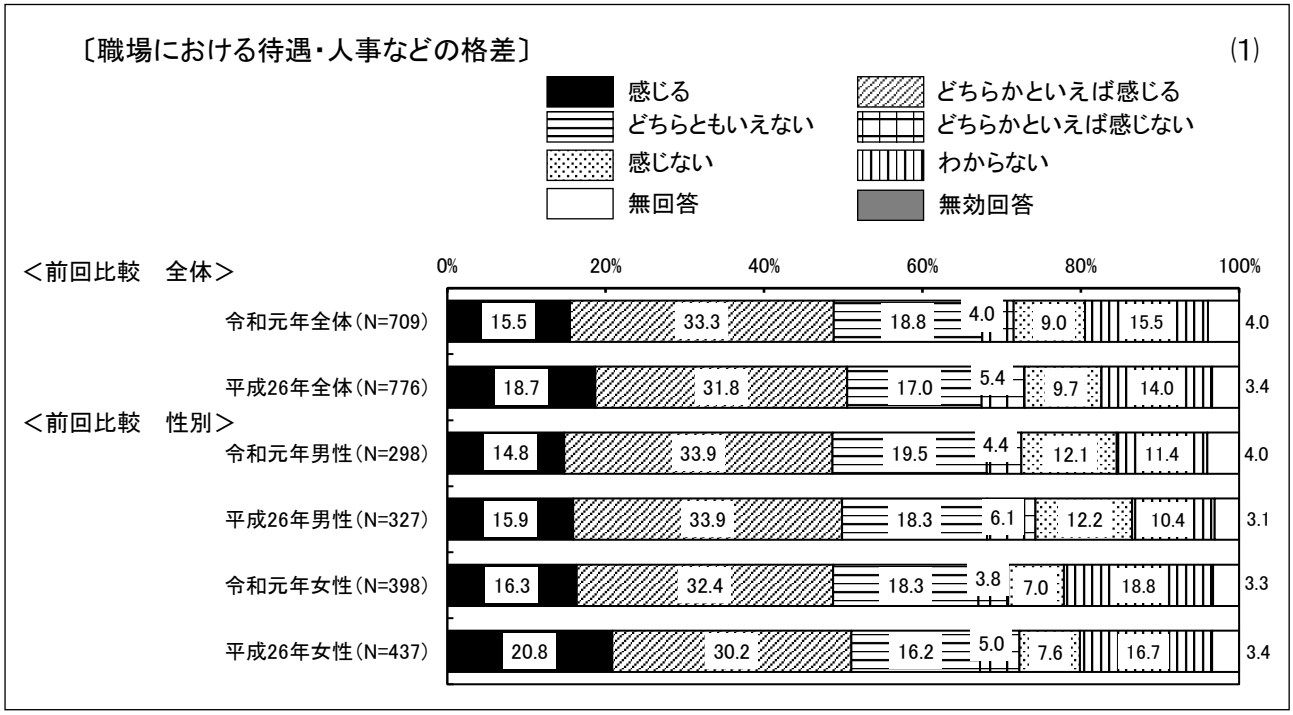
② 女性の人権

問6　主に女性の人権が尊重されていないと感じるのはどのようなことについてですか。

((1)～(7)について○は１つずつ)



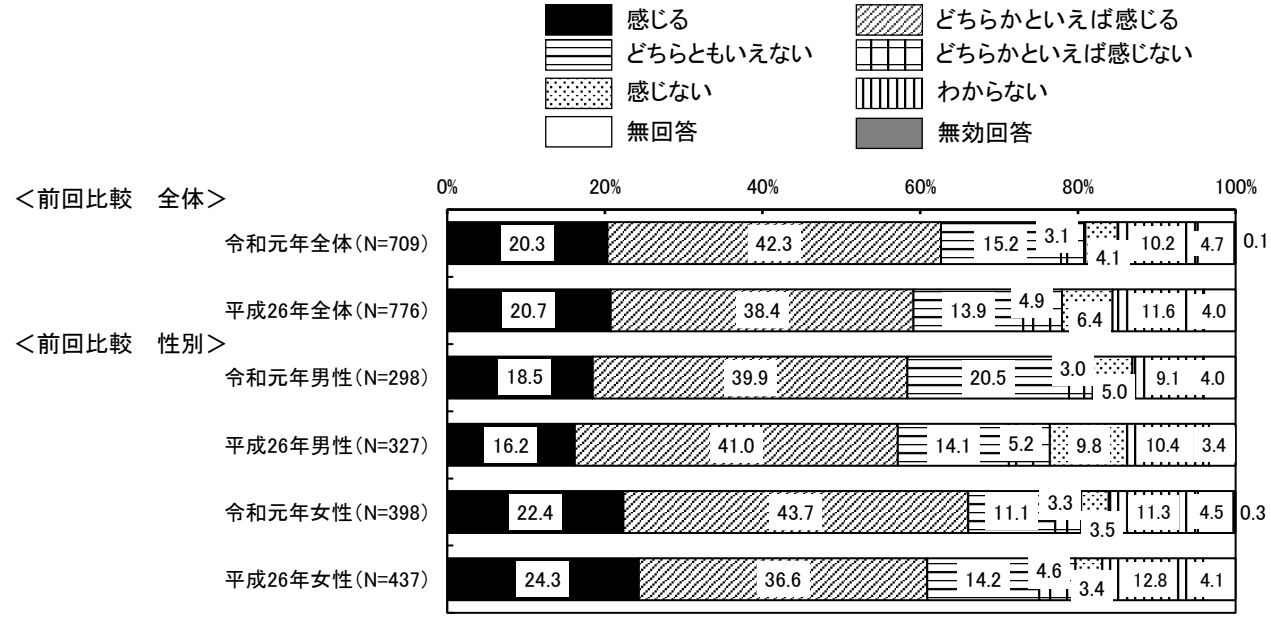
7つの項目のうち、“主に女性の人権が尊重されていない”と「感じる」または「どちらかといえば感じる」の割合は“男女の固定的役割分担意識の存在”(62.6%)が最も高く、次が“社会的慣習や風潮、制度”(61.8%)で、“職場における待遇・人事などの格差”(48.8%)である。



前回調査と比べると、全体では「感じる」または「どちらかといえば感じる」(以下、「尊重されていない」)が 48.8%で 1.7 ポイント低く、「どちらかといえば感じない」または「感じない」が 13.0%で 2.1 ポイント低くなっている。

性別にみると、「尊重されていない」の割合は男女とも 48.7%と差がない。

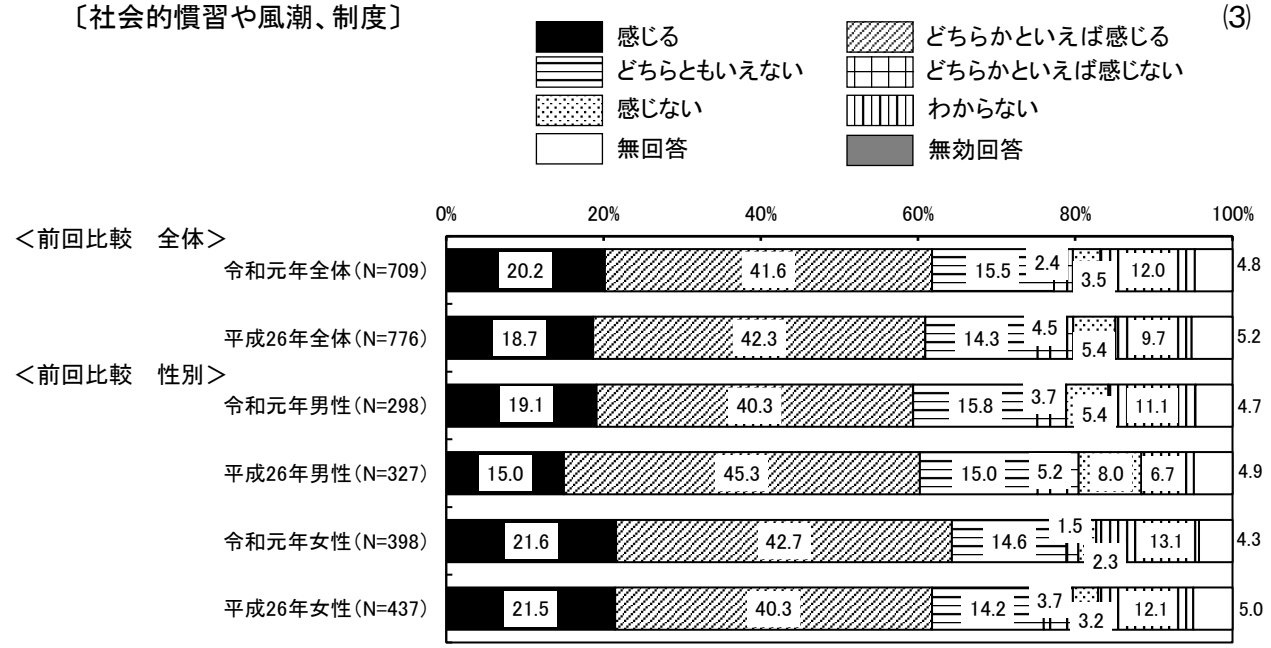
〔男女の固定的役割分担意識の存在〕 (2)



前回調査と比べると、全体では「感じる」または「どちらかといえば感じる」（以下、「尊重されていない」）が 62.6％で 3.5 ポイント高く、「どちらかといえば感じない」または「感じない」が 7.2％で 4.1 ポイント低くなっている。

性別にみると、「尊重されていない」の割合は女性では 66.1％で女性の方が 7.7 ポイント高い。

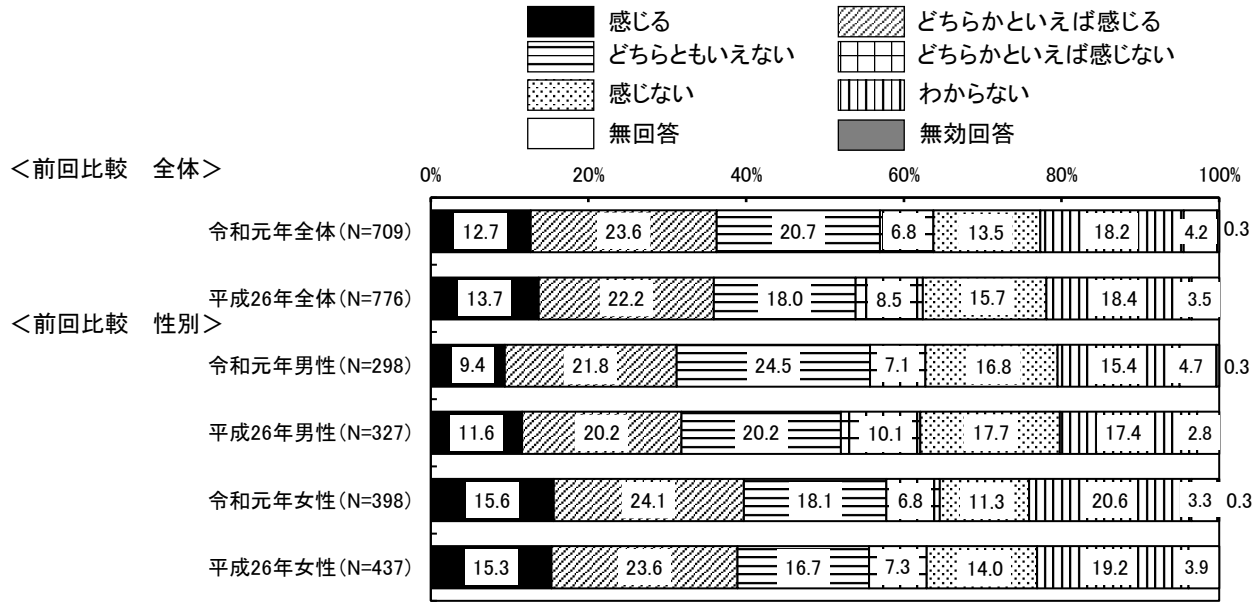
〔社会的慣習や風潮、制度〕 (3)



前回調査と比べると、全体では「感じる」または「どちらかといえば感じる」（以下、「尊重されていない」）が 61.8％で 0.8 ポイント高く、「どちらかといえば感じない」または「感じない」が 5.9％で 4.0 ポイント低くなっている。

性別にみると、「尊重されていない」の割合は女性では 64.3％で女性の方が 4.9 ポイント高い。

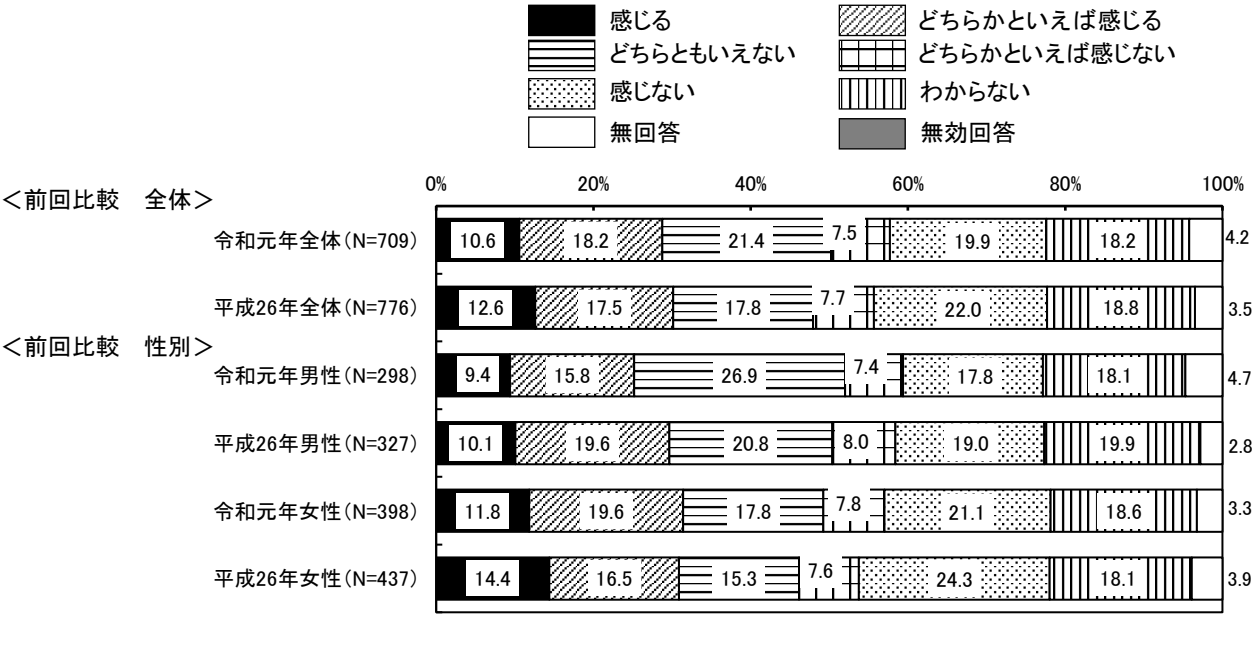
〔職場におけるセクシュアル・ハラスメント（性的いやがらせ）〕 (4)



前回調査と比べると、全体では「感じる」または「どちらかといえば感じる」（以下、「尊重されていない」）が 36.3％で 0.4 ポイント高く、「どちらかといえば感じない」または「感じない」が 20.3％で 3.9 ポイント低くなっている。

性別にみると、「尊重されていない」の割合は女性では 39.7％で女性の方が 8.5 ポイント高い。

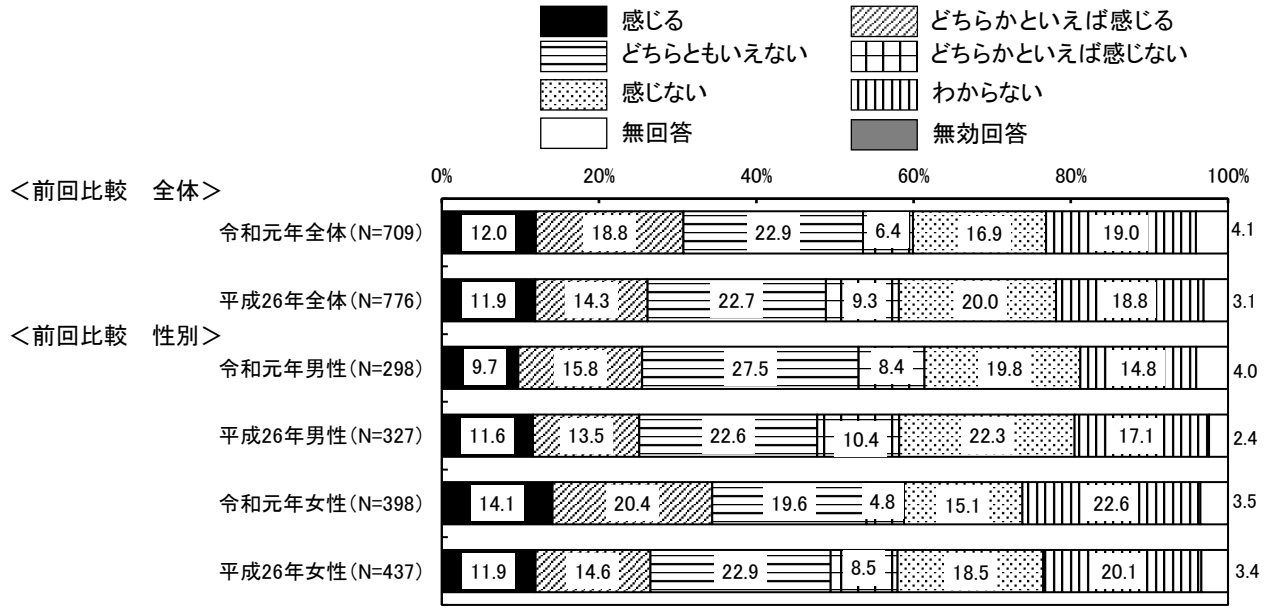
〔配偶者や恋人などからの暴力、暴言〕 (5)



前回調査と比べると、全体では「感じる」または「どちらかといえば感じる」（以下、「尊重されていない」）が 28.8％で 1.3 ポイント低く、「どちらかといえば感じない」または「感じない」が 27.4％で 2.3 ポイント低くなっている。

性別にみると、「尊重されていない」の割合は女性では 31.4％で女性の方が 6.2 ポイント高い。

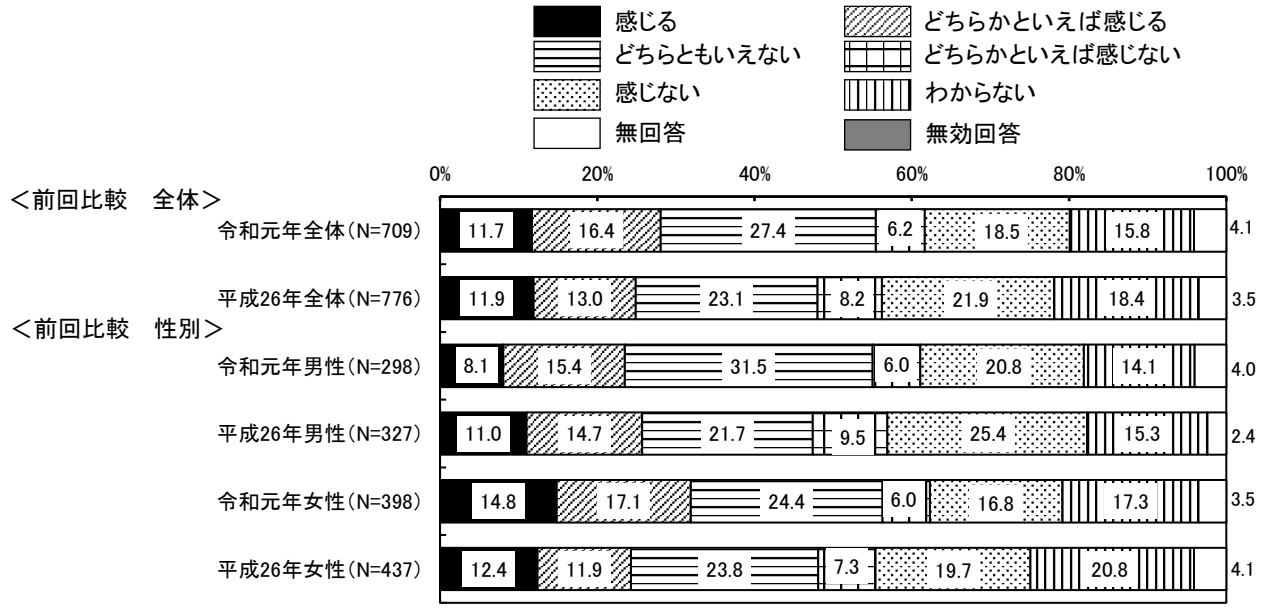
〔商品とは直接関係のない水着姿などを使用した広告〕 (6)



前回調査と比べると、全体では「感じる」または「どちらかといえば感じる」（以下、「尊重されていない」）が 30.8％で 4.6 ポイント高く、「どちらかといえば感じない」または「感じない」が 23.3％で 6.0 ポイント低くなっている。

性別にみると、「尊重されていない」の割合は女性では 34.5％で女性の方が 9 ポイント高い。

〔容姿を競うコンテスト〕 (7)



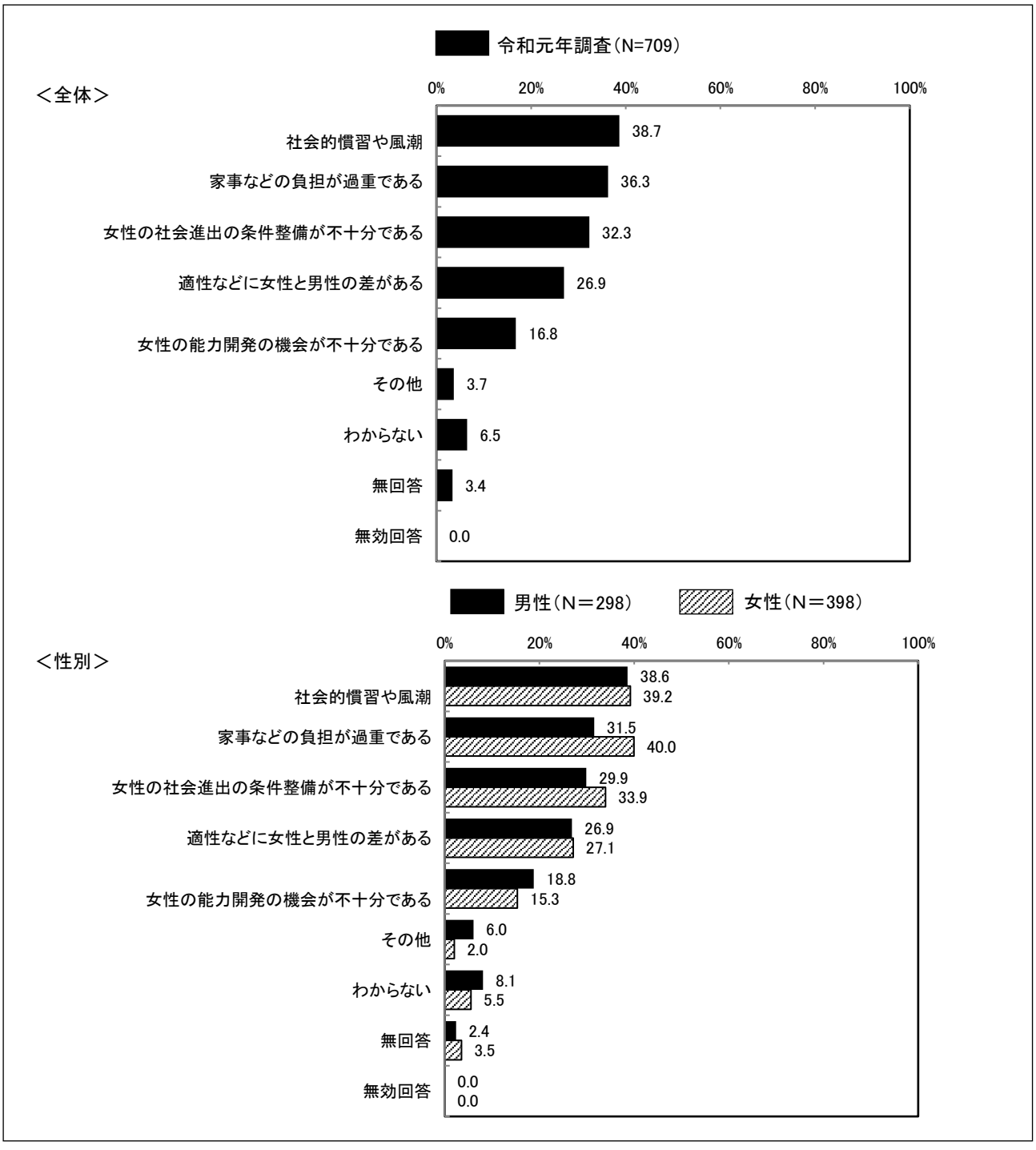
前回調査と比べると、全体では「感じる」または「どちらかといえば感じる」（以下、「尊重されていない」）が 28.1％で 3.2 ポイント高く、「どちらかといえば感じない」または「感じない」が 24.7％で 5.4 ポイント低くなっている。

性別にみると、「尊重されていない」の割合は女性では 31.9％で女性の方が 8.4 ポイント高い。

③ 女性の管理職が少ない理由

問7　職場の管理職に女性が少ないのはどのような理由からだと思いますか。

（○は 2 つ以内）



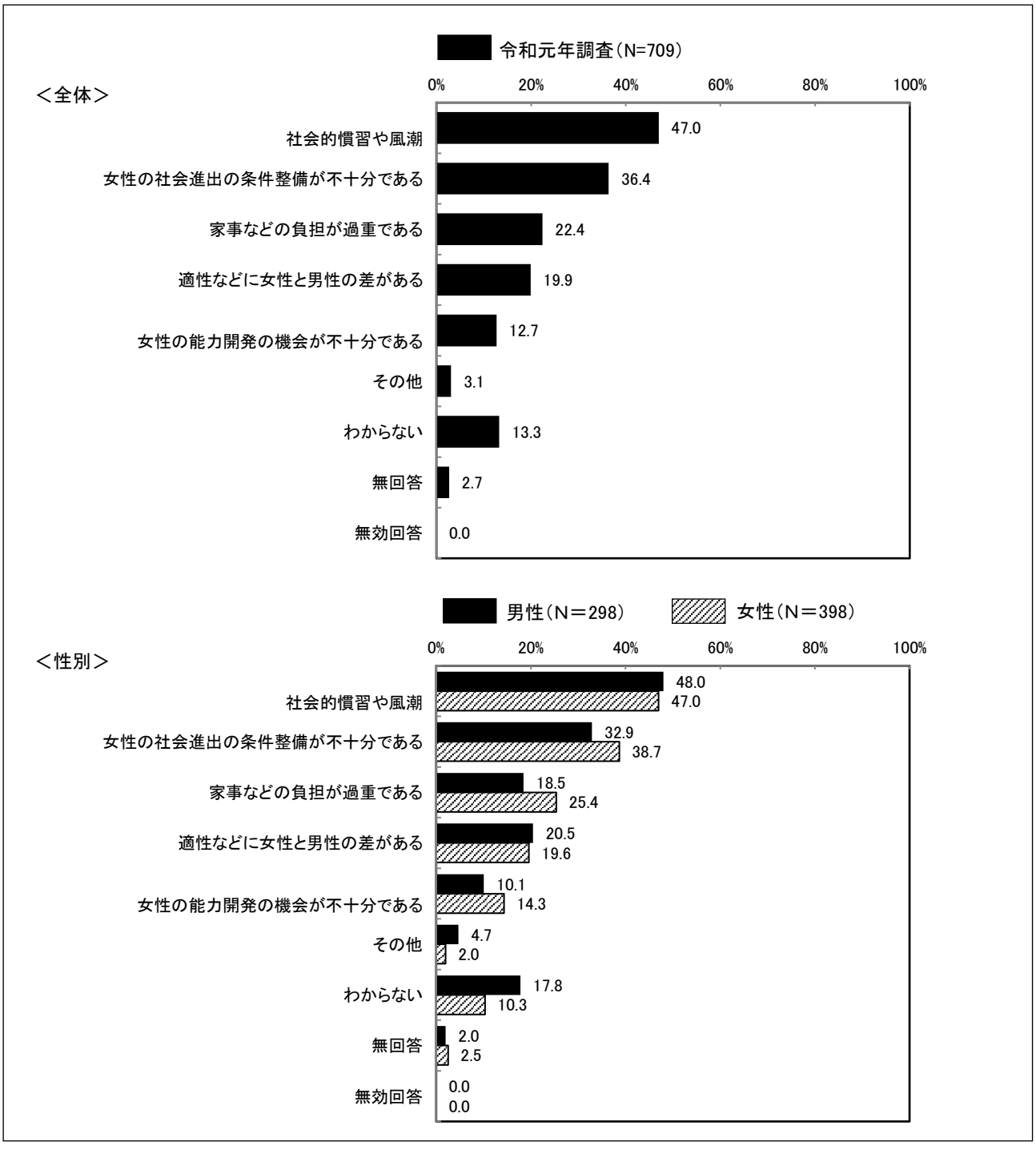
全体では「社会的慣習や風潮」が 38.7％で最も高く、次に「家事などの負担が過重である」が 36.3％で、「女性の社会進出の条件整備が不十分である」が 32.3％である。

性別にみると、「家事などの負担が過重である」の割合が女性では 40.0％で最も高く、女性の方が 8.5 ポイント高い。また、「女性の社会進出の条件整備が不十分である」の割合が女性では 33.9％で女性の方が 4.0 ポイント高い。

④ 女性の議員が少ない理由

問8　女性の議員が少ないのはどのような理由からだと思いますか。

（○は 2 つ以内）



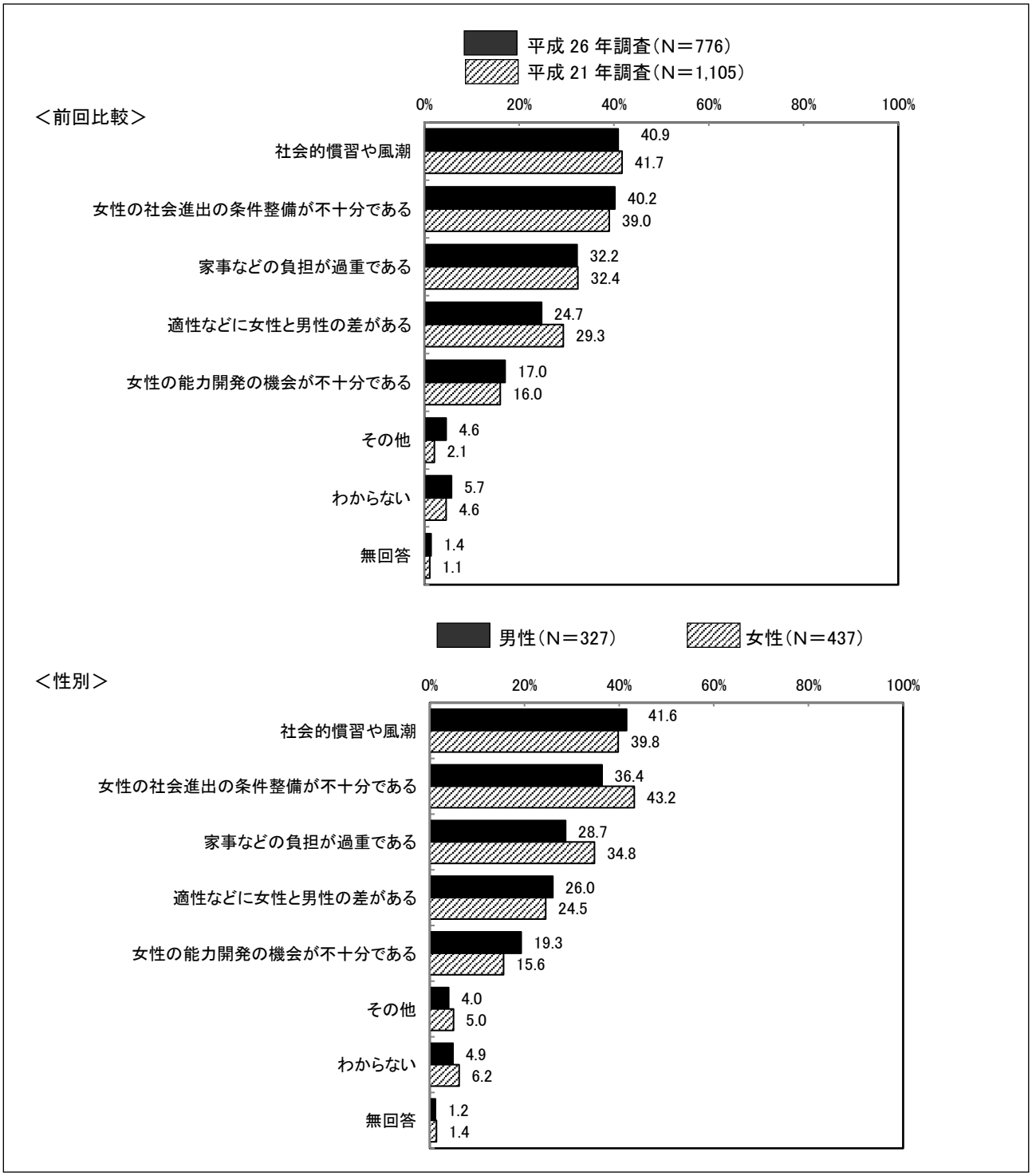
全体では「社会的慣習や風潮」が 47.0％で最も高く、次に「女性の社会進出の条件整備が不十分である」が 36.4％で、「家事などの負担が過重である」が 22.4％である。

性別にみると、「社会的習慣や風潮」の割合が女性では 47.0％で最も高い。また、「家事などの負担が過重である」の割合が女性では 25.4％で女性の方が 6.9 ポイント高い。

※参考資料(26 年調査)

女性の議員や職場の管理職などが少ないのはどのような理由からだと思いますか。

(○は 2 つ以内)



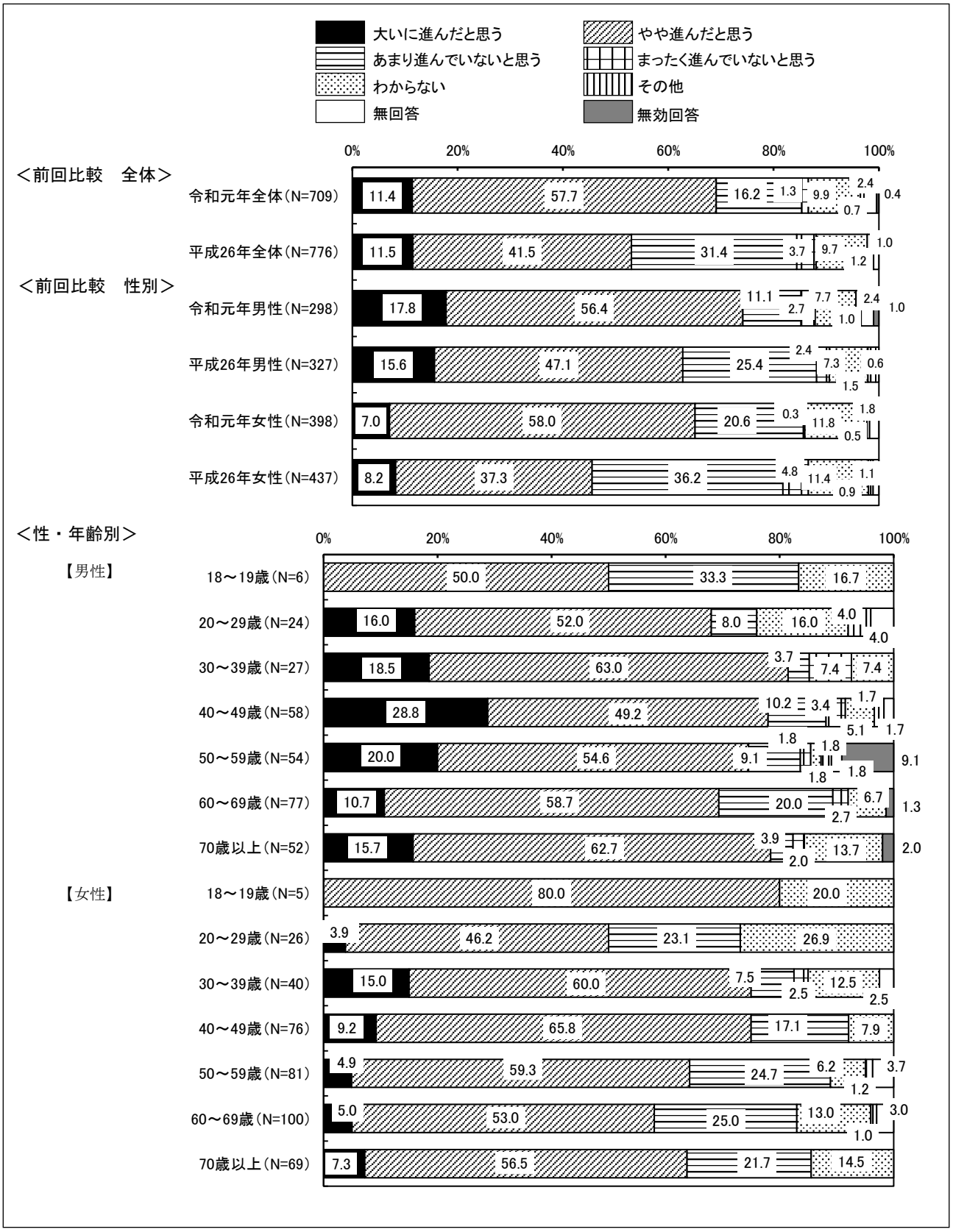
全体では「社会的慣習や風潮」が 40.9%で最も高く、次に「女性の社会進出の条件整備が不十分である」が 40.2%で、「家事などの負担が過重である」が 32.2%である。

前回調査と比べると、「適正などに女性と男性の差がある」の割合が 4.6 ポイント低くなっている。

性別にみると、「女性の社会進出の条件整備が不十分である」の割合が女性では 43.2%で最も高く、女婿の方が 6.8 ポイント高い。また、「家事などの負担が過重である」の割合が女性では 34.8%で女性の方が 6.1 ポイント高い。

⑤ 男女平等の進捗度

問9　10年前に比べて男女平等が進んだと思いますか。（○は１つ）



全体では「やや進んだ」が 57.7%で最も高く、次に「あまり進んでいない」が 16.2%である。「大いに進んだ」または「やや進んだ」(以下、「進んだ」)が 69.1%で、「あまり進んでいない」または「まったく進んでいない」(以下、「進んでいない」)が 17.5%と、「進んだ」の方が 51.6 ポイント高い。

前回調査と比べると、「進んだ」の割合が 16.1 ポイント高く、「進んでいない」の割合が 17.6 ポイント低くなっている。

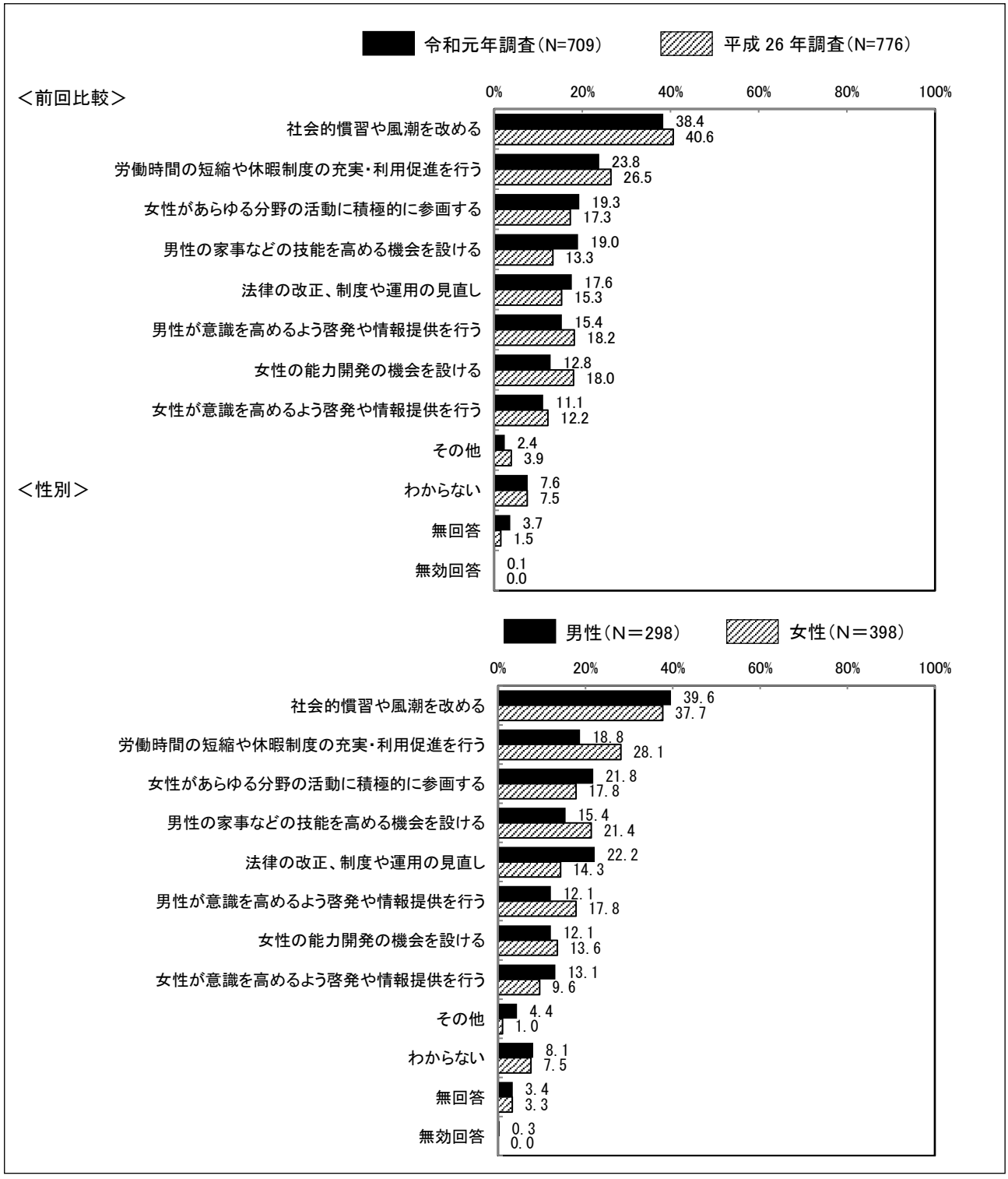
性別にみると、「進んだ」の割合が男性では 74.2%で、女性では 65.0%と、男性の方が 9.2 ポイント高い。また、「進んでいない」の割合が女性では 20.9%で、男性では 13.8%と、女性の方が 7.1 ポイント高い。

性・年齢別にみると、「進んだ」の割合は 30 歳代男性(81.5%)が最も高く、18～19 歳男性(50.0%)が最も低い。

⑥ 男女平等をさらに推進するための条件

問 10　男女が社会のあらゆる分野でもっと平等になるために何が重要であると思いますか。

（○は 2 つ以内）



全体では「社会的慣習や風潮を改める」が 38.4％で最も高く、次に「労働時間の短縮や休暇制度の充実・利用促進を行う」が 23.8％で、「女性があらゆる分野の活動に積極的に参画する」が 19.3％である。

前回調査と比べると、「男性の家事などの技能を高める機会を設ける」が 5.7 ポイント高く、「女性の能力開発の機会を設ける」が 5.2 ポイント低くなっている。

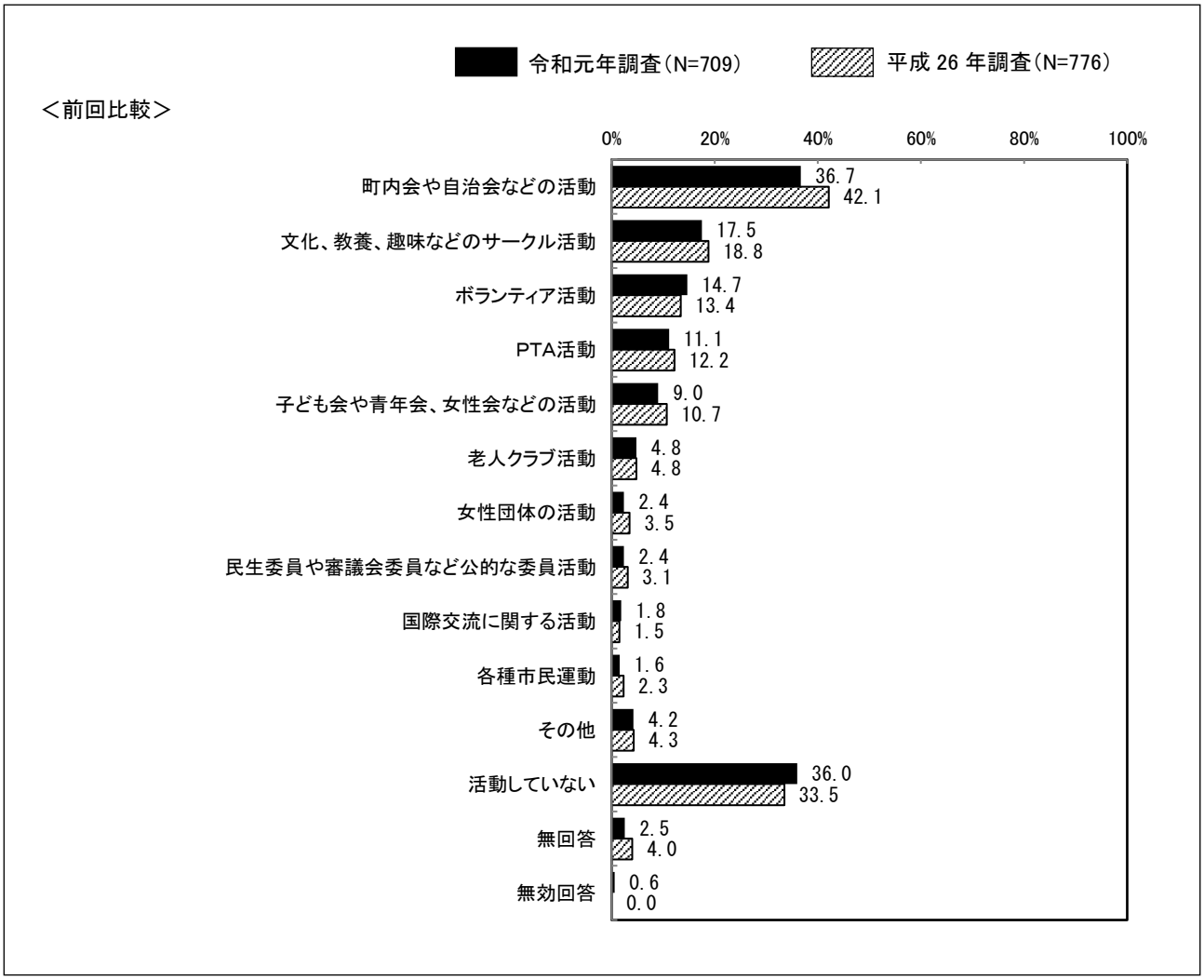
性別にみると、「労働時間の短縮や休暇制度の充実・利用促進を行う」の割合が女性では 28.1％で女性の方が 9.3 ポイント高い。

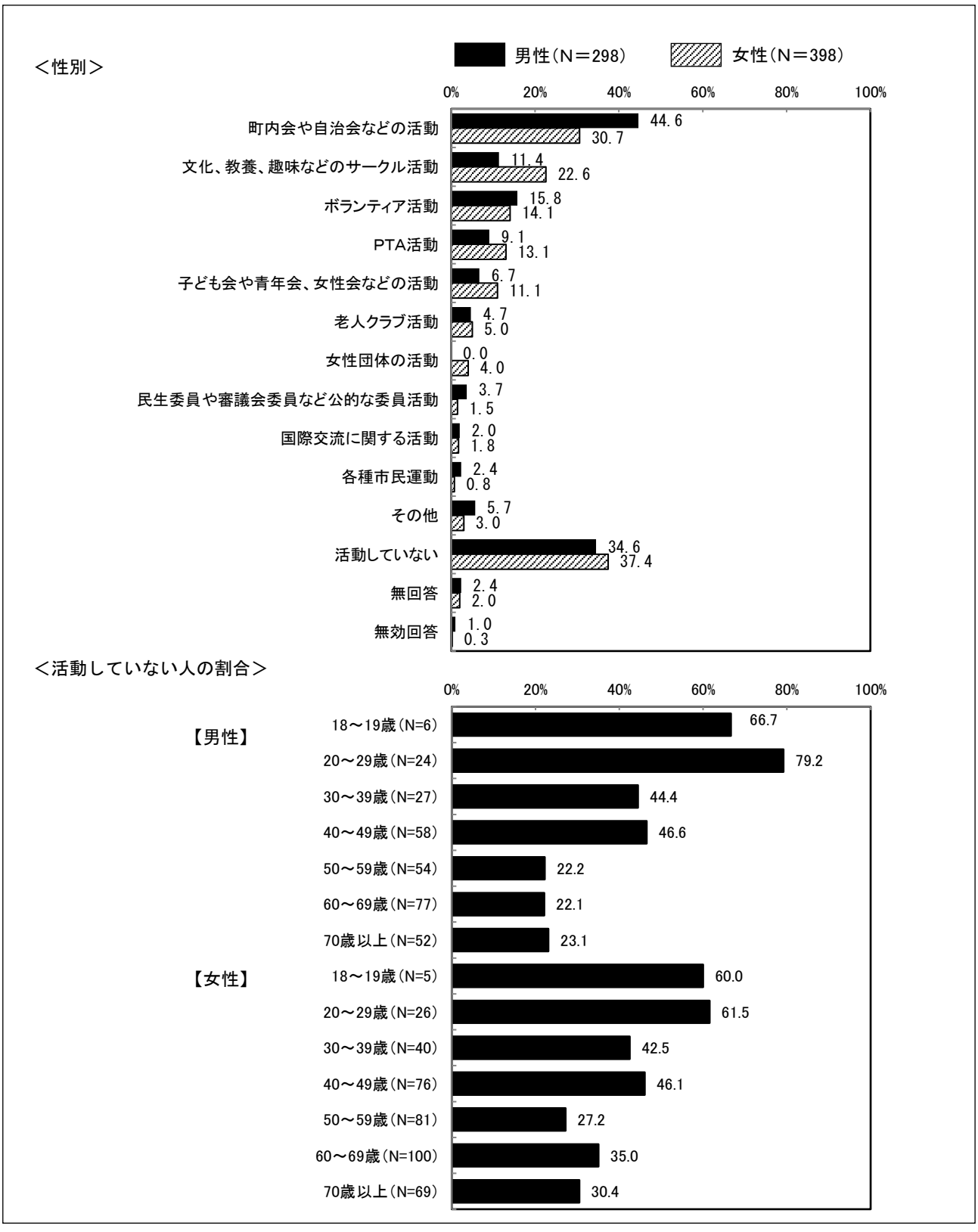
2 地域・社会活動

（1） 地域・社会活動への参加状況

① 活動内容と参加状況

問 11-1 現在、「地域・社会」でどのような活動をしていますか。（あてはまるものすべてに○）





全体では「町内会や自治会などの活動」が 36.7%で最も高く、次に「文化、教養、趣味などのサークル活動」が 17.5%で、「ボランティア活動」が 14.7%である。

また、全体から「活動していない」「無回答」「無効回答」を除いた割合は 60.9%であり、6 割以上が何らかの地域・社会活動に参加していることになる。

前回調査と比べると、「町内会や自治会などの活動」の割合が 5.4 ポイント低くなり、「活動していない」の割合が 2.5 ポイント高くなっている。

性別にみると、「町内会や自治会などの活動」の割合が男性では 44.6%で男性の方が 13.9 ポイント高い。

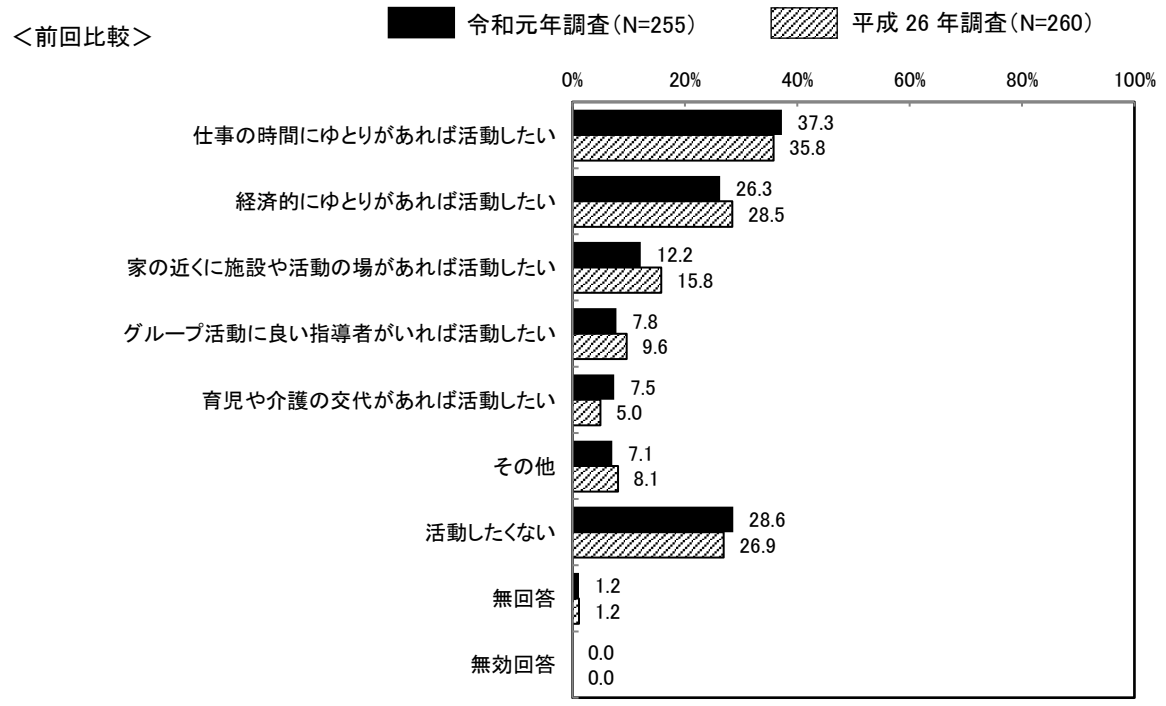
性・年齢別にみると、「活動していない」が 18～19 歳・20 歳代男女では 6 割以上である。また、「活動していない」の割合が 40 歳代で男性の方が 0.5 ポイント高く、50 歳代で女性の方が 5.0 ポイント高い。

② 今後の活動参加の条件

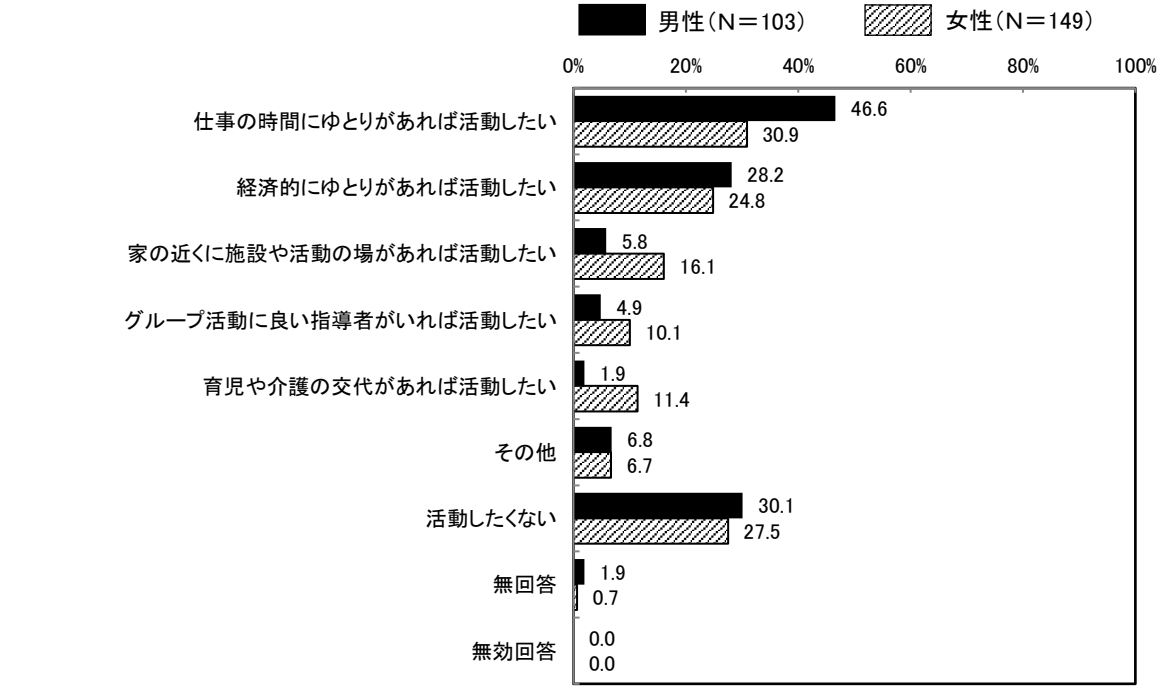
問 11-2 問 11-1 で「12 活動していない」とお答えの方におたずねします。

今後の活動についてどのようにお考えですか。（あてはまるものすべてに○）

＜前回比較＞



＜性別＞



全体では「仕事の時間にゆとりがあれば活動したい」が 37.3％で最も高く、次に「活動したくない」が 28.6％で、「経済的にゆとりがあれば活動したい」が 26.3％である。

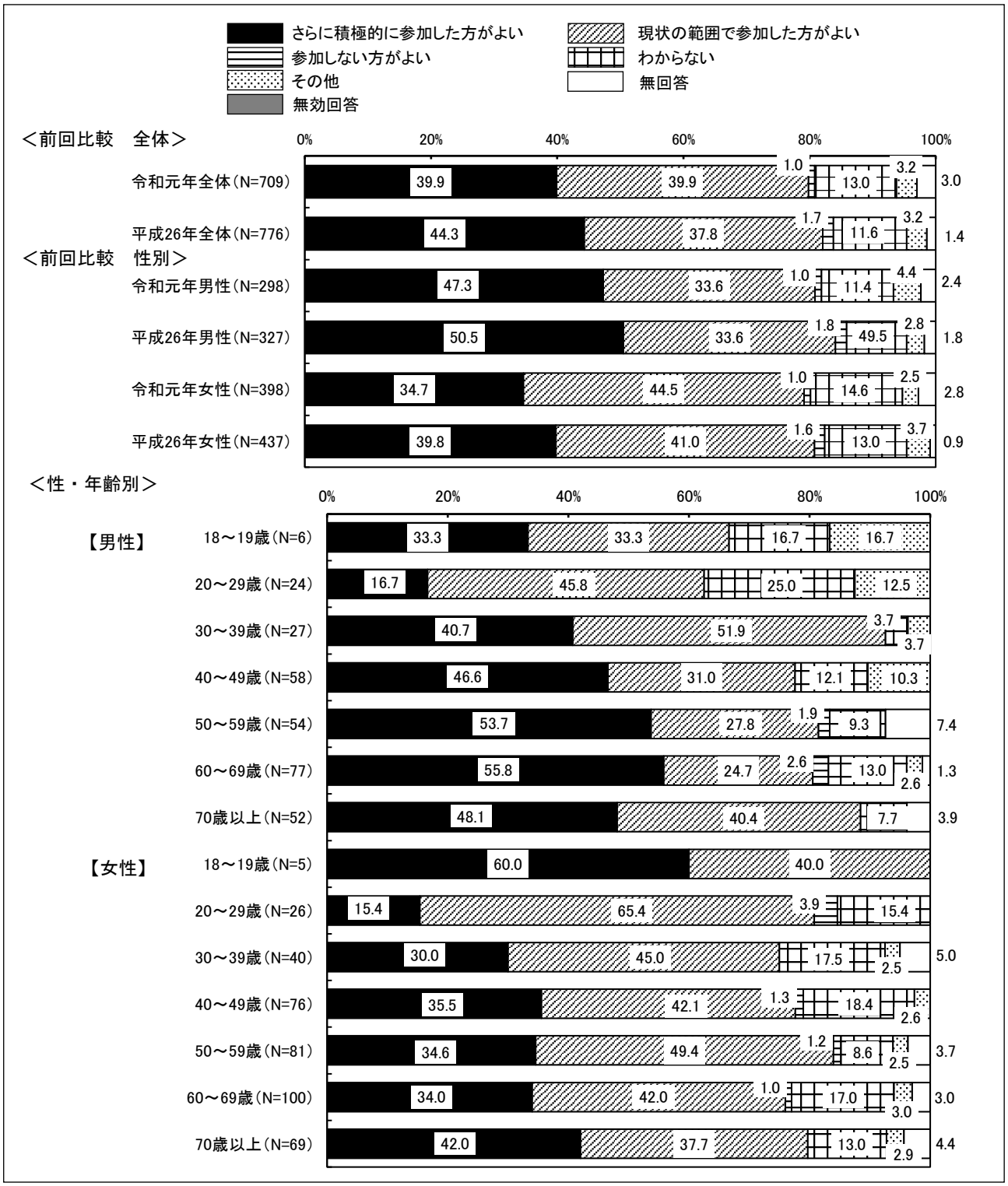
前回調査と比べると、「活動したくない」の割合が 1.7 ポイント高くなっている。

性別にみると、「仕事の時間にゆとりがあれば活動したい」の割合が、女性の方が 15.7 ポイント高い。

（2） 女性の社会参加に関する意識

① 女性の社会参加について

問 12 女性が「地域・社会」活動に参加することについてどのように思いますか。（○は 1 つ）



全体では「さらに積極的に参加した方がよい」「現状の範囲で参加した方がよい」がともに 39.9%で最も高く、次に「わからない」が 13.0%である。

前回調査と比べると、「さらに積極的に参加した方がよい」の割合が 4.4 ポイント低くなっている。

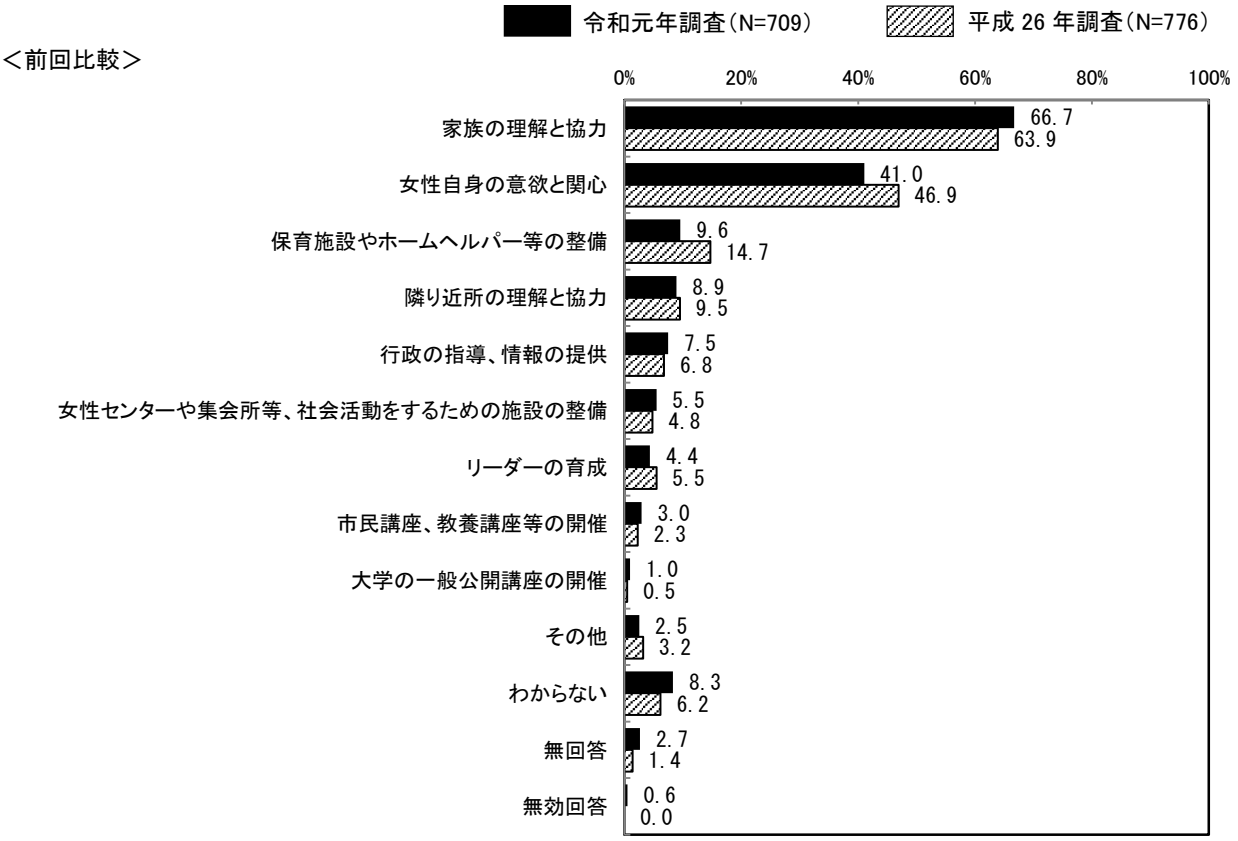
性別にみると、「さらに積極的に参加した方がよい」の割合が男性では 47.3%で男性の方が 12.6 ポイント高い。

性・年齢別にみると、50 歳代・60 歳代では「さらに積極的に参加した方がよい」の割合の男女差が大きい。

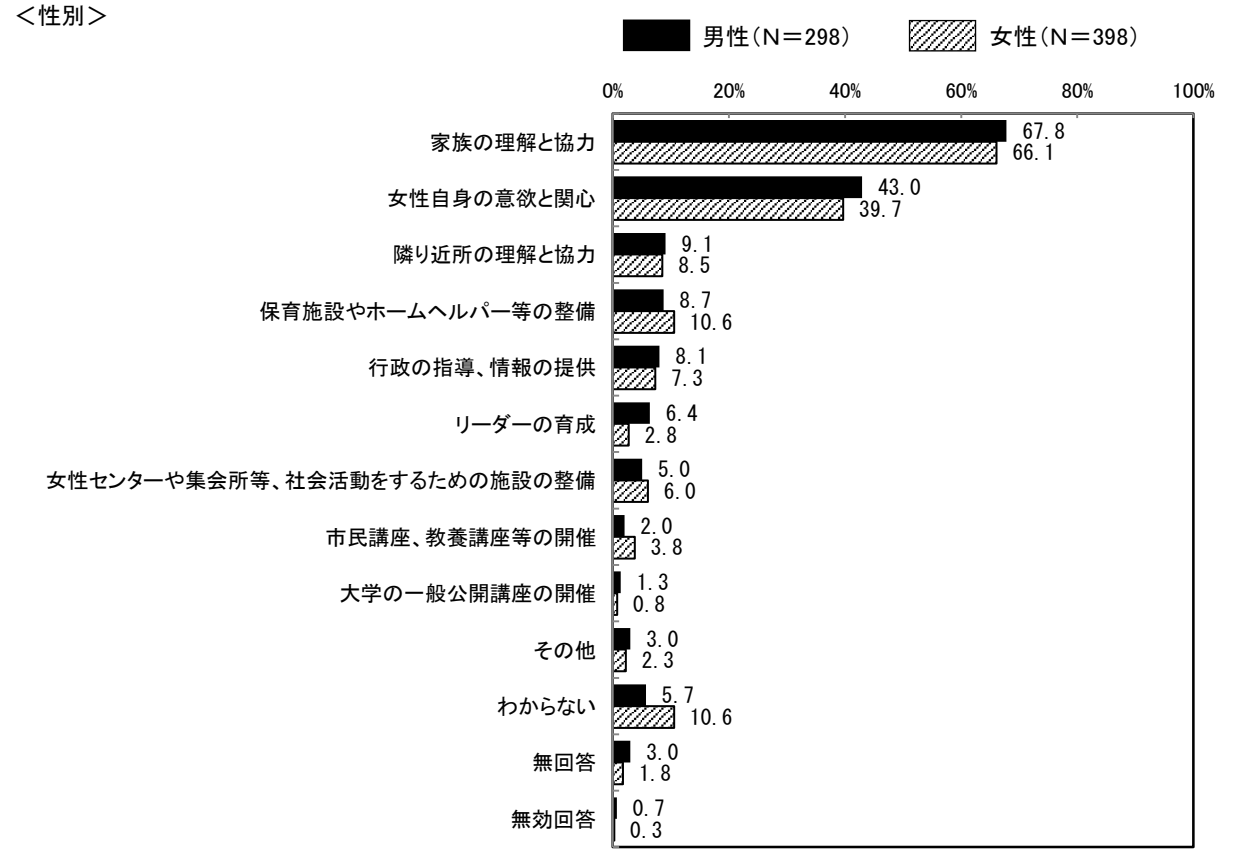
② 女性が社会参加するための条件

問 13 女性が「地域・社会」活動に参加するには何が必要であると思いますか。（○は 2 つ以内）

＜前回比較＞

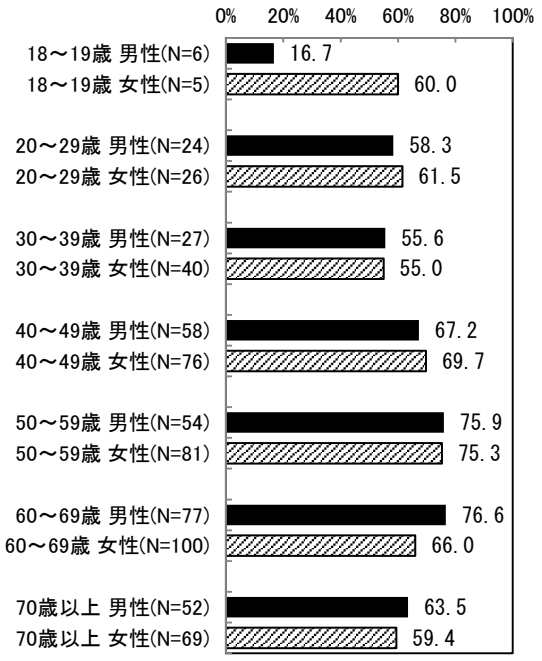


＜性別＞

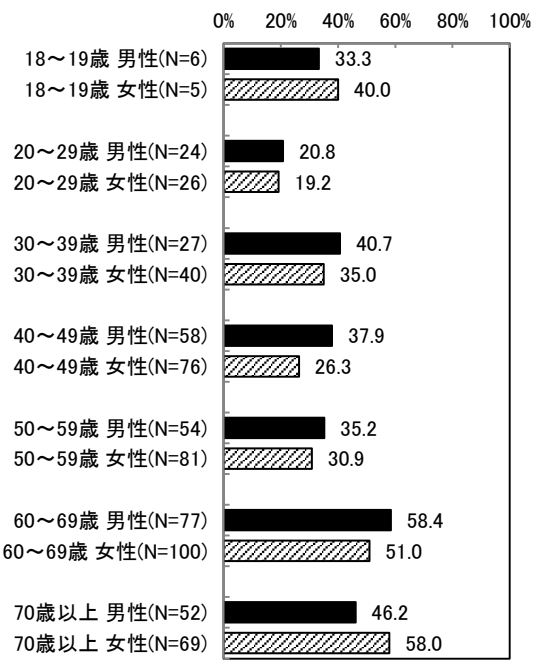


＜性・年齢別＞

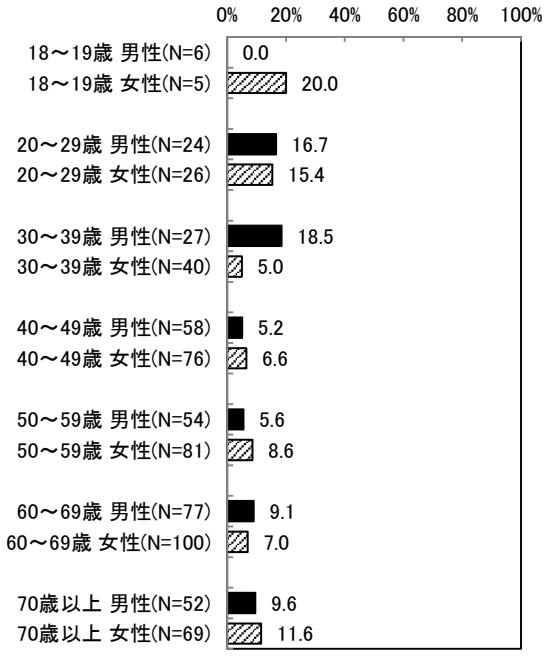
家族の理解と協力



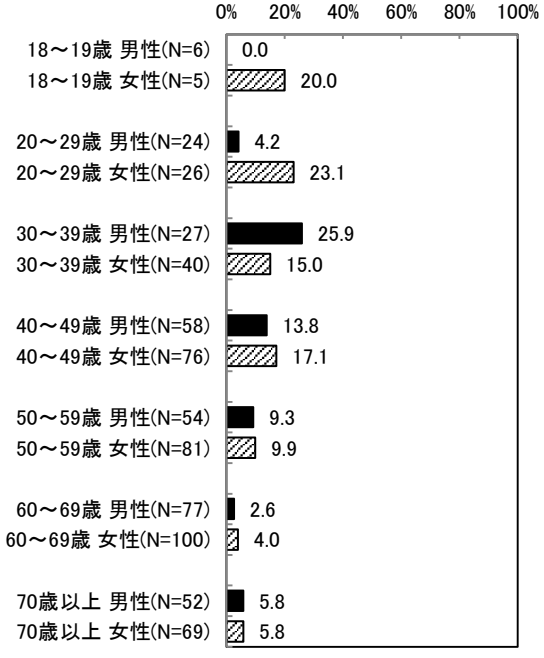
女性の意欲と関心



隣り近所の理解と協力



保育施設やホームヘルパー等の整備



全体では「家族の理解と協力」が 66.7%で最も高く、次に「女性自身の意欲と関心」が 41.0%で、「保育施設や家庭奉仕員制度（ホームヘルパー）等の整備」が 9.6%である。

前回調査と比べると、「家族の理解と協力」の割合が 2.8 ポイント高くなっている。

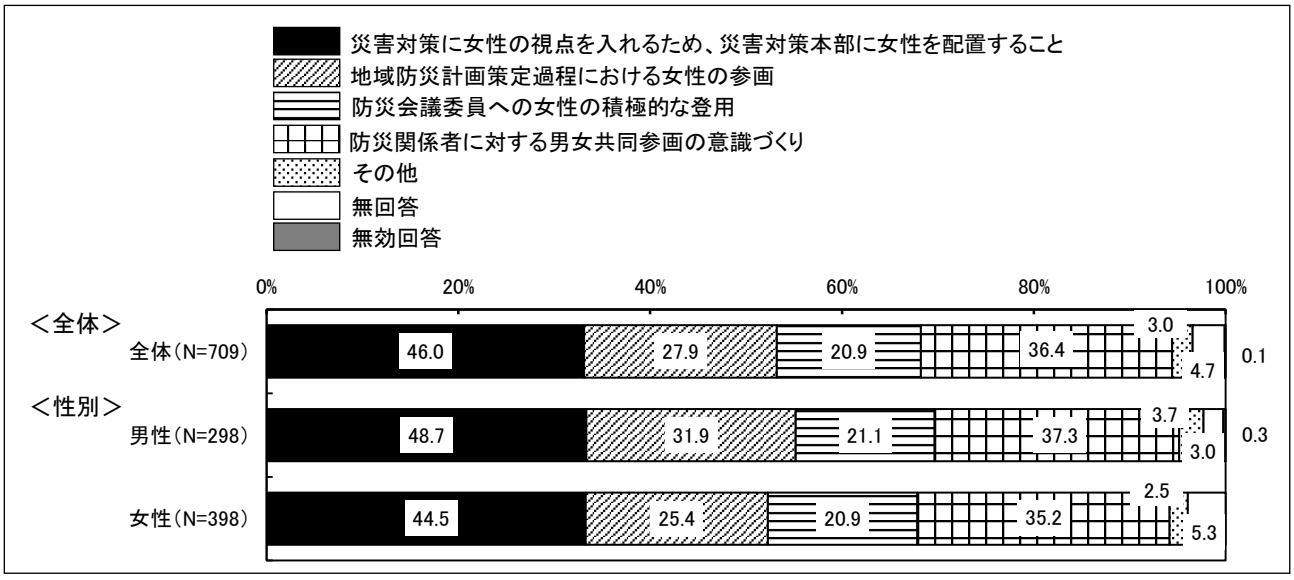
性別にみると、「保育施設や家庭奉仕員制度（ホームヘルパー）等の整備」の割合が女性では 10.6%で女性の方が 1.9 ポイント高い。

性・年齢別にみると、18～19 歳では「家族の理解と協力」の割合の男女差が最も大きい。

（3）防災・災害対策に関する意識

① 自治体の防災・災害対策の体制づくりについて

問 14-1 自治体の防災・災害対策の体制づくりにおいて男女共同参画の視点で、特に何が必要であると思いますか。（○は 2 つ以内）

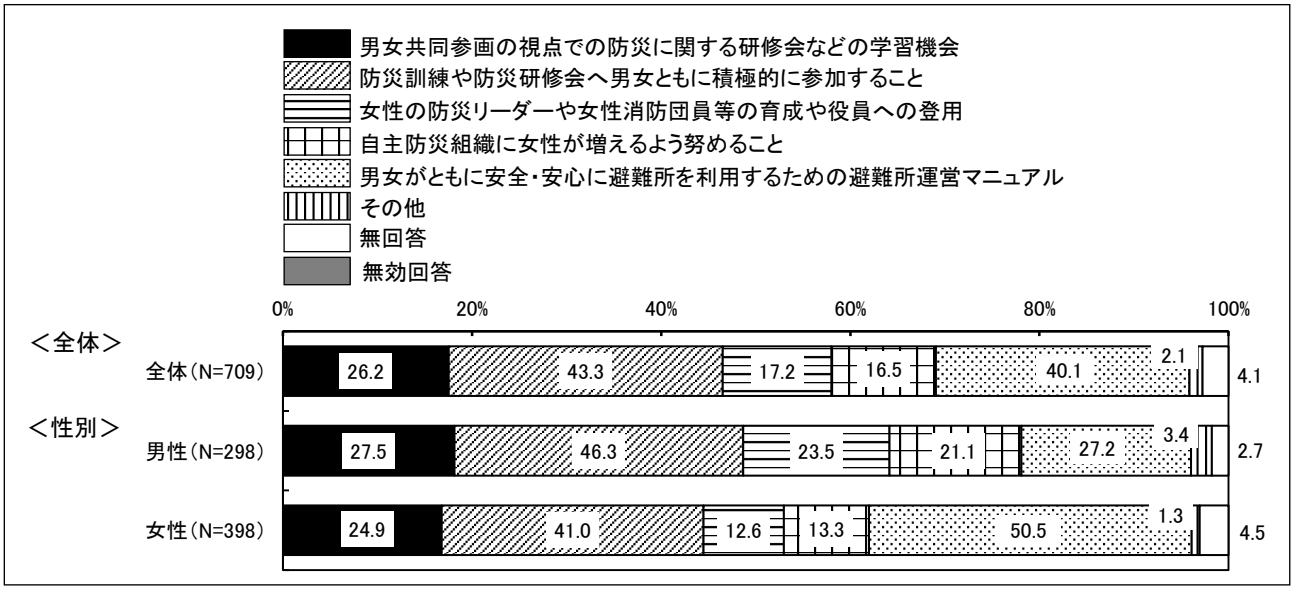


全体では「災害対策に女性の視点を入れるため、災害対策本部に女性を配置すること」が 46.0％で最も高く、次に「防災関係者に対する男女共同参画の意識づくり」が 36.4％で、「地域防災計画策定過程における女性の参画」が 27.9％である。

性別にみると、あまり違いはみられない。

② 地域の防災・災害対策について

問 14-2 地域の防災・災害対策において男女共同参画の視点で、特に何が必要であると思いますか。（○は 2 つ以内）

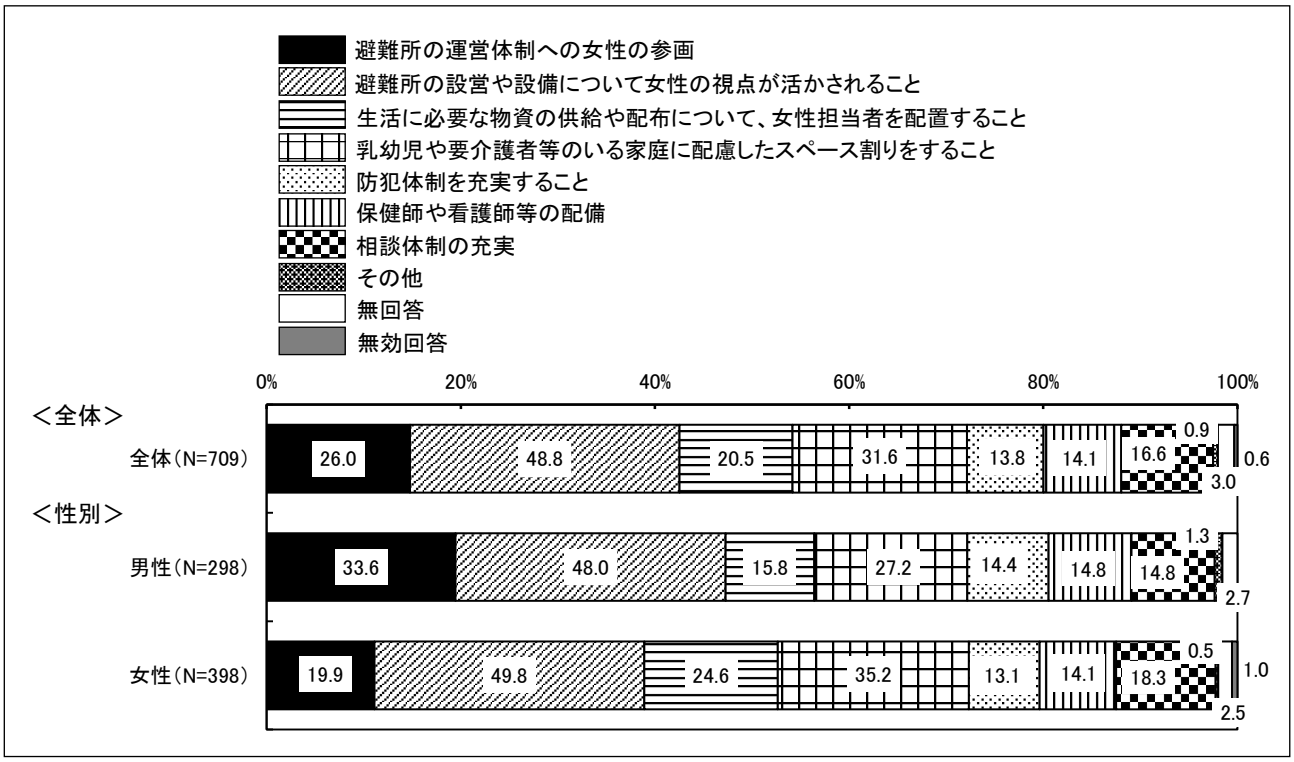


全体では「防災訓練や防災研修会へ男女ともに積極的に参加すること」が 43.3％で最も高く、次に「男女がともに安全・安心に避難所を利用するための避難所運営マニュアル」が 40.1％で、「男女共同参画の視点での防災に関する研修会などの学習機会」が 26.2％である。

性別にみると、「男女がともに安全・安心に避難所を利用するための避難所運営マニュアル」が女性では 50.5％で、男性では 27.2％と、女性の方が 23.3 ポイント高い。

③ 災害時の避難所について

問 14-3 災害時に、避難所において男女共同参画の視点で、特に何が必要であると思いますか。
（○は 2 つ以内）



全体では「避難所の設営や設備について女性の視点が活かされること」が 48.8％で最も高く、次に「乳幼児や要介護者等のいる家庭に配慮したスペース割りをすること」が 31.6％で、「避難所の運営体制への女性の参画」が 26.0％である。

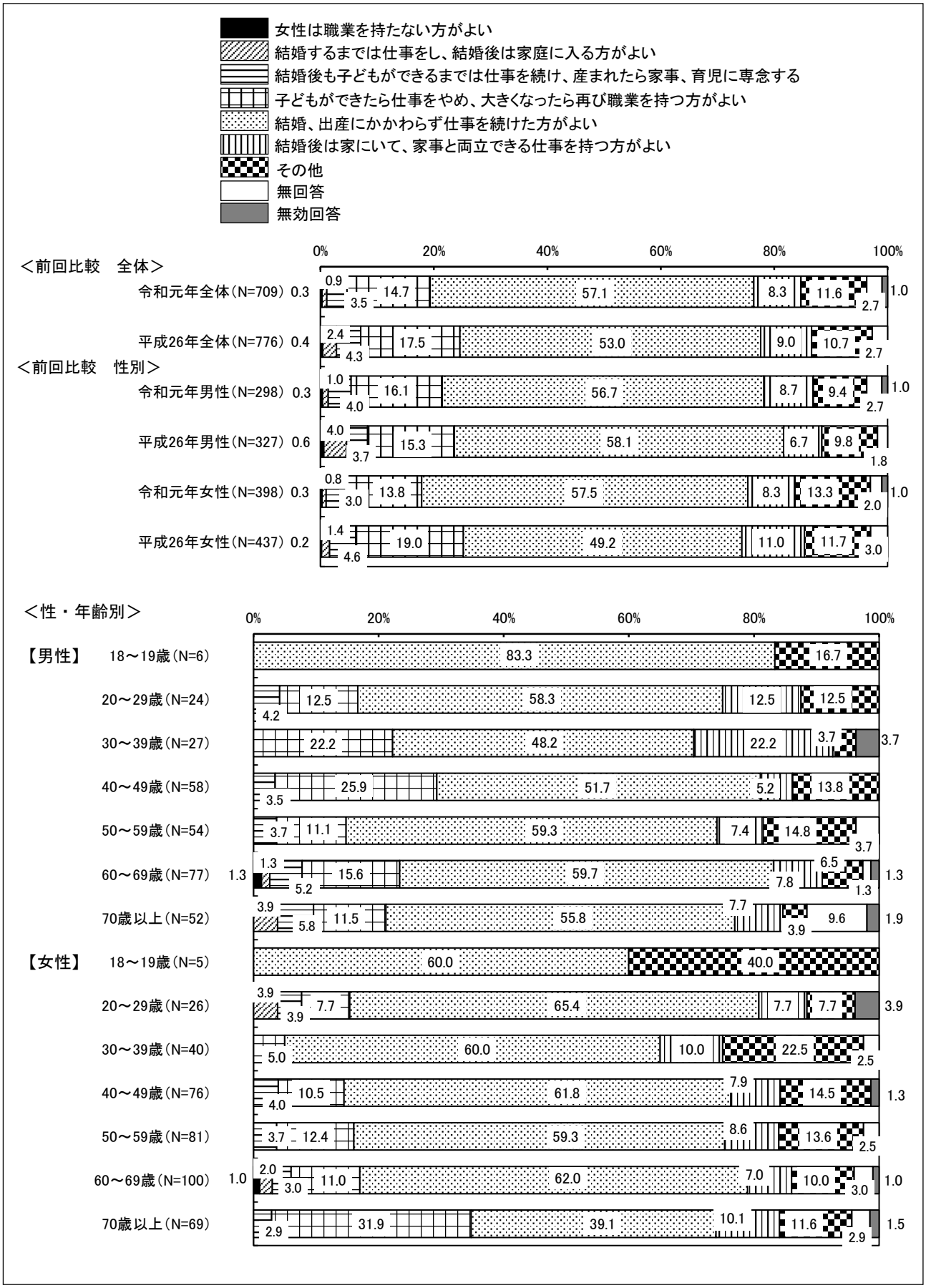
性別にみると、「避難所の運営体制への女性の参画」が男性では 33.6％で、女性では 19.9％と、男性の方が 13.7 ポイント高い。

3 女性の就業と労働環境

（1）女性の就業に関する意識

① 女性が職業をもつことについて

問 15 女性が職業を持つことについてどのようにお考えですか。（○は１つ）



全体では「結婚、出産にかかわらず仕事を続けた方がよい」が 57.1％で最も高く、次に「子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び職業を持つ方がよい」が 14.7％である。

前回調査と比べると、「結婚、出産にかかわらず仕事を続けた方がよい」の割合が 4.1 ポイント高くなっている。

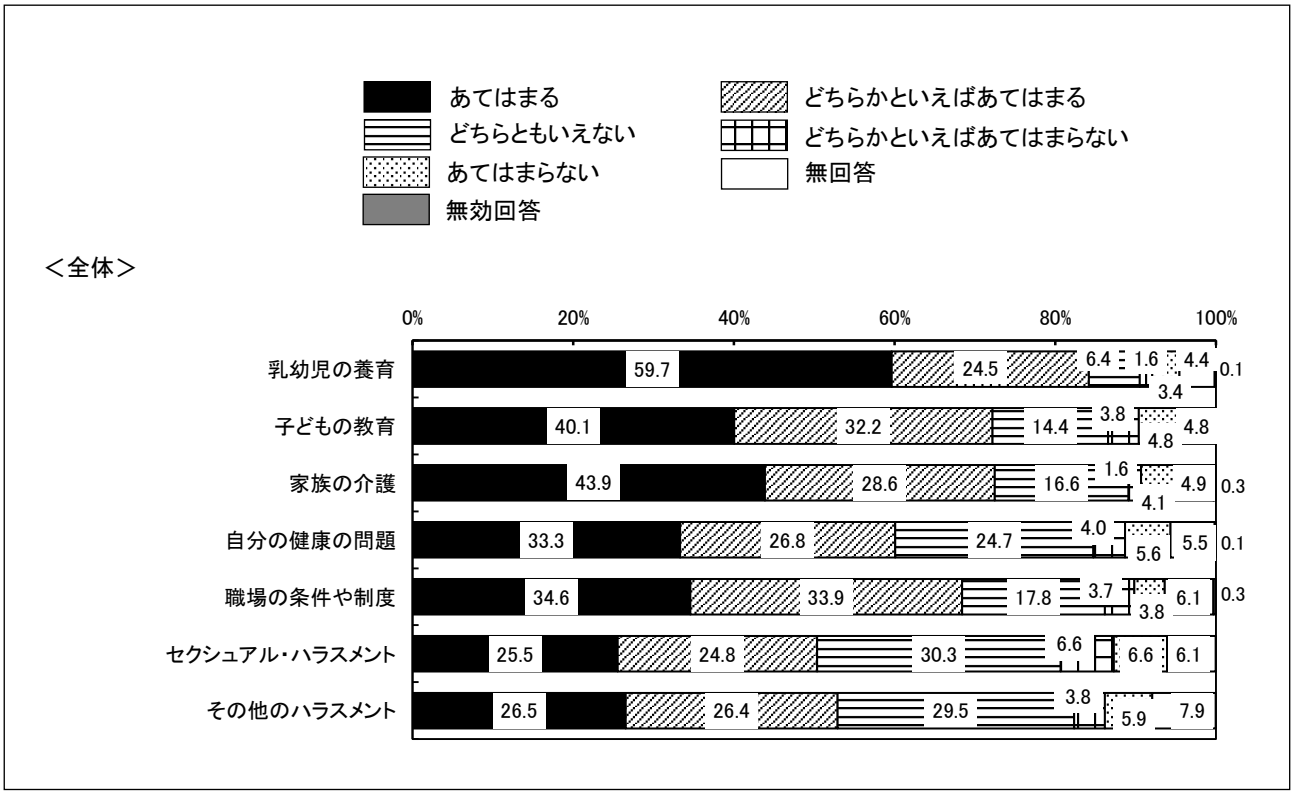
性別にみると、「結婚、出産にかかわらず仕事を続けた方がよい」の割合が女性では 57.5％で女性の方が 0.8 ポイント高い。

性・年齢別にみると、「結婚、出産にかかわらず仕事を続けた方がよい」の割合が 18～19 歳男性（83.3％）で最も高く、また男女差が大きい。

② 女性の就業継続における障害

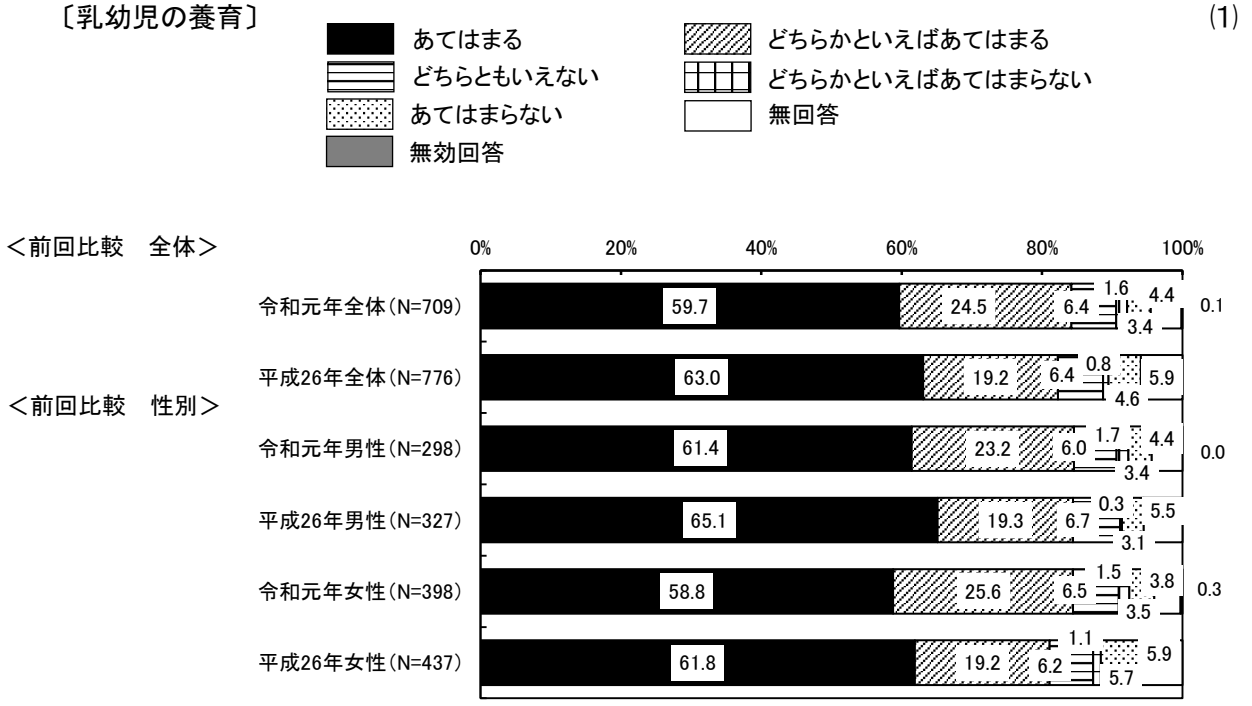
問 16 女性が仕事を続けていく上での支障としてどのようなことがあると思いますか。

（(1)～(7)について○は 1 つずつ）



7つの項目のうち、“女性が仕事を続けていく上での支障”に「あてはまる」または「どちらかといえばあてはまる」の割合は“乳幼児の養育”（84.2％）が最も高く、次が“家族の介護”（72.5％）で、“子どもの教育”（72.3％）である。

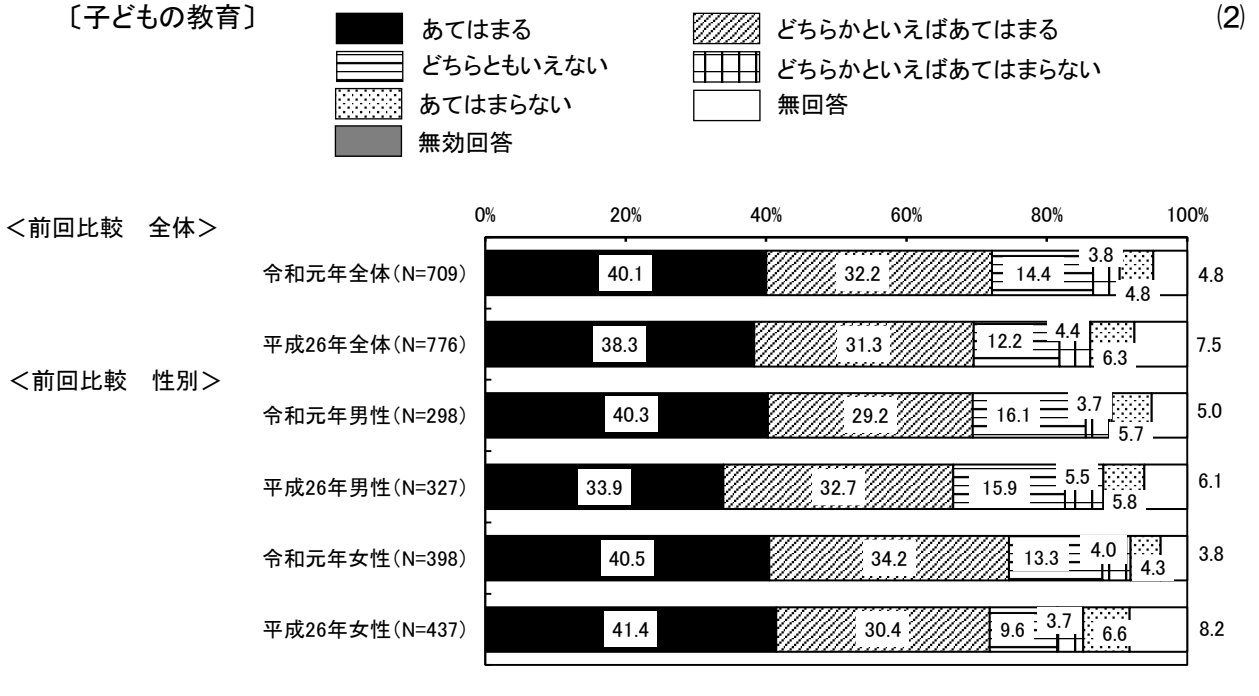
〔乳幼児の養育〕 (1)



前回調査と比べると、「あてはまる」または「どちらかといえばあてはまる」の割合が 2 ポイント高くなり、「どちらかといえばあてはまらない」または「あてはまらない」の割合が 0.4 ポイント低くなっている。

性別にみると、「あてはまる」または「どちらかといえばあてはまる」の割合が男性では 84.6%で男性の方が 0.2 ポイント高い。

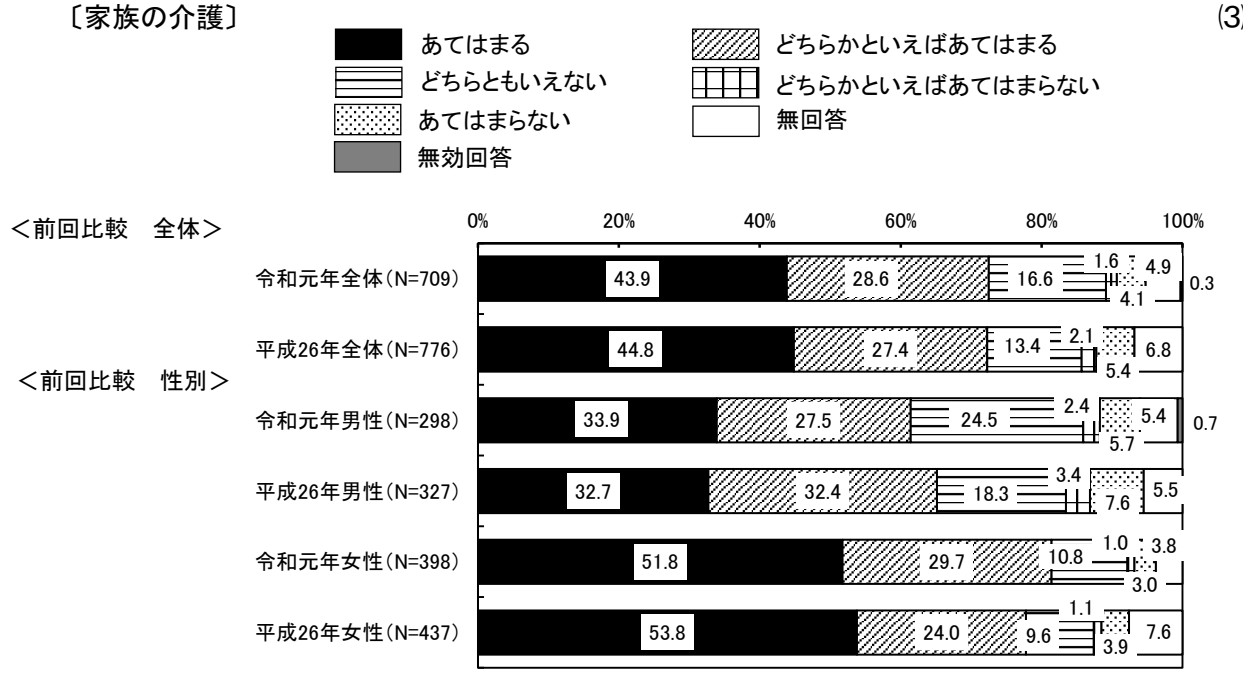
〔子どもの教育〕 (2)



前回調査と比べると、「あてはまる」または「どちらかといえばあてはまる」の割合が 2.7 ポイント高くなり、「どちらかといえばあてはまらない」または「あてはまらない」の割合が 2.1 ポイント低くなっている。

性別にみると、「あてはまる」または「どちらかといえばあてはまる」の割合が女性では 74.7%で女性の方が 5.2 ポイント高い。

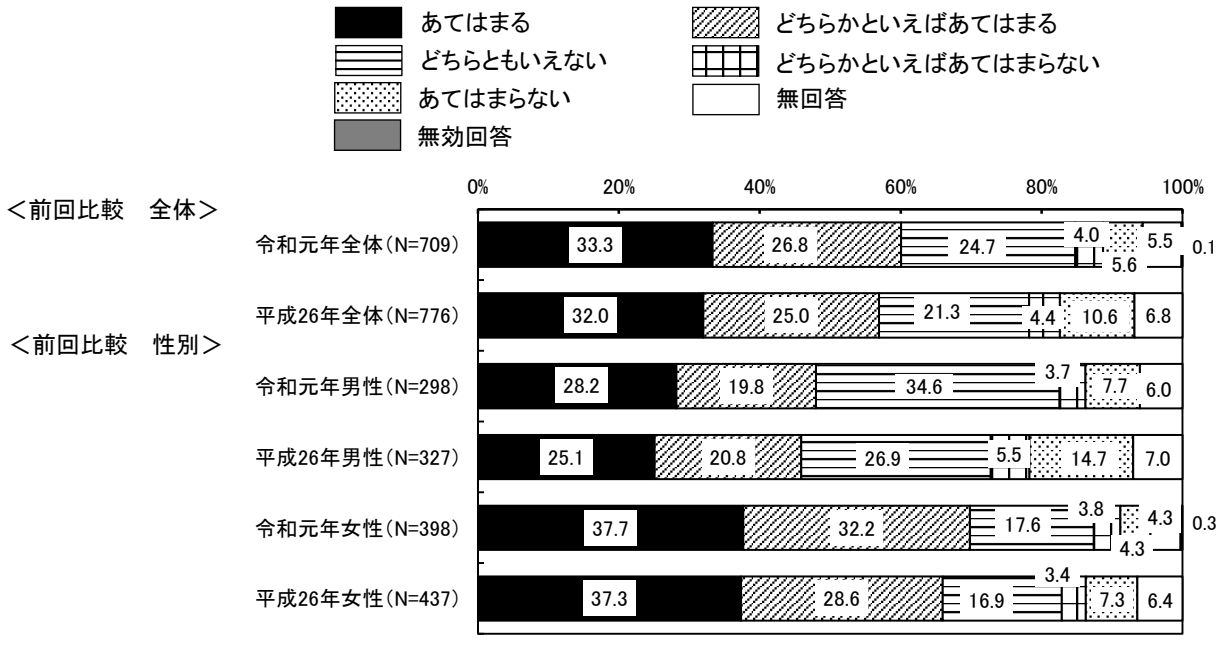
〔家族の介護〕 (3)



前回調査と比べると、「あてはまる」または「どちらかといえばあてはまる」の割合が 0.3 ポイント高くなり、「どちらかといえばあてはまらない」または「あてはまらない」の割合が 1.8 ポイント低くなっている。

性別にみると、「あてはまる」または「どちらかといえばあてはまる」の割合が女性では 81.5%で女性の方が 20.1 ポイント高い。

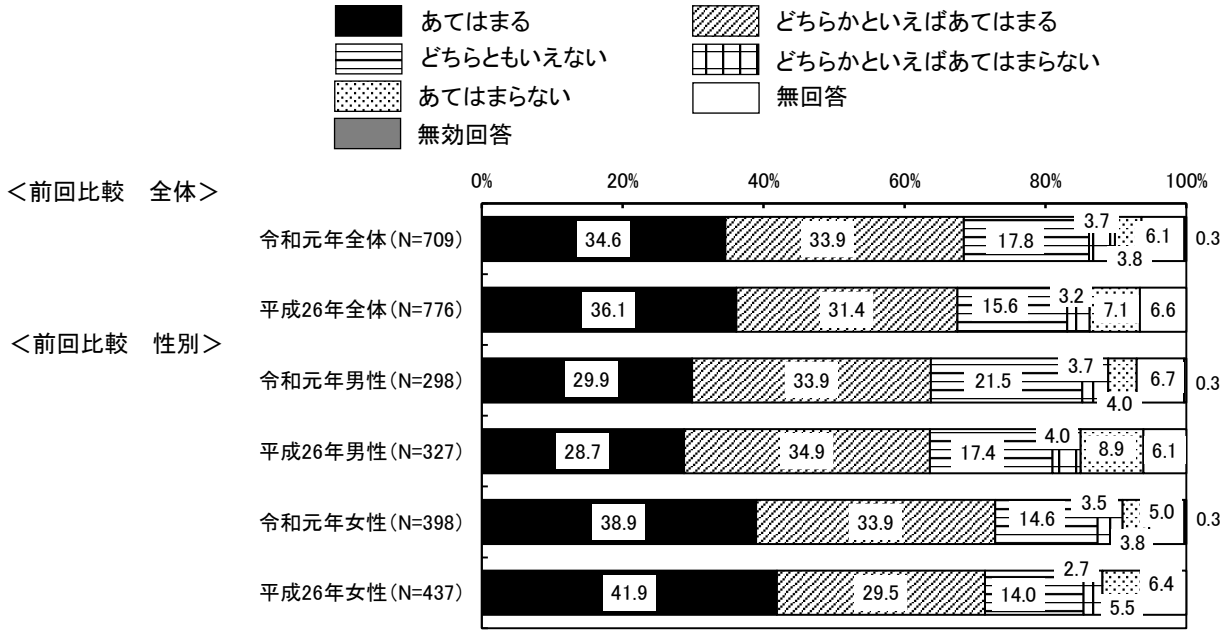
〔自分の健康の問題〕 (4)



前回調査と比べると、「あてはまる」または「どちらかといえばあてはまる」の割合が 3.1 ポイント高くなり、「どちらかといえばあてはまらない」または「あてはまらない」の割合が 5.4 ポイント低くなっている。

性別にみると、「あてはまる」または「どちらかといえばあてはまる」の割合が女性では 69.9%で女性の方が 21.9 ポイント高い。

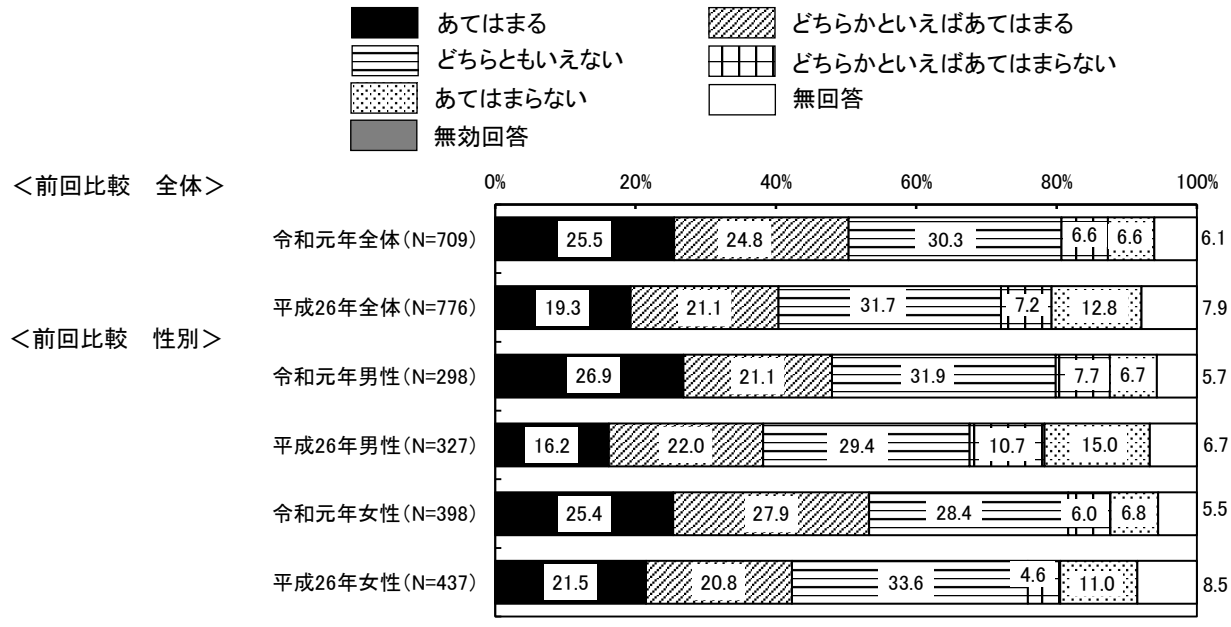
〔職場の条件や制度〕 (5)



前回調査と比べると、「あてはまる」または「どちらかといえばあてはまる」の割合が 1.0 ポイント高くなり、「どちらかといえばあてはまらない」または「あてはまらない」の割合が 2.8 ポイント低くなっている。

性別にみると、「あてはまる」または「どちらかといえばあてはまる」の割合が女性では 72.8%で女性の方が 9.0 ポイント高い。

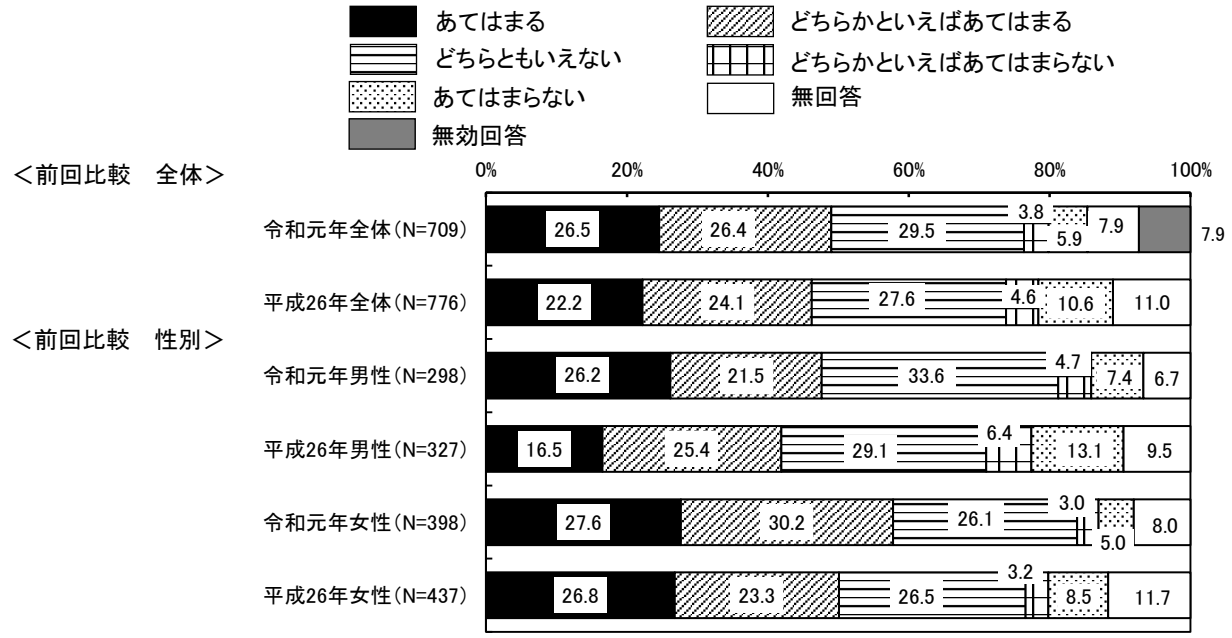
〔セクシュアル・ハラスメント〕 (6)



前回調査と比べると、「あてはまる」または「どちらかといえばあてはまる」の割合が 9.9 ポイント高くなり、「どちらかといえばあてはまらない」または「あてはまらない」の割合が 6.8 ポイント低くなっている。

性別にみると、「どちらかといえばあてはまらない」または「あてはまらない」の割合が男性では 14.4%で男性の方が 1.6 ポイント高い。

〔その他のハラスメント〕 (7)



前回調査と比べると、「あてはまる」または「どちらかといえばあてはまる」の割合が 6.6 ポイント高くなり、「どちらかといえばあてはまらない」または「あてはまらない」の割合が 5.5 ポイント低くなっている。

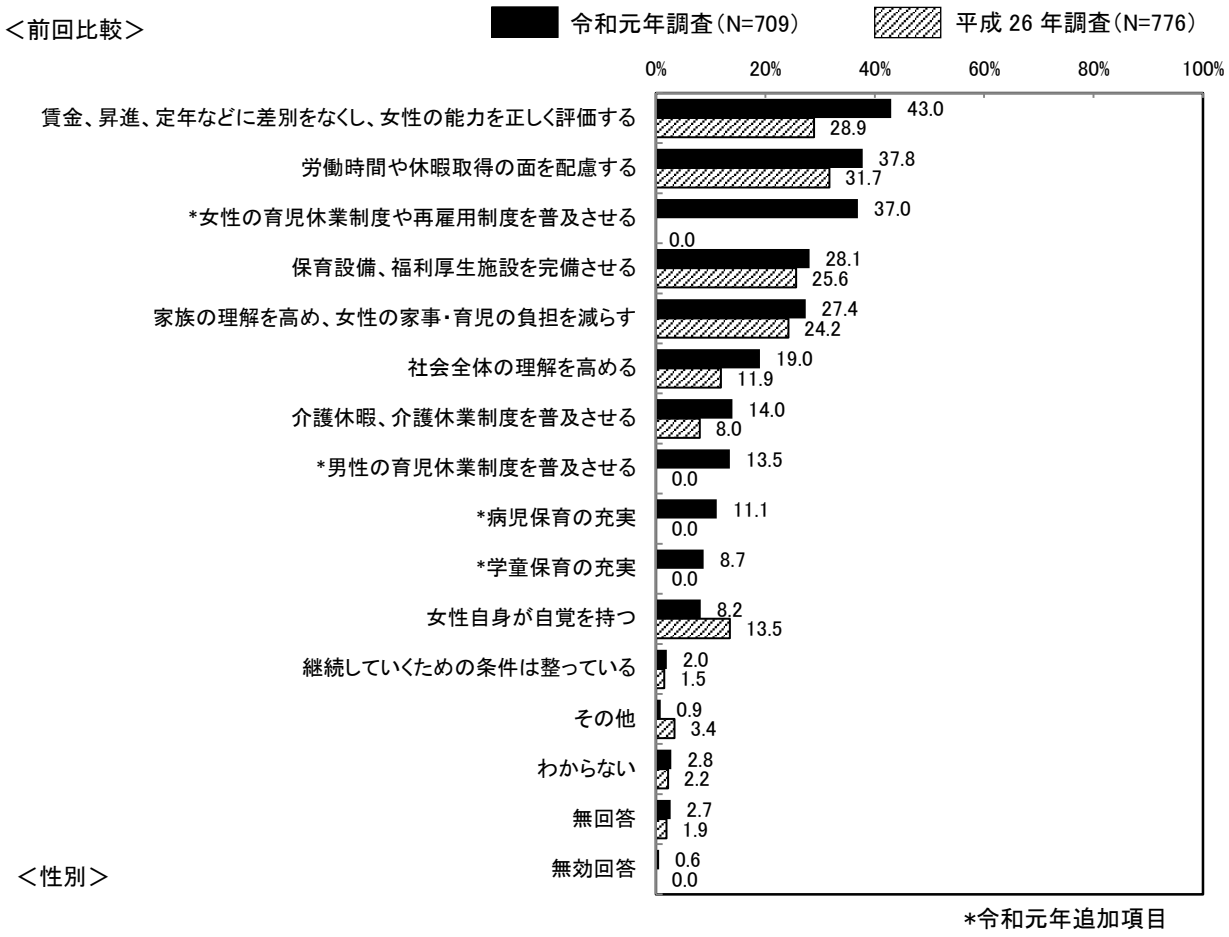
性別にみると、「あてはまる」または「どちらかといえばあてはまる」の割合が女性では 57.8％で女性の方が 10.1 ポイント高い。

③ 女性の就業継続のための条件

問 17　女性が仕事を継続していくためにはどのようにすればよいとお考えですか。

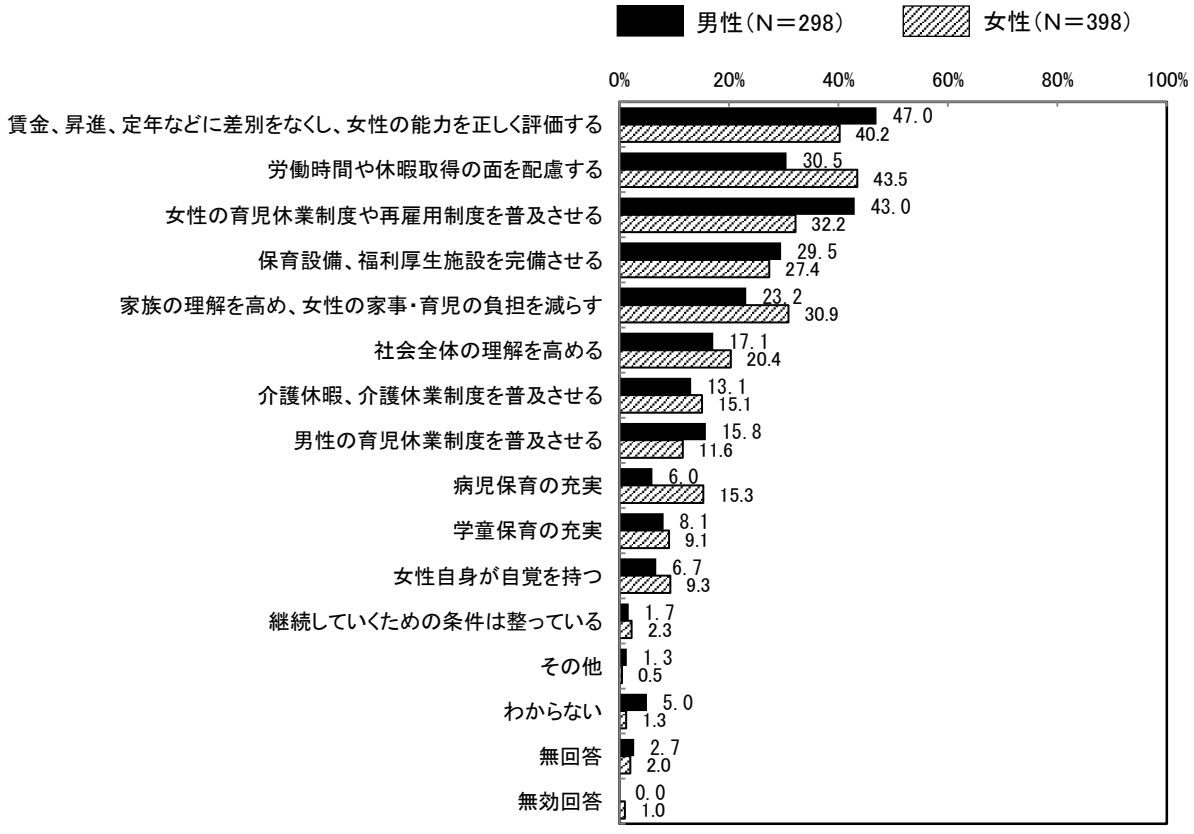
（〇は 3 つ以内）

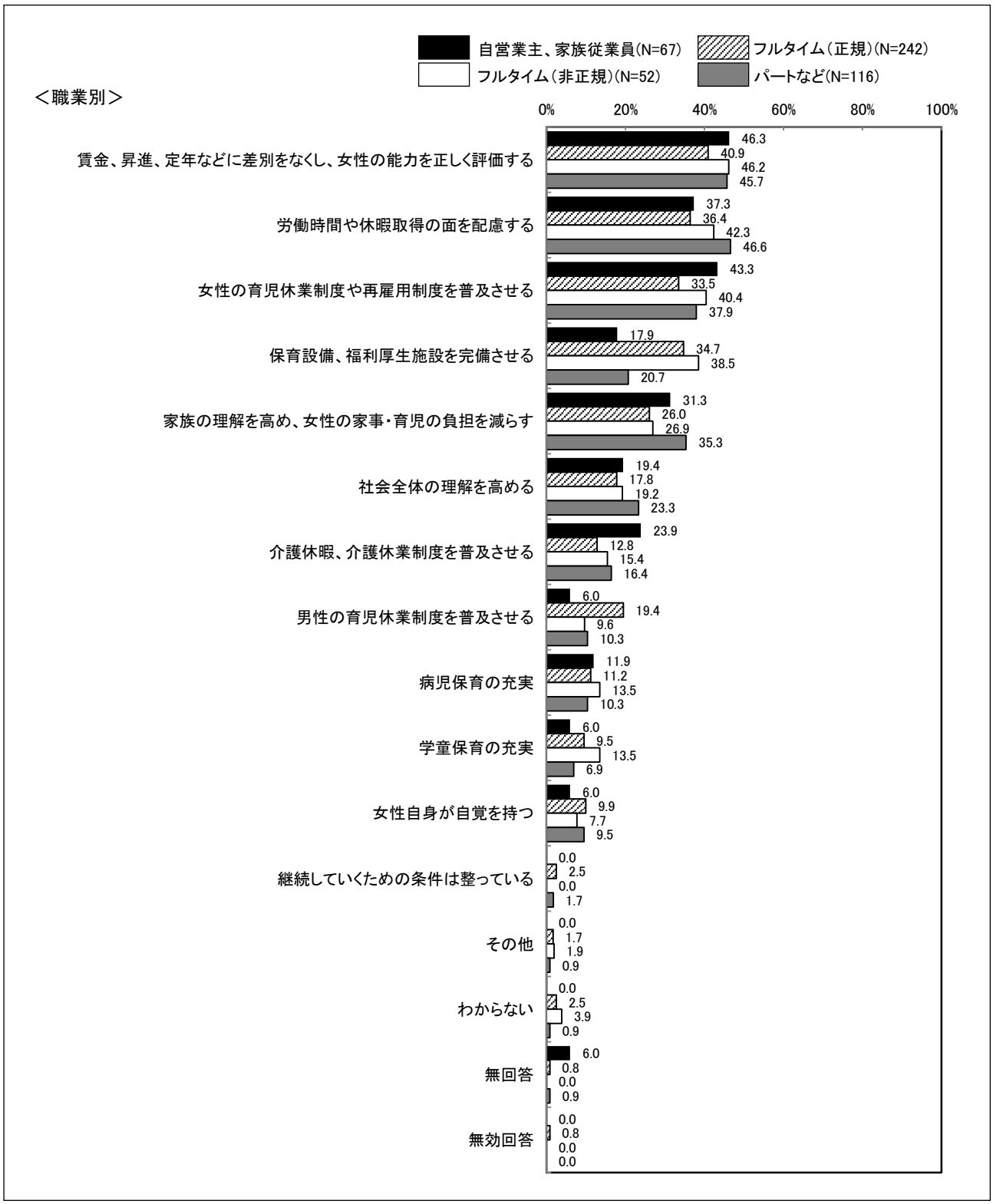
＜前回比較＞



*令和元年追加項目

＜性別＞





全体では「賃金、昇進、定年などに差別をなくし、女性の能力を正しく評価する」が 43.0%で最も高く、次に「労働時間や休暇取得の面を配慮する」が 37.8%で、「女性の育児休業制度や再雇用制度を普及させる」が 37.0%である。

前回調査と比べると、「賃金、昇進、定年などに差別をなくし、女性の能力を正しく評価する」は 14.1 ポイント高くなり、「女性自身が自覚を持つ」は 5.3 ポイント低くなっている。

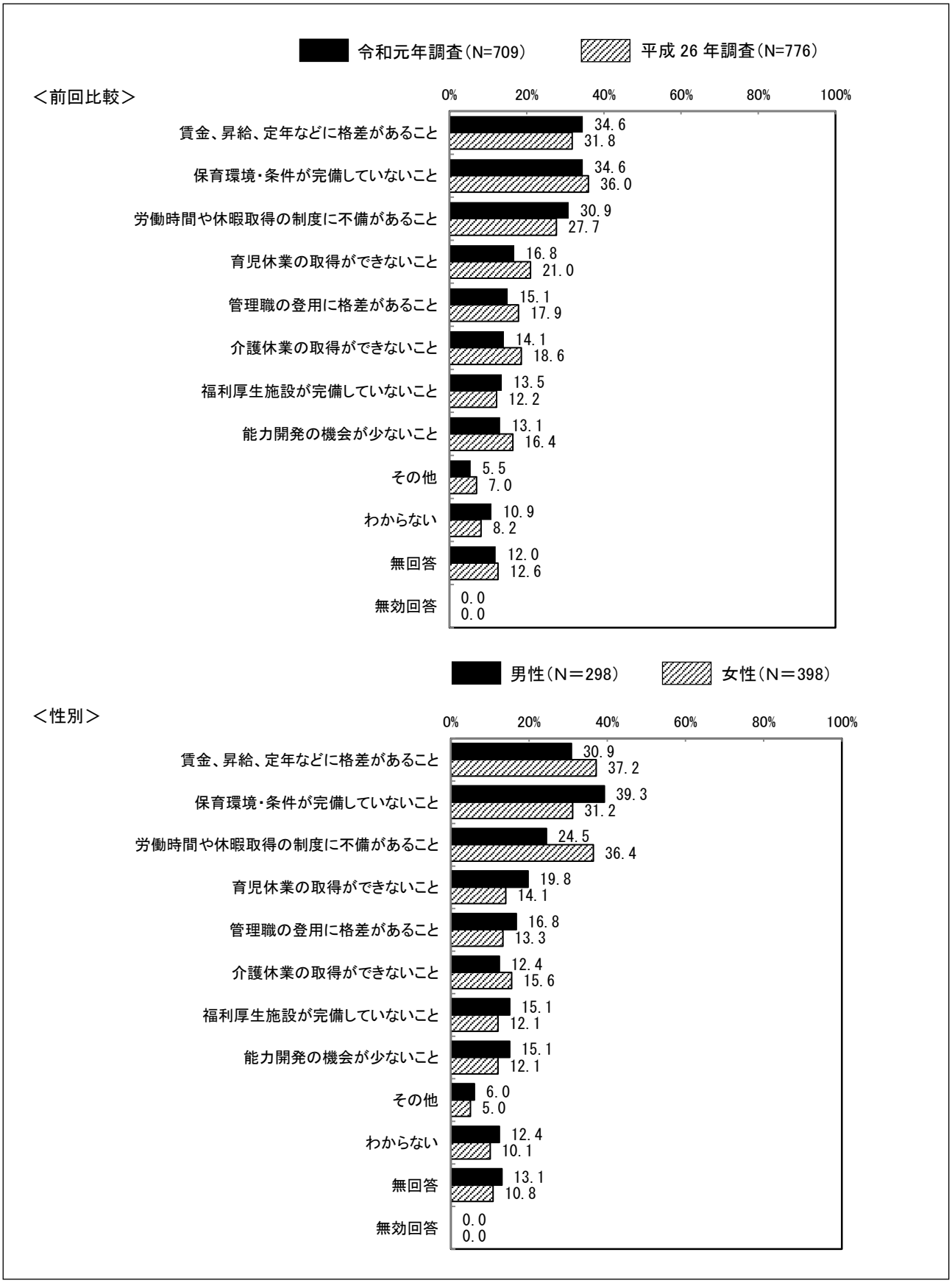
性別にみると、「賃金、昇進、定年などに差別をなくし、女性の能力を正しく評価する」の割合が男性では 47.0%で男性の方が 6.8 ポイント高い。

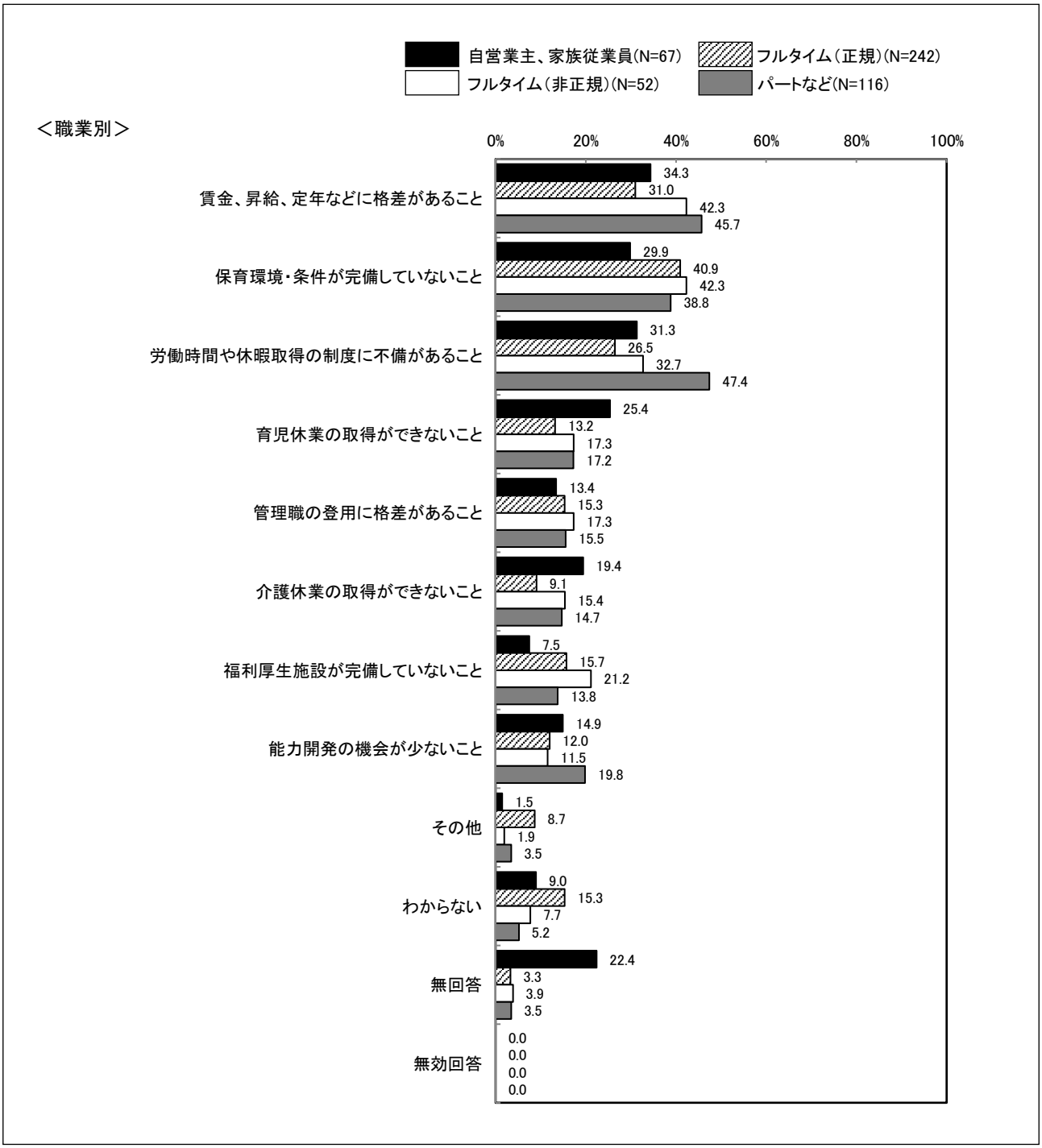
職業別にみると、フルタイムの勤め人(非正規)では「賃金、昇進、定年などに差別をなくし、女性の能力を正しく評価する」の割合が最も高く、フルタイムの勤め人(非正規)以外では「労働時間や休暇取得の面を配慮する」の割合が最も高い。

（2） 女性をとりまく労働環境

① 女性に不利な労働条件

問 18 「就労中の方」または「就労した経験がある方」におたずねします。
女性が仕事を続ける上で不利だと思われることは何ですか。
（あてはまるものすべてに○）





全体では「賃金、昇給、定年などに格差があること」「保育環境・条件が完備していないこと」がともに 34.6%で最も高く、次に「労働時間や休暇取得の制度に不備があること」が 30.9%で、「育児休業の取得ができないこと」が 16.8%である。

前回調査と比べると、「賃金、昇給、定年などに格差があること」の割合が 2.8 ポイント高くなっている。

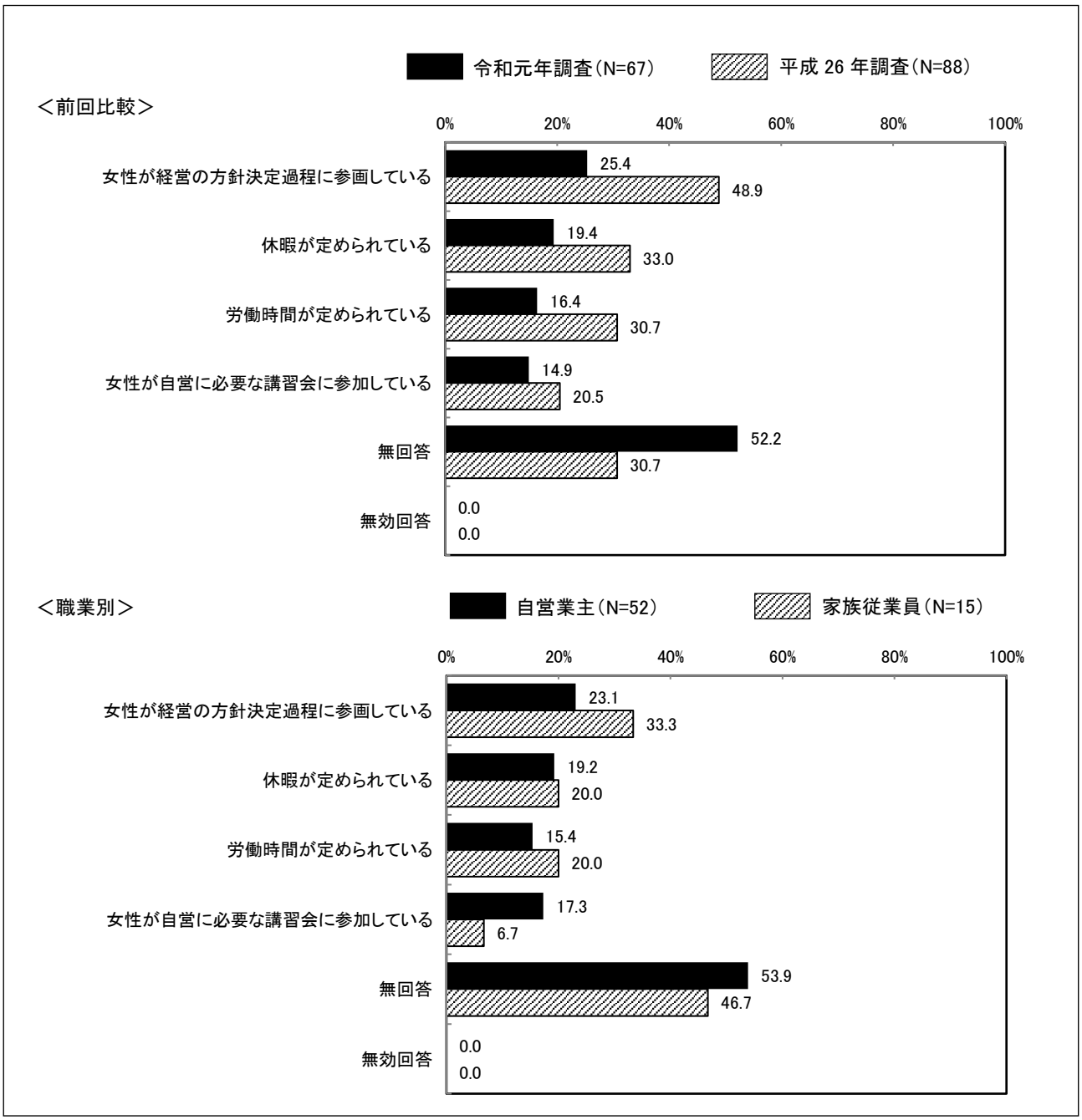
性別にみると、「賃金、昇給、定年などに格差があること」の割合が女性では 37.2%で女性の方が 6.3 ポイント高い。

職業別にみると、パートタイムの勤め人では「労働時間や休暇取得の制度に不備があること」の割合が最も高く、パートタイムの勤め人以外では「賃金、昇給、定年などに格差があること」「保育環境・条件が完備していないこと」の割合が最も高い。

② 自営業の労働環境

問 19 「自営業主の方」または「家族従業員の方」におたずねします。

現在の職場はどのような状況ですか。（あてはまるものすべてに〇）



全体では「無回答」が 52.2%で最も高く、次に「女性が経営の方針決定過程に参画している」が 25.4%で、「休暇が定められている」が 19.4%である。

前回調査と比べると、「女性が経営の方針決定過程に参画している」の割合が 23.5 ポイント低くなり、「休暇が定められている」の割合が 13.6 ポイント低くなっている。

職業別にみると、「女性が自営に必要な講習会に参加している」の割合が自営業主の方が高い。